

岐阜県文化財保護センター
調査報告書 第133集

北方京水遺跡

2015

岐阜県文化財保護センター

きた がた きょう ずい
北 方 京 水 遺 跡

2015

岐阜県文化財保護センター



A地区（北から）



B地区第2面（北東から）



SR1 (水制遺構)



SM1 (B地区1面東西方向の大畦畔)



SM3 (B地区1面南北方向の大畦畔)

序

大垣市は、木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）により形成された、わが国有数の平野である濃尾平野上に位置しています。市の内外には、大小の河川が流れ、古くから「水の都」と呼ばれる、地下水が豊富な地域です。大垣市には美濃国分寺、西の垂井町には美濃国府、関ヶ原町には不破の関と、この辺りは古代を通じて重要な地域であったと言えます。

このたび、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所による東海環状自動車道（大垣西 I C～大野神戸 I C）建設事業に伴い、大垣市北方町に所在する北方京水遺跡の発掘調査を平成 25 年度に実施しました。北方京水遺跡は、大垣市の北東部に位置する中世を主とする遺跡です。

今回の発掘調査では、鎌倉時代の溝跡や柱穴、水田遺構、水制遺構などが確認されました。鎌倉時代の水田跡からは、約 5 m の幅をもつ東西方向の大畦畔と、坪境に位置する南北方向の大畦畔を検出し、条里の区画に分けられた小区画水田を複数確認しました。東西方向の大畦畔は、条界に位置する大畦畔である可能性が考えられます。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、大垣市教育委員会、地元地区の皆様深く感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月

岐阜県文化財保護センター
所長 宮田 敏光

例言

- 1 本書は、岐阜県大垣市北方町に所在する北方京水遺跡（岐阜県遺跡番号 21202-8544）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、東海環状自動車道（大垣西 I C～大野神戸 I C）建設事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 宇野隆夫帝塚山大学教授の指導のもとに、発掘調査は平成 25 年度に、整理作業は平成 26 年度に実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当は、本書第 1 章第 2 節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆は、第 1 章第 2 節を鷺見博史、第 3 章第 4 節・第 5 節を鷺見の所見をもとに笠井慎吾、それ以外を笠井が行った。また、編集は笠井が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観撮影などの業務と、出土遺物の洗浄・注記、整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などは、株式会社イビソクに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 花粉分析及びプラント・オパール分析、鉄滓成分分析の各分析は株式会社パレオ・ラボ、木製品の樹種同定分析は株式会社パレオ・ラボと株式会社文化財サービスに委託して行い、第 4 章に掲載した。執筆は株式会社パレオ・ラボと株式会社文化財サービスによる結果をもとに笠井が行った。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）
鈴木元、説田健一、竹谷勝也、中井正幸、長屋幸二、八賀晋、藤澤良祐、渡邊博人
大垣市教育委員会
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用している。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2006『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目 次

巻頭図版

序

例言

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	4
第2章 遺跡の環境	9
第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	10
第3章 調査の成果	13
第1節 基本層序	13
第2節 遺構概要	14
第3節 遺物概要	20
第4節 A地区の遺構・遺物	24
第5節 B地区の遺構・遺物	40
遺構全体図分割図、遺構一覧、遺物観察表	
第4章 自然科学分析	111
第1節 分析の概要	111
第2節 花粉分析とプラント・オパール分析	111
第3節 木製品の樹種同定	123
第4節 鉄滓成分分析	133
第5章 総括	135
第1節 遺物・遺構から見る遺跡のまとめ	135
第2節 遺跡周辺の条里地割についての一考察	141
参考文献	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

図1 遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	図49 SR1 遺構図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
図2 発掘区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	図50 SR1 遺構図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
図3 試掘調査坑位置図・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	図51 SR1 遺構図(3)・SR1 番申出土状況図・・・・ 64
図4 グリッド設定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5	図52 SR1 出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
図5 遺跡周辺の地質略図・・・・・・・・・・・・・・・・ 9	図53 SR1 出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
図6 周辺遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12	図54 SR2-1・SR2-2 遺構図・・・・・・・・・・・・ 68
図7 基本層序模式図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13	図55 SR2 遺構図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
図8 B地区(南)北壁土層断面図・・・・・・・・・・ 14	図56 SR2 遺構図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
図9 B地区(南)南壁土層断面図・・・・・・・・・・ 15	図57 SR2 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
図10 B地区(北)中央土層断面図・・・・・・・・・・ 16	図58 B地区(北)第2面水田遺構図・・・・・・・・・・ 73
図11 遺構断面の形状模式図・・・・・・・・・・・・ 17	図59 B地区(南)第2面水田遺構図、SN51・SN59 出土遺物・ 74
図12 第1面遺構全体図・・・・・・・・・・・・・・・・ 18	図60 SM5 遺構図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
図13 第2面遺構全体図・・・・・・・・・・・・・・・・ 19	図61 SM5 遺構図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
図14 木製品細部分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22	図62 SN39・SN48・SN53・SN55 遺構図・・・・・・・・ 77
図15 A地区包含層出土遺物・・・・・・・・・・・・ 24	図63 SN38・SN42・SN47 遺構図・・・・・・・・・・・・ 78
図16 SD24・SD25 遺構図・・・・・・・・・・・・・・ 25	図64 SN46・SN47・SN48・SN51・SN52 遺構図・・・・ 79
図17 SD26・SD28 遺構図、出土遺物・・・・・・・・ 27	図65 SN52・SN53・SN55 遺構図・・・・・・・・・・・・ 80
図18 SD30・SD32 遺構図、出土遺物・・・・・・・・ 28	図66 B地区第2面足跡検出状況図・・・・・・・・・・ 81
図19 SD33・SD35 遺構図、出土遺物・・・・・・・・ 30	図67 SN51・SN60 遺構図・・・・・・・・・・・・・・ 82
図20 SD36 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31	図68 SN35・SX1・SD66 遺構図・・・・・・・・・・・・ 83
図21 SD36 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32	図69 遺構全体図割付図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
図22 SD37 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32	図70 第1面遺構全体図分割図1・・・・・・・・・・・・ 86
図23 SK05・SK25 遺構図、出土遺物・・・・・・・・ 33	図71 第1面遺構全体図分割図2・・・・・・・・・・・・ 87
図24 SK42・SK43 遺構図、出土遺物・・・・・・・・ 34	図72 第1面遺構全体図分割図3・・・・・・・・・・・・ 88
図25 SK44 遺構図、出土遺物・・・・・・・・・・・・ 35	図73 第1面遺構全体図分割図4・・・・・・・・・・・・ 89
図26 SK45 遺構図、出土遺物・・・・・・・・・・・・ 36	図74 第1面遺構全体図分割図5・・・・・・・・・・・・ 90
図27 SK46 遺構図、出土遺物・・・・・・・・・・・・ 37	図75 第1面遺構全体図分割図6・・・・・・・・・・・・ 91
図28 SK48 遺構図、出土遺物・・・・・・・・・・・・ 38	図76 第1面遺構全体図分割図7・・・・・・・・・・・・ 92
図29 SP1～SP4 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・ 39	図77 第1面遺構全体図分割図8・・・・・・・・・・・・ 93
図30 B地区包含層出土遺物(1)・・・・・・・・・・ 41	図78 第1面遺構全体図分割図9・・・・・・・・・・・・ 94
図31 B地区包含層出土遺物(2)・・・・・・・・・・ 42	図79 第2面遺構全体図分割図1・・・・・・・・・・・・ 95
図32 B地区第1面水田遺構図、SN16・SN26 出土遺物・ 44	図80 第2面遺構全体図分割図2・・・・・・・・・・・・ 96
図33 SM1(大畦畔)・SM3 遺構図・・・・・・・・・・ 45	図81 第2面遺構全体図分割図3・・・・・・・・・・・・ 97
図34 SM2・SN04・SN19 遺構図・・・・・・・・・・ 46	図82 第2面遺構全体図分割図4・・・・・・・・・・・・ 98
図35 SN15・SN19・SN21 遺構図・・・・・・・・・・ 47	図83 第2面遺構全体図分割図5・・・・・・・・・・・・ 99
図36 SN03・SN08・SN15・SN18・SN23 遺構図・・・・ 48	図84 第2面遺構全体図分割図6・・・・・・・・・・・・ 100
図37 B地区(南)第1面足跡検出状況図・・・・・・・・ 49	図85 北方京水遺跡の土層模式図・・・・・・・・・・ 112
図38 SN10・SN11・SN13 遺構図・・・・・・・・・・ 50	図86 試料採取位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
図39 SN15・SN16・SN21 遺構図・・・・・・・・・・ 51	図87 北方京水遺跡における花粉分布図・・・・・・・・ 118
図40 SN08 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52	図88 III層における樹木花粉と草本花粉・苞子の割合を示す分布図・・・・ 119
図41 SD38 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53	図89 III層における主要樹木花粉の分布図・・・・・・・・ 119
図42 SD39 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54	図90 III層における主要草本花粉の分布図・・・・・・・・ 119
図43 SR1・SR2 全体図・・・・・・・・・・・・・・・・ 56	図91 V層における樹木花粉と草本花粉・苞子の割合を示す分布図・・・・ 120
図44 SR1-1 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57	図92 V層における主要樹木花粉の分布図・・・・・・・・ 120
図45 SR1-2 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58	図93 V層における主要草本花粉の分布図・・・・・・・・ 120
図46 SR1-3 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59	図94 北方京水遺跡における植物珪酸体分布図・・・・ 121
図47 SR1-4 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60	図95 EDS分析スペクトル・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
図48 SR1-5 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61	図96 北方京水遺跡と曾根八千町遺跡の土器組成・・・・ 136

図97	A地区山茶碗出土分布図	137
図98	A地区灰釉陶器出土分布図	137
図99	A地区土師器皿出土分布図	138
図100	第1面・第2面小区画水田標高分布図	140

図101	1948年における免振区周辺の土地利用状況	143
図102	坪城大陸坪位置図(1)	144
図103	坪城大陸坪位置図(2)	145
図104	北方京水道跡周辺の条里地割推定図	146

表目次

表1	北方京水道跡周辺の試掘確認調査結果	3
表2	周辺遺構一覧	11
表3	遺構数一覧	15
表4	出土遺物点数一覧	20
表5	水制遺構(SR1・SR2)構成材の木取り	22
表6	水制遺構(SR1・SR2)構成材の先端形状・加工状況	22
表7	編年対応表	23
表8	A地区包含層出土遺物数一覧	24
表9	A地区遺構数一覧	25
表10	B地区包含層出土遺物数一覧	40
表11	B地区第1面遺構数一覧	43
表12	B地区第2面遺構数一覧	72
表13	遺構別遺物出土点数	101
表14	ピット・土坑一覧	102
表15	溝・水制遺構・流路一覧(1)	103
表16	溝・水制遺構・流路一覧(2)	104
表17	水田遺構一覧(1)	104
表18	水田遺構一覧(2)	105
表19	土器観察表(1)	106
表20	土器観察表(2)	107

表21	土器観察表(3)	108
表22	土器観察表(4)	109
表23	土錘観察表	109
表24	石器観察表	109
表25	金属製品観察表	109
表26	木製品観察表	110
表27	分析試料一覧	112
表28	試料1g当たりのプラント・オパール個数	116
表29	産出花粉・胞子一覧	117
表30	北方京水道跡出土木材の樹種同定結果	126
表31	北方京水道跡出土木材の樹種同定結果一覧	127
表32	分析対象	133
表33	蛍光X線分析による判定量値	133
表34	EDS分析結果	133
表35	山茶碗煤付着状況	136
表36	北方京水道跡と曾根八千町遺跡の土器組成集計	136
表37	A地区山茶碗出土点数集計	137
表38	A地区灰釉陶器出土点数集計	137
表39	A地区土師器皿出土点数集計	138

挿入写真目次

写真1	A地区調査前風景	8
写真2	B地区調査前風景	8
写真3	A地区表土掘削	8
写真4	A地区包含層掘削	8
写真5	A地区遺構掘削	8
写真6	B地区SR1調査風景	8
写真7	B地区SR1杭実測作業	8
写真8	ラジョンヘリ景観写真撮影	8
写真9	A地区調査区	8

写真10	各地点の試料採取層準	113
写真11	北方京水道跡から産出した花粉化石	114
写真12	北方京水道跡から産出した植物珪酸体	115
写真13	北方京水道跡出土木材の光学顕微鏡写真(1)	129
写真14	北方京水道跡出土木材の光学顕微鏡写真(2)	130
写真15	北方京水道跡出土木材の光学顕微鏡写真(3)	131
写真16	北方京水道跡出土木材の光学顕微鏡写真(4)	132
写真17	採取部位(1)とSEM反射電子像(2・3)	134

写真図版目次

図版1	遺跡遠景
図版2	A地区遺構(1)
図版3	A地区遺構(2)
図版4	A地区遺構(3)
図版5	A地区遺構(4)
図版6	B地区1面遺構(1)
図版7	B地区1面遺構(2)
図版8	B地区1面遺構(3)・2面遺構(1)

図版9	B地区2面遺構(2)
図版10	B地区2面遺構(3)
図版11	B地区水制遺構(1)
図版12	B地区水制遺構(2)
図版13	B地区水制遺構(3)
図版14	出土遺物:A地区包含層・遺構
図版15	出土遺物:A地区遺構

図版16	出土遺物:A地区遺構
図版17	出土遺物:B地区包含層
図版18	出土遺物:B地区包含層
図版19	出土遺物:B地区包含層
図版20	出土遺物:B地区包含層
図版21	出土遺物:B地区包含層・遺構
図版22	出土遺物:木製品・金属製品

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

北方京水遺跡は、大垣市北方町に所在する(図1・2)。この遺跡は、平成2年度(1990)に大垣市教育委員会の分布調査で確認された古代から中世を中心とした遺跡である。特別養護老人施設建設に伴い、大垣市教育委員会が平成15(2003)年1月に試掘調査を、同年2月に確認調査を実施し、12世紀後半～13世紀を中心とした集落跡と考えられる遺構や遺物を確認した(大垣市教育委員会2004)。さらに、特別養護介護施設建設に伴い、大垣市教育委員会が平成22年2月に試掘調査を行い、調査地は集落等の立地する微高地周辺部の低地に位置すると判断した(大垣市教育委員会2012)。

北方京水遺跡及びその周辺において、東海環状自動車道が計画された。東海環状自動車道は、東名・名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道などを、環状にネットワーク化することを目的とし、鋭意建設が進められている自動車専用道路である。

この事業に伴う北方京水遺跡の試掘確認調査は、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所(以下「岐阜国道事務所」という。)からの依頼により、平成22年度から24年度にかけて岐阜県教育委員会が実施した。平成22年度の調査では、試掘調査坑が12箇所設定され、このうち4箇所の試掘調査坑において砂層に覆われた粘質土層が2面あり、洪水砂層により埋没した水田跡が確認された。平成24年度の調査では、試掘調査坑が3箇所設定された。そのうち東側に位置する24TP1・24TP2では、土坑や溝跡などの遺構や中世の遺物が出土し、大垣市教育委員会が平成15(2003)年に行った調査と同様の状況であることを確認するとともに、西側に位置する24TP3では水田跡や溝跡が検出され、遺物包含層から古代の遺物が出土した。また、水田跡が広がる箇所では2面の遺構面が存在することが判明した。

その結果をもとに、平成23年8月25日及び平成25年1月15日に岐阜県教育委員会社会教育文化課は岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会において、2,490㎡について本発掘調査が必要との意見をまとめた。本発掘調査は、平成25年度に2,490㎡を対象に、岐阜県文化財保護センター(以下「センター」という。)が岐阜国道事務所から、東海環状自動車道(大垣西IC～大野神戸IC)に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の依頼により、発掘調査を開始した。その後の詳細設計の変更により、対象面積は2,650㎡となった。

本工事については、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、岐阜国道事務所長から岐阜県教育委員会教育長(以下「県教育長」という。)あて埋蔵文化財発掘の通知(平成25年3月28日付け国部整岐調第51号)が提出され、同法第94条第4項の規定に基づき、県教育長は同事務所長に発掘調査の実施を求める勧告(平成25年4月1日付け社文第4号の7)を通知した。同事務所長は県教育長に発掘調査の実施を依頼した。それを受け、センターは、調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告(平成25年5月29日付け文財セ第71号)を、県教育長に提出した。

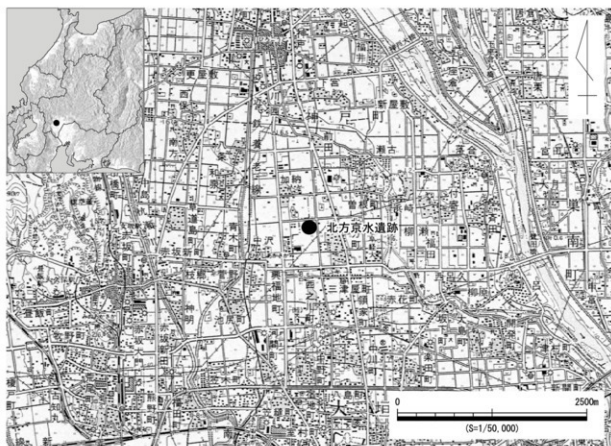


図1 遺跡位置図 (国土地理院発行 1:50,000 地形図「大垣」)

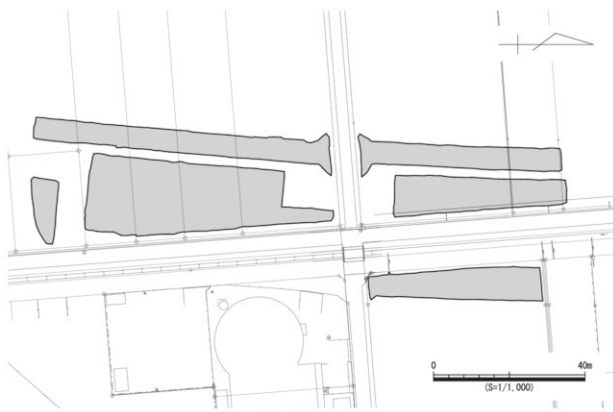


図2 発掘区位置図

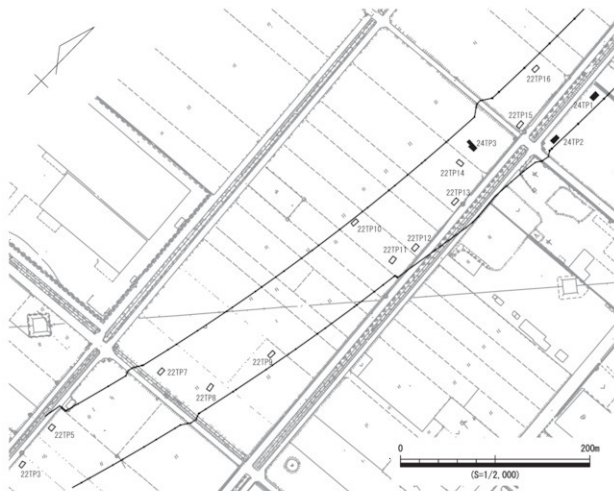


図3 試掘調査坑位置図

表1 北方京水遺跡周辺の試掘確認調査結果

時期	試掘坑	検出遺構	縄文土器	弥生土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	土師器皿	古瀬戸大甕	中近世陶磁器	その他	合計	
平成22年度	T P 03		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 05		0	0	0	0	2	1	0	1	0	4	
	T P 07		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 08		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 09		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 10		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 11		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 12	溝状遺構1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 13	溝状遺構1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 14	畦畔1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 15	畦畔1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	T P 16		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平成24年度	T P 1	溝状遺構1 土坑1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3
		T P 2	溝状遺構1 土坑1	0	1	0	7	10	0	0	5	1	24
		T P 3	溝状遺構1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
			水田遺構1										
合計	溝状遺構5 土坑2 水田遺構1	0	2	4	7	13	1	0	6	1	34		

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘調査は、平成25年度に2,650㎡を実施した。発掘調査対象地は道路建設計画により橋脚や調整池、側道が建設される部分である。

発掘区は、用水路をはさんで東西に分かれるため、用水路東側をA地区、用水路西側をB地区と区分した。遺跡範囲を取り囲むように、世界測地系座標のX=-66700、Y=-50600を原点に一辺100mで区画し(大グリッド)、発掘区が収まるようにA～Cの区画を付した。さらにその中に、5m×5mの小区画を設定し、北から南へAからT、西から東へ1から20とした(図4)。そのため、発掘区の北東隅のグリッドはAI10、南西隅のグリッドはBP20となる。

発掘調査対象地は、調査前には水田として利用されていた場所で、試掘確認調査で調査面がA地区は1面、B地区は2面あることが確認されており、調査初めにA地区では発掘区の東の壁面沿いで、B地区では発掘区の四方の壁面沿いに排水溝を掘削し、土層観察を行った。基本層序は、A地区はI層、III層、IV層、VI層を設定し、I層が表土、III層が遺物包含層、IV層を洪水堆積層と設定した(第3章1節参照)。B地区は、I層からVI層まで設定し、I層とII層が表土、III層が遺物包含層、IV層を洪水堆積層、V層を埋没水田層、VI層を河川堆積層と設定した(第3章1節参照)。なお、発掘調査を実施する中で、必要に応じてa～fを用いて細分した。

A地区は、重機により発掘区内の表土(I層)を除去した。南側は遺物包含層(III層)がなく、Ib層の下が河川堆積面(VI層)になっていたため、Ib層を人力掘削した。北側は判別のできる範囲でIb層とIII層をそれぞれ人力掘削した。その後、VI層上面をA地区調査面として遺構検出作業、遺構掘削作業を実施した。B地区においては、重機により発掘区内の表土(I・II層)を除去した段階で畦畔が確認できたため、遺物包含層(III層)上面をB地区第1調査面として遺構検出作業、遺構掘削作業を実施した。B地区第1調査面終了後、III層と洪水堆積層(IV層)をそれぞれ人力掘削し、下層水田層(V層)をB地区第2調査面として遺構検出作業、遺構掘削作業を実施した。

遺構の調査記録は写真撮影及び手測り実測、デジタル測量を行った。検出した遺構は検出順を原則として番号を付し、二次整理作業時に遺構種別番号を設けた。遺物包含層から出土した遺物は、層位・グリッド単位、遺構から出土した遺物は、遺構内を概ね5cm単位の人工層位もしくは、分層した層位毎に取り上げたが、遺構との関係性が検討できる出土状況のものについては、実測あるいは出土位置を測定して取り上げた。遺物には、取り上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「西暦下二桁とKG(遺跡名略号)」「出土場所(遺構番号又はグリッド番号)」「出土層位」「取上日」「備考」を記入し、この記録をもとに遺物台帳を作成した。遺構番号はSと3桁の数字により表記した(例、S001)。

調査面毎の発掘区全体の景観写真撮影は、A地区第1調査面は高所作業車から撮影し、B地区は第1調査面、第2調査面ともにRCヘリコプターにより撮影した。

発掘区内は湧水が激しく、排水溝を発掘区内に掘削して常時ポンプによる排水を行う必要があった。排土は、発掘区そばの建設用地内に仮置きしたのち、事務所北の建設用地内排土置き場に運搬した。

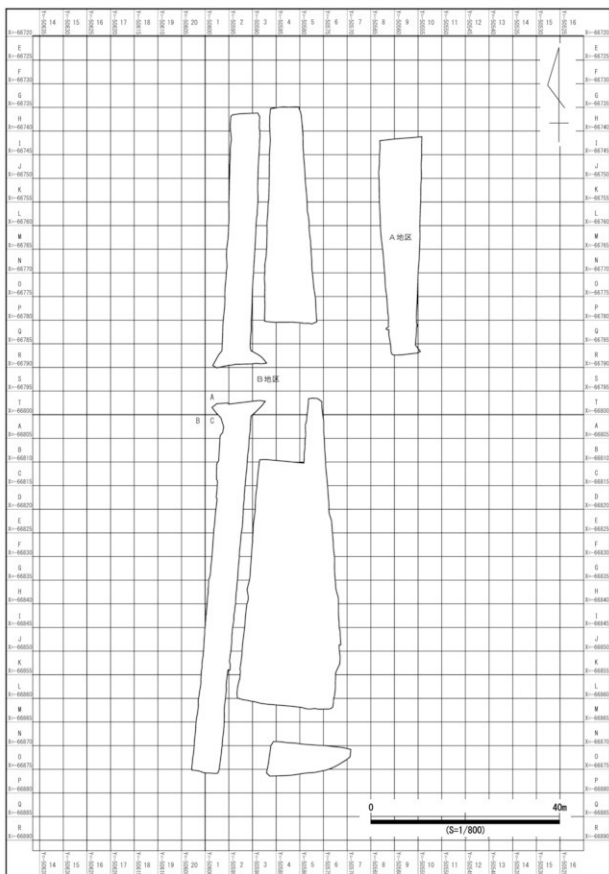


図4 グリッド設定図

6 第1章 調査の経緯

出土遺物の一次整理作業（洗浄及び注記作業、遺物台帳作成）は興福地遺跡と合わせて、北方京水遺跡一次整理所にて実施した。

2 調査の経過

現地での調査経過は以下の通りである。

- 第1週（5/27～5/31）A地区重機による表土掘削（5/27～28）。A地区人力による掘削作業開始。排水溝掘削、ベルトコンベア設置（5/31）。
- 第2週（6/3～6/7）B地区に現代水田への給水のためのコルゲート管設置（6/3）。遺物包含層（Ⅲ層）掘削開始。発掘区東壁面土層断面実測（6/4）。遺構検出作業開始。小土坑や溝状遺構を検出（6/6）。遺構掘削作業開始（6/7）。
- 第3週（6/10～6/14）小土坑SK25から山茶碗の大破片が出土（6/10）。
- 第4週（6/17～6/21）遺物包含層掘削、遺構検出作業、遺構掘削作業継続（6/17～18）。降雨により3日連続作業中止（6/19～21）。
- 第5週（6/24～6/28）遺物包含層掘削、遺構検出作業終了（6/28）。
- 第6週（7/1～7/5）遺構掘削作業継続。
- 第7週（7/8～7/12）溝状遺構SD36掘削。土器片が比較的多く出土。A地区調査終了。高所作業車による発掘区全体の写真撮影実施（7/12）。
- 第8週（7/15～7/19）B地区重機による表土掘削。B地区北部から開始（7/16）。
- 第9週（7/22～7/26）B地区北部の表土掘削終了（7/22）。B地区南部の表土掘削開始（7/23）。
- 第10週（7/29～8/2）大雨による発掘区水没のため、表土掘削を一時中断（7/29・30）。水田畦畔の一部を確認する（8/31）。
- 第11週（8/5～8/9）B地区南部の表土掘削終了（8/5）。B地区人力による掘削作業開始（8/6）。大垣市立大垣西中学校生徒1名職場体験実施（8/5・7）。本巣市立本巣小学校児童1名遺跡見学（8/8）。三重大学名誉教授八賀晋氏が来跡し、指導を受ける（8/8）。遺跡調査検討委員会を実施し、第1調査面について検討し、Ⅳ層上面からⅢ層上面に変更する（8/9）。A地区発掘区埋め戻し終了（8/9）。
- 第12週（8/12～8/16）現場作業休止（8/12～16）。
- 第13週（8/19～8/23）B地区北部、Ⅲ層上面での遺構検出作業開始（8/20～）。B地区北部に大畦畔、溝状遺構、土坑を検出（8/22）。
- 第14週（8/26～8/30）遺構掘削作業開始（8/26）。B地区北部の遺構掘削終了（8/28）。
- 第15週（9/2～9/6）ゲリラ豪雨のため発掘区が冠水し、排水のため週末まで作業が不可能となる（9/4）。
- 第16週（9/9～9/13）B地区南部、Ⅲ層上面での遺構検出作業開始（9/9～）。水田小区画の畦畔を検出（9/10）。SN10水田小区画内に鋤溝や足跡を検出（9/13）。
- 第17週（9/16～9/20）台風18号のため、調査区冠水（9/16）。
- 第18週（9/23～9/27）B地区南部検出作業終了。B地区南部は全面に水田小区画（畦畔）を検出（9/25）。SN13・SN15・SN21水田小区画内に足跡を検出。SN8小区画内に鋤溝を検出（9/27）。
- 第19週（9/30～10/4）調査職員2名体制での調査開始（10/1）。コルゲート設置部の調査を開始。人

- 力で表土を掘削開始（10/1）。関連指導調査員大垣市教育委員会鈴木元氏が来跡し、指導を受ける（10/1）。指導調査員帝塚山大学教授宇野隆夫氏が来跡し、指導を受ける（10/3）。
- 第20週（10/7～10/12）コルゲート管設置部の表土掘削終了（10/9）。水田小区画床土上面までの調査終了（10/10）。
- 第21週（10/15～10/18）RCヘリコプターによるB地区第1面景観写真撮影実施（10/15）。B地区第2面調査開始。遺物包含層（Ⅲ）・洪水堆積層（Ⅳ層）掘削開始（10/16）。
- 第22週（10/21～10/25）遺構検出作業を開始（10/22）。水田小区画の畦畔を検出（10/23）。台風27号のため、発掘区冠水（10/25）。
- 第23週（10/28～11/1）水田小区画覆土掘削開始（10/29）。水田小区画内田面に足跡を検出（10/30）。
- 第24週（11/4～11/8）B地区南西部に南北に伸びるやや幅広いの畦畔を検出（11/5）。B地区北部自然流路内杭列（SR2）断ち割り調査開始（11/8）。
- 第25週（11/11～11/15）遺跡調査検討委員会を実施し、第2面の水田跡についての追加調査方法を検討（11/11）。B地区北部自然流路内にSR1水制遺構（堰）を検出（11/12）。株式会社バレオ・ラボによる花粉分析・プラントオパール分析のための試料採取（11/12）。
- 第26週（11/18～11/22）遺跡調査検討委員会を実施し、自然流路内に検出した水制遺構の調査方法を検討。合わせて先行して断ち割っていた杭列についても盛土が確認でき、SR2水制遺構（堰）として調査していくことを確認（11/18）。関連指導調査員大垣市教育委員会鈴木元氏が来跡し、指導を受ける（11/20）。
- 第27週（11/25～11/30）興福地遺跡と合わせ、一次整理作業を開始（11/25）。株式会社バレオ・ラボによる自然科学分析（花粉分析・プラントオパール分析）試料採取（11/27）。指導調査員帝塚山大学教授宇野隆夫氏が来跡し、指導を受ける（11/28）。RCヘリコプターによるB地区第2面景観写真撮影実施（11/30）。
- 第28週（12/2～12/6）追加調査（畦畔断ち割り、田面トレンチ調査）開始（12/2）。南西部南北方向畦畔内に木材検出（12/5）。
- 第29週（12/9～12/13）SR1盛土内から、構築時の祭祀に使用されたと考えられる畜串が出土（12/9）。SN51水田小区画床土上面から鋤溝を検出（12/9）。追加調査（畦畔断ち割り、田面トレンチ調査）終了。SR2調査終了（12/11）。SR1の調査を終了し、全調査を終える（12/13）。
- 第30週（12/16～12/20）一次整理作業終了（12/20）。
- 第31週（12/23～12/28）B地区埋め戻し終了（12/28）。
- 出土遺物の洗浄・注記等の一次整理作業は、興福地遺跡と合わせて11月25日から12月25日までの期間に北方京水遺跡一次整理所で行った。二次整理作業は平成26年度に実施した。



写真1 A地区調査前風景



写真2 B地区調査前風景



写真3 A地区表土掘削



写真4 A地区包含層掘削



写真5 A地区遺構掘削



写真6 B地区SR1調査風景



写真7 B地区SR1杭列実測作業



写真8 ラジコンヘリ景観写真撮影



写真9 A地区調査区

3 調査体制

発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。

センター所長	丸山和彦 (平成25年度)
	宮田敏光 (平成26年度)
総務課長	二宮 隆 (平成25～26年度)
調査課長	成瀬正勝 (平成25～26年度)
調査担当係長	春日井恒 (平成25～26年度)
担当調査職員	鷺見博史 (平成25年度)
	近藤正枝 (平成25年度)
	笠井慎吾 (平成26年度)

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

北方京水遺跡が所在する大垣市は、木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）により形成された濃尾平野の北西部に位置する。濃尾平野はわが国有数の平野であり、その大部分を沖積平野が占める。一般に上流側から、扇状地帯、自然堤防地帯（氾濫原）、三角州地帯に分けられるが、大垣市付近には扇状地、自然堤防と後背湿地、三角州平野の地形が発達している。また、大垣市北西部にはわずかながら段丘も見られる。大垣市の河川は、揖斐川とその支流である平野井川、相川、牧田川などが市域の外周を流れ、市内においては、杭瀬川、水門川、大谷川などが貫流している。そのため、古くから「水の都」と呼ばれるように地下水が豊富な地域で、市内には「がま」と呼ばれる自噴地が多数存在している。

当遺跡は、大垣市の北東部、揖斐川が形成した標高9 m前後の沖積平野に立地する。ここは、人工堤防がなければ洪水の及ぶ範囲であり、過去に幾度となく水害に見舞われた低湿な一帯である。『岐阜県災異誌』によると、1199年（正治元年）の美濃平野大洪水では、「一国忘米作之条万民成逃脱之思」程の被害があった（東大寺文書）。そのため、古くから特定の地域のみ洪水から土地を守るために、その周囲に堤防をめぐらす輪中堤を作り、輪中内には水防によって強く結ばれた共同体が存在した。

洪水常襲地域において、この囲堤形態は、現在のような連続堤以前の治水工法としてはきわめて有効な手段であった。

当遺跡の範囲は、完新世段丘の形成期以降における砂礫の堆積によって扇状地が発達して、その後これが埋没した。扇状地の微地形である旧中州（微高地）と旧河道も現在埋没して認められ、現地表面はほぼ平坦化している。埋没した旧河道は網目状をなし、これらの間には埋没した旧中州（微高地）がみられる。本地域では、埋没旧中州が数十か所に点在しており、当遺跡の東に位置する現在の北方集落は比較的大規模に発達したこの微地形上に立地する。今回の調査範囲は、旧中州から旧河道上に分布しており、発掘区の南東には、平成15年度に大垣市によって行われた調査で、旧中州（微高地）上にある集落跡の可能性が示唆されている地域が隣接している。

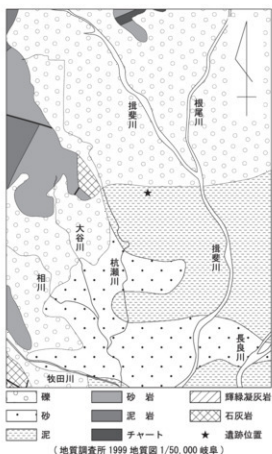


図5 遺跡周辺の地質概略図

第2節 歴史的環境

北方京水遺跡周辺には、古代～中世にかけて営まれた遺跡が分布している（図6）。本節では、それらの概要を中心に年代順に記す。なお、図6は『改訂版岐阜県遺跡地図』（岐阜県教委2007）を基に作成し、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2、図6と一致する。

縄文時代は、荒尾南遺跡で竪穴住居跡が一軒検出され、自然流路内や包含層などから縄文時代晩期の土器が出土した。包含層から出土した縄文土器は、晩期後半の土器片で量は少ない。しかし、自然流路内から出土した縄文土器は、弥生土器と混在した状態であるものの、比較的量が多い。

弥生時代になると、荒尾南遺跡において、複数の埋没微高地にまたがる当時の人々の大規模な活動の存在を確認することができる。前期は、土器がまとまって出土し、土器棺墓も確認されている。中期は、大規模な方形周溝墓群や遺跡東部を南北に貫く大溝が掘削されている。後期は、集落跡や方形周溝墓が確認されている。弥生時代前期から後期にわたる継続的な活動が認められる遺跡は美濃地方においては他には確認することはできない。南一色遺跡（32）では、断定こそされていないものの、遺物の出土量や遺物包含層のひろがりから、弥生時代後期以降の大規模な集落があったと考えられている。

古墳時代前期から中期には、西方の扇状地や昼飯町の台地部及びその周辺に、粉糠山古墳、矢道長塚古墳、昼飯大塚古墳など、大型の前方後方墳や前方後円墳が集中し、この地域に一大勢力が存在していたことをうかがわせる。荒尾南遺跡の集落跡は、古墳時代前期に衰退し、中期以降はC地区を中心に遺物が確認されている程度である。古墳時代後期を迎えると、金生山やその山麓に100基を超す群集墳が形成されている。曾根八千町遺跡（5）では、2つの木棺墓や土器・木製品などの遺物が検出され、古墳時代前期の墓域と生活面が存在したことが確認されている。桑田遺跡（22）は、弥生時代終末～古墳時代初頭頃が中心となる遺跡である。

奈良時代以降、現在の不破郡垂井町に美濃国府が置かれたため、西濃地域は古代美濃国の政治的中枢となる。8世紀に不破郡関ヶ原町に不破関、大垣市に国分僧寺、垂井町に国分尼寺が営まれた。塚越遺跡（18）では、奈良時代から平安時代の須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・硯などの破片が多数出土している。興福地向田遺跡（17）は古代から中世の遺物散布地として知られており、北方京水遺跡のすぐ東にある北方遺跡（3）でも古代の遺物が確認されている。律令期には駅伝制により、都と国府を結ぶ交通路が整備された。美濃地方にも駅路が置かれ、壬申の乱の初動で塞いだ「不破の道」は、のちに東山道となる初期駅路であるとされる。大垣付近では、赤坂宿と垂井宿を結ぶ旧中山道が東山道と推定されており、赤坂湊から東に直進して北方京水遺跡の南東に位置する三ツ屋付近の中山道を通過する初期東山道ルートを示す説もある。また、この頃には条里が施行され、大垣市内でも安八郡条里の遺構が所々で認められている。

北方京水遺跡周辺では、平安時代から鎌倉時代にかけての遺跡が多く分布する。特に、曾根八千町遺跡（5）、興福地遺跡（16）、桧遺跡（35）は当遺跡と同時期の遺跡であると考えられる。曾根八千町遺跡は、当遺跡の約1km北東に位置する。この遺跡からは、掘立柱建物をはじめとした集落跡や中世墓が検出されている。掘立柱建物には溝が伴い、集落内が小規模な区画溝で区画された複数の屋

敷跡から構成されていたと判断されている。中世墓の他にも、鏡・山茶碗・漆器碗など多くの副葬品が出土している。曾根八千町遺跡は、検出された遺構群から12世紀後半から13世紀初頭の短い期間に営まれた集落であると判断されており、遺物のもつ時間幅から北方京水遺跡の方が若干長い間営まれていたことが分かっている。興福地遺跡は、当遺跡の1km南西に位置する。この遺跡からは、過去の調査で、奈良時代から鎌倉時代の土器や木器とともに掘立柱建物が確認されている。さらに、当センターが平成25年度に行った調査でも、平安時代から鎌倉時代までの集落跡が確認され、掘立柱建物跡や井戸跡、溝跡、柱穴などが検出された。また、鎌倉時代の井戸跡からは、井戸を閉じる際の祭りで使用した道具をまとめて捨てた一括資料が出土している。遺物の比較からも、北方京水遺跡とほぼ同じ時期の遺跡であると考えられる。松遺跡は、当遺跡の約3km南西に位置する。この遺跡は、古代においては平安時代後期を中心に遺構・遺物が確認されており、中世においては12世紀後半～13世紀前半にかけての中世前期と、15～16世紀代の中世後期の遺構・遺物がそれぞれ確認されている。北方京水遺跡と同時期の中世前期には、区画溝や井戸と考えられる大型土坑類の他、多数のピットが確認され、居住域の存在が想定されている。曾根八千町遺跡と比較すると、出土遺物の絶対量が多いこと、土師器皿や輸入磁器の比率が高いこと、墨書土器のような文字資料が存在することから、一定の経済力を有した階層が居住していたと考えられている。

また、この周辺は、中世の城跡も多く分布する。稲葉氏ゆかりの曾根城跡・城下町(6)では石垣が確認されている。15世紀末～16世紀中頃の遺物が出土しており、城館を構えていた時期は15世紀末頃まで遡る可能性がある。他にも、吉田休三人道の北方城跡(2)や氏家直元が在城した栗田城跡(23)、池田輝政が在城した池尻城跡(15)などがある。

表2 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	北方京水遺跡	集落跡、水田	古代・中世	19	西之川遺跡	散布地	弥生・古墳・古代
2	北方城跡	城館跡	中世	20	顔家遺跡	散布地	古代・中世
3	北方遺跡	散布地	古墳・古代・中世	21	一里塚跡	その他の遺跡	近世
4	北方治部丸遺跡	散布地	古代・中世	22	栗田遺跡	散布地	弥生～中世
5	曾根八千町遺跡	その他の遺跡	弥生～中世	23	栗田城跡	城館跡	中世
6	曾根城跡・城下町	城館跡	中世	24	中川大坪遺跡	散布地	中世
7	密厳寺勧学院跡	社寺跡	中世	25	林A遺跡	散布地	弥生～中世
8	尾張藩領取跡木戸跡	その他の遺跡	近世	26	林B遺跡	散布地	弥生～中世
9	西保北方城跡	城館跡	中世	27	林C遺跡	散布地	弥生
10	南方古銭出土跡	散布地	中世	28	林E遺跡	集落跡	弥生～古代・近世
11	塚のこし古墳	古墳	古墳	29	河間遺跡	散布地	古代・中世
12	青木遺跡	散布地	中世	30	河間村内遺跡	散布地	中世
13	中山道	その他の遺跡	近世	31	笠縫城跡	城館跡	中世
14	興福地村北遺跡	散布地	中世	32	南一色遺跡	散布地	弥生～中世
15	池尻城跡	城館跡	中世	33	福田遺跡	散布地	中世
16	興福地遺跡	集落跡	古代・中世	34	福田城跡推定地	城館跡	中世
17	興福地向田遺跡	散布地	古代・中世	35	松遺跡	散布地	古代・中世・近世
18	塚越遺跡	散布地	古墳				



図6 周辺遺跡位置図 (国土地理院発行1:25,000地形図「大垣」使用)

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

平成22・24年度に、岐阜県教育委員会社会教育文化課が実施した試掘確認調査で確認された層序、各土層から出土した遺物、遺構の時期を検討し、今回の調査を行うに当たって北方京水遺跡の基本層序を以下のように設定した。調査地点によっては、II層やIII層の堆積が確認されなかったり、洪水による砂層の堆積が認められたりする地点がある。A地区では、III層が北部しか存在しておらず、南部はI b層の下がIV層となっていた。B地区では、I層からVI層までを確認したが、II層は南部のみで確認した。

以下、基本層序のI層からVI層までの詳細及び遺構検出面について記載する。

- I a層 灰色を呈する現代の水田耕作土で、調査区全面で確認することができた。
- I b層 鉄分沈着が見られるオリーブ黒色を呈する土層である。現代の水田床土で、A地区北側とB地区で確認することができた。II層・III層が存在しないA地区南部では基底面を遺構検出面としたが、A地区においては、VI層上面に対応するものかもしれない。
- II層 鉄分沈着が見られるオリーブ黒色を呈する土層である。耕地整理前の旧耕作土で、B地区南側のみで確認することができ、北から南にかけてレベルを順次下げている。B地区中央と南側で30 cmほどの標高差がある。
- III層 オリーブ黒色～灰色を呈する砂質土層である。A地区北部とB地区で確認することができた。A地区では、III層からの遺物は少ない。上面をB地区の第1遺構検出面（以下「第1面」という。）とした。
- IV層 オリーブ黒色～灰色を呈する、粘質～砂質土層及び砂層である。洪水による堆積と判断しており、調査区全面で確認することができた。この上面をA地区北部の遺構検出面としたが、A地区においては、B地区のVI層に対応するものかもしれない。
- V層 オリーブ黒色を呈する粘質土層である。B地区で確認することができた。上面をB地区の第2遺構検出面（以下「第2面」という。）とした。IV層とV層の間に、土質を同じくする畦畔と耕作土を確認した。
- VI層 B地区で確認することができた。この下は河川堆積による砂礫層で湧水が多い。

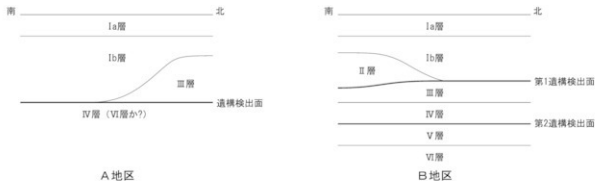


図7 基本層序模式図

第2節 遺構概要

調査では、A地区とB地区において、中世の遺構を検出した。A地区では、中世の溝状遺構や土坑、柱穴を検出し、B地区では、第1面・第2面ともにほぼ全面に広がる中世の水田遺構を検出し、他に溝状遺構、土坑、水制遺構、自然流路を検出した。第4節でA地区検出の遺構と遺物について、第5節でB地区第1面・第2面検出の遺構と遺物について記載する。なお、B地区2面で検出した2基の水制遺構は、第1面の自然流路に伴うものであると思われることから、第1面の遺構として記載する。

B地区第1面、第2面で検出した水田遺構については、どちらの面も洪水堆積層が確認された(図8)。第2面の水田面は微地形に合わせて小畦畔を作り水田の区画を行っていた。それが洪水砂で覆われた後、水田を復旧させる際に、調査区南東部の土地の低い場所に盛土して、第1面の水田面を造成した(図9)。なお、図9の第2面の水田面は12~15層上面、盛土は10層となる。

B地区の北側では、洪水堆積によりIV層が形成された後、期間をおかず再度洪水が起こる。IV層が

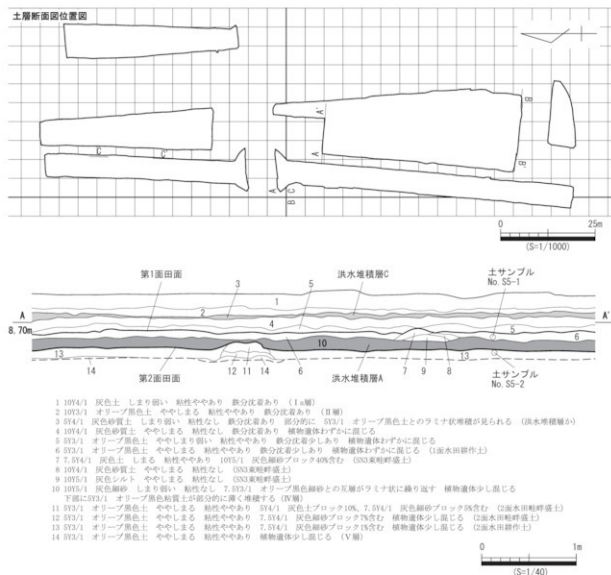


図8 B地区(南)北壁土層断面図

表3 遺構数一覧

遺構種別	S D	S K	S P	S M	S N	S R	N R	S X	合計
遺構数	82	61	4	5	72	2	2	1	229

扶られ、その後、自然流路が流れ始めたと思われる。その前後関係についてはB地区調査区中央土層断面で確認した(図10)。なお、IV層を形成する洪水堆積層を洪水堆積層A層、その後の洪水による堆積を洪水堆積層B層と呼ぶ。また、第1面造成後にも再び洪水が起こるが、この堆積層を洪水堆積層Cと呼ぶ。洪水堆積層Cは、現代の耕地整備によって削られる部分も多いが、B地区(南)北壁土層断面で確認した(図8)。

遺構の種類と検出数は、表3のとおりである。以下、本書における遺構の分類、計測方法について述べる。

1 遺構の分類

今回検出した遺構は、溝状遺構、土坑、柱穴、畦畔、水田遺構、水制遺構、自然流路、不明遺構に分け、各遺構の分類は、形状と規模、構造から判断した。以下に各遺構の分類基準を概説する。

溝状遺構(略号S D)

地面を掘りくぼめた遺構の内、上端の短軸(幅)に対して長軸(長さ)が5倍以上の長さとなる遺構を溝状遺構とした。ただし、5倍以上の長さが無い場合でも、他の溝状遺構との関係から、溝状遺構の痕跡が土坑状の穴となって確認できたものと判断できた場合は、溝状遺構に含めた。

土坑(略号S K)

地面に掘りくぼめた遺構の内、明確に性格付けができないものを土坑とした。遺物の出土状況や形

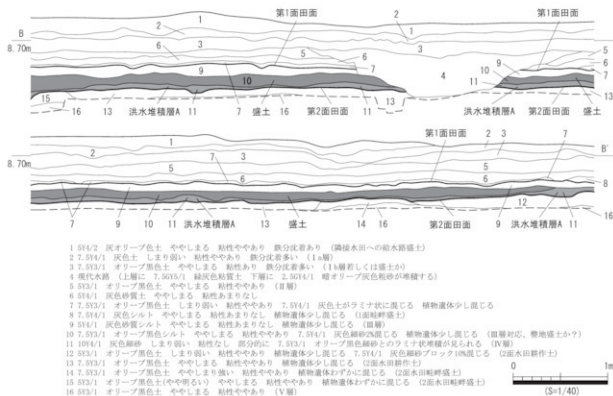


図9 B地区(南)北壁土層断面図

状から墓坑、廃棄土坑といった可能性が考えられるものも含む。

柱穴（略号SP）

建物に伴う柱穴と同様の形状、又は柱痕跡が残存しているもの、規則的な配列が確認できず、建物遺構として認定できなかったもの。

大畦畔（SM）

土を盛り水田を大きく区画したのも。大区画内をさらに小さく区画する場合、小畦畔とした。

水田遺構（略号SN）

畦畔状の高まりによる区画や、畦畔が確認できない場合でも、水田遺構に伴うと思われる鋤溝状の

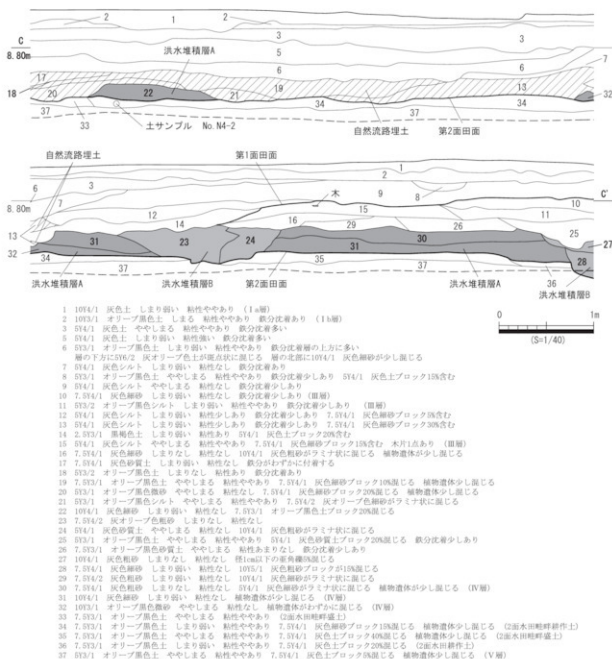


図 10 B 地区（北）中央土層断面図

遺構が確認された範囲を水田遺構とした。

水制遺構（略号SR）

当遺跡で確認された2基の水制遺構は、自然流路の水流を制御し、和らげる機能をもっていたと思われるもので、いわゆる「堰」と呼ばれるものである。

自然流路（略号NR）

幅が広く、自然の水流により形成されたと思われるものを自然流路とした。

不明遺構（略号SX）

性格不明の遺構を示す。

2 遺構の計測

各遺構の規模は遺構一覧表に示した。遺構種別により、一覧表の項目はやや異なるが、共通する基本項目については次のとおりである。

遺構の検出層位 基本層序と検出面で表し、V層上面で検出した遺構の場合「V上」、V層上面で検出したが、その上に堆積していたのがII層だった場合「II基」（II層基底面検出）などと表記した。

遺構埋土 分層した土層数と、堆積状況を次のように表示した。

- A-埋土が単一層 B-ほぼ水平な堆積 C-中央がU字状に凹むような堆積 D-凹みが片寄った堆積 E-ブロック状に土層が入り込む堆積 F-最上層が掘り込んだ状態となるもの
G-柱痕跡状の土層があるもの H-その他

平面形 土坑などは、短軸と長軸の長さの比から円形・正方形（1:1.2未満）、楕円形・長方形（1:1.2以上）、長楕円形（1:1.5以上）とし、形状があまり整っていない場合は不整形、不整長方形などとした。他に調査区外に続く、あるいは他の遺構に削平され形状が明確でないものについては不明、不定形などとした。

断面形 土坑、溝など断面の形状（A～C）と、上面での短軸長と深さとの比（1～6）、底面（a～d）と壁面（1～5）の状況の4つの文字で表示した。

- 深さ/上面での短軸長 1-0.3未満 2-0.3～0.7未満 3-0.7～1.1未満 4-1.1～1.5未満
5-1.5以上 6-不明

底面の状況 a-丸いか平ら b-底が2段になる（小穴含む） c-底面が凸凹 d-不明

壁面の状況 1-壁が開く 2-壁が直立に近い 3-壁面に段 4-袋状 5-不明

遺構の規模 単位はmであるが、（）で示したものは、全形が確認できなかったため、残存長を測ったものである。

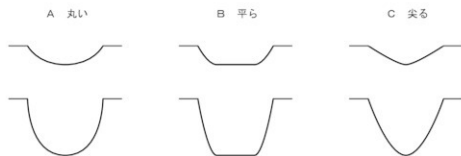


図11 遺構断面の形状模式図

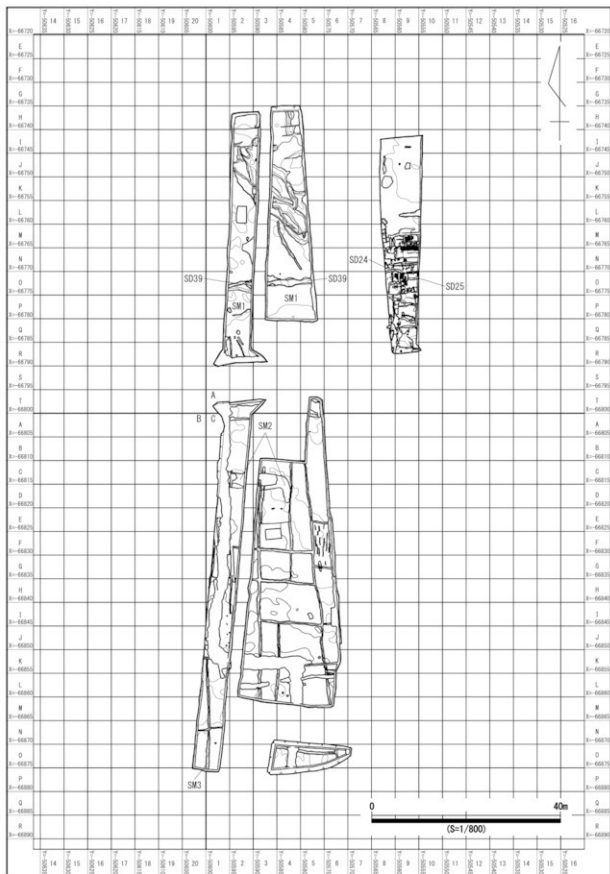


図12 第1面遺構全体図

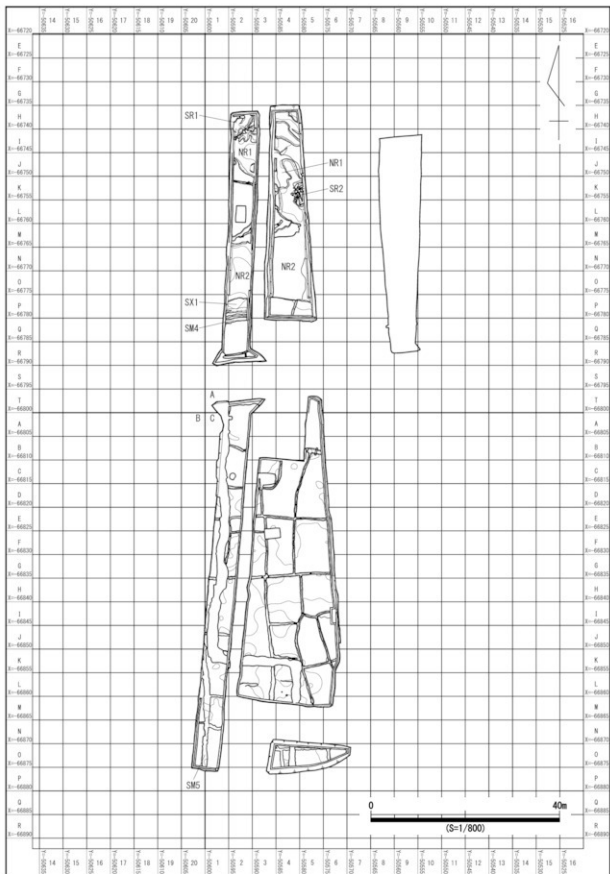


图13 第2面遺構全体図

第3節 遺物概要

1 種類と数量

出土した遺物は、接合後の破片数合計 3,225 点である(表4)。鎌倉時代初期のものを中心として近世以降の土器類、石器類、木製品、金属製品などがある。土器類は、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、中近世陶器類がある。特に、山茶碗の割合が 45.5%と多いのが当遺跡の特色といえる。次に多いのが中近世陶器 17.4%、時期不明土師器 12.1%、中世土師器 7.7%と続く。土師器は時期が分からない小破片のものが多い。接合比率は全体的に低い。

掲載遺物数は合計 188 点であり、接合後破片数の 5.8%である。その抽出方法は、遺構出土遺物のうち、遺構の性格や時期等の検討する上で必要なものや、遺物包含層出土遺物のうち、遺跡の性格を端的に示すものや分類別の代表的なものを中心に選択している。

表4 出土遺物点数一覧

種別	A地区		B地区		北方京水遺跡：合計				掲載点数 c	c/b
	接合前 破片数 a	接合後 破片数 b	接合前 破片数 a	接合後 破片数 b	接合前 破片数 a	接合後 破片数 b	接合比率	bの全体に 対する割合 (%)		
古代土師器	10	10	0	0	10	10	0.00	0.31	0	0.000
中世土師器	158	157	91	90	249	247	0.80	7.66	7	0.028
時期不明土師器	298	298	102	91	400	389	2.75	12.06	3	0.008
須恵器	7	6	28	25	35	31	11.43	0.96	16	0.516
灰釉陶器	96	93	30	28	126	121	3.97	3.75	18	0.149
山茶碗	929	917	563	551	1,492	1,468	1.61	45.52	61	0.042
中近世陶器	278	278	291	283	569	561	1.41	17.40	39	0.070
中国製陶器	3	2	9	9	12	11	8.33	0.34	9	0.818
瓦質土器	1	1	2	2	3	3	0.00	0.09	2	0.667
土製品	11	11	14	14	25	25	0.00	0.78	5	0.200
石製品・石器	9	9	12	12	21	21	0.00	0.65	3	0.143
金属製品	10	10	7	7	17	17	0.00	0.53	4	0.235
木製品	2	2	241	241	243	243	0.00	7.53	21	0.086
炭化物	0	0	3	3	3	3	0.00	0.09	0	0.000
種子	1	1	74	74	75	75	0.00	2.33	0	0.000
合計	1,813	1,795	1,467	1,430	3,280	3,225	1.68	100.00	188	0.058

2 時期区分

本報告書における時期区分は一般的に使用されている時代呼称を用い、その年代観に対応する土器様式等は既存の研究に従った(表7)。また、本報告書における中世はおよそ平安時代後半から安土・桃山時代、近世はおよそ江戸時代に対応する。

なお、出土遺物については、以下の方々から土器様式、器種、時期などの指導を得た。(敬称略)
 須恵器・灰釉陶器：渡邊博人(各務原市)、山茶碗・中近世陶磁器：藤澤良祐(愛知学院大学)
 石器・石製品：長屋幸二(岐阜県博物館)

3 遺物概要

ここでは種別ごとの所属時期、分布などについて記す。

(1)土師器

小破片がほとんどで時期不明のものが多い。弥生時代から古墳時代、9世紀から10世紀のものが多いが、この時期の遺構は発掘区から検出していない。ローリングを受け摩耗していることから、

川の氾濫による北西方向からの流れ込みと思われる。

(2) 古代土師器・中世土師器

古代の土師器には清郷型鍋、中世の土師器にはロクロ土師器皿、土師器皿、伊勢型鍋がある。いずれもA地区南部の遺構からの出土が多い。土師器皿は、B地区での出土数が他の土師器と比べて多いが、その多くは表土からの出土である。B地区から出土した土師器皿については、近世以降の耕地整理等による混入が多いと思われる。

(3) 須恵器

須恵器は6世紀から11世紀のものまで幅広く出土している。出土位置は調査区全体に広がっているものの、B地区からの出土が多い。生産地は美濃須恵窯のものが全体の約半数を占める。

(4) 灰釉陶器

出土遺物の所属時期は猿投編年のK-14号窯式からK-90号窯式併行期までと美濃編年の大原2号窯式から11世紀前葉西坂1号窯式併行期までである。美濃編年の大原2号窯式から丸石2号窯式併行期のもの(10世紀代)が多い。出土位置は調査区全体に散在しているが、A地区南部からの出土が多い。生産地は不明のものが多く、美濃須恵窯産と美濃窯産のものが確認されている。

(5) 山茶碗

出土遺物の所属時期は尾張型山茶碗第5型式併行期のものが中心となる。出土位置は調査区全体に散在しているが、A地区南部からの出土が多い。出土した碗の中には内面のみが黒化しているものが確認された。若干黒く感じるものだけでなく、煤などによって著しく黒くなったものも存在する。口縁部が欠けた部分にも煤などの付着が認められることから、口縁部が欠けた状態でも利用されていた可能性がある。観察の結果、その数は38点を数えた。大垣市による北方京水遺跡の調査や興福地遺跡の調査でも、同様の山茶碗が確認されている。

(6) 中近世陶磁器

出土位置は発掘区全体に散在している。時期は、古瀬戸・大窯が少数みられ、ほとんどが登窯であるが、現代水路からの出土である。産地は常滑・美濃・瀬戸が多く、少数だが肥前、唐津、志野などがある。中国製陶磁器も確認されている。

(7) 土製品

出土位置は調査区全体に散在している。A地区では、土錘が出土している。小破片のものが多く、ほとんどは器種不明である。

(8) 石器・石製品

出土位置は調査区全体に散在しているが、出土数は少ない。砥石や叩石が出土している。

(9) 金属製品

古銭、煙管、鍛冶滓等が出土している。古銭は「治平元寶」で北宋(1064年に初鋳)のものである。鍛冶滓はA地区の遺構から出土しており、A地区南側の大垣市の調査で出土した輪の羽口と合わせて、周辺地域での鍛冶活動が想定される。

(10) 木製品

B地区で確認された2基の水制遺構を構成する杭や横木が、全体の8割以上を占める。杭の木取りは、多くが丸木芯持ち材であった。杭の加工状況は単純な削り痕を残すものが多く、先端形状は周縁

方向から比較的鋭角に先端を削りだしたものと1～2方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削りだしたものに分けられた(表5・6)。他には、水制遺構に伴う畜串やA地区で確認された火付け木がある。

表5 水制遺構(SR1・SR2)構成材の木取り(カッコ内は横材の点数、他は杭)

	I	II-1	II-2	II-3	II-4	III	IV	不明	合計
SR1	29(2)	2(1)	0	0	2	0	0	3(3)	36(6)
SR2	12	0	0	1	1(1)	1	3	0	18(1)

表6 水制遺構(SR1・SR2)構成材の先端形状・加工状況(カッコ内は横材の点数、他は杭)

SR1		先端形状				SR2		先端形状			
		1	2	3	4			1	2	3	4
加工状況	a	0	0	0	0	加工状況	a	0	0	0	1(1)
	b	22(1)	0	11(2)	0		b	10	0	3	0
不明3(3)						不明4					

(11) 種子

B地区の水田跡から多く出土している。種別はモモが多く、トチ、クルミ、コナラと続く。

4 掲載した遺物実測図の凡例

本報告書で掲載した遺物実測図の詳細は、以下のとおりである。

・付着物などのトーン表記は、

アミ40%が墨・炭化範囲、アミ20%が漆等付着物、アミ10%が樹皮範囲・石器使用痕範囲を示す。

・木製品の細部分類は図14のとおりである。








木取りの分類						先端形状の分類と加工状況の分類						
I	II				III	IV	先端形状	加工状況	1	2	3	4
	II-1	II-2	II-3	II-4								
							周縁方向から比較的鋭角に先端を削りだしたものと1～2方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削りだしたものと	<90°	>90°	<90°	>90°	
中心に木の芯が残っている	単に削っただけ(1/2以下)	芯部側を削り角状にする(1/2以下)	木肌側を削り角状にする(1/2以下)	平割材(1/2程度)	断面がほぼ正方形	断面が長方形	周縁方向から比較的鋭角に先端を削りだしたものと1～2方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削りだしたものと	1	2	3	4	
丸木芯持材	割材				角材	板材	周縁方向から比較的鋭角に先端を削りだしたものと1～2方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削りだしたものと	a 数度にわたる緻密な削り痕を残すもの b 単純な削り痕を残すもの				

図14 木製品細部分類

表7 編年対応表

西暦	時代呼称	土器様式・型式	当遺跡の様相	
200	弥生時代	弥生土器・土師器	検出遺構 出土遺物	
100		朝日		
0		貝田町		
A.D.		高蔵		
100		八王子古宮		
		山中Ⅰ		
		山中Ⅱ		
200		終末		
		期間Ⅰ		
		期間Ⅱ		
300	古墳時代	期間Ⅲ		
		松河Ⅰ		
		松河Ⅱ		
400		宇田Ⅰ	猿投窯他 美濃須賀窯	
		H-11	I期	
		H-48		
500		宇田Ⅱ	H-11	
		H-61	II期	
		H-61		
600		後期	儀長	
	+			
700	終末期	H-44	II期後	
	H-50	III期前		
	H-7	III期後		
800	奈良時代	C-9	IV期第1小期	
		C-25	IV期第2小期	
		N-39	IV期第3小期	
		0-10	IV期第3小期	
		0C-38/A-14	IV期第3小期	
		K-14	V期第1小期	
		K-90	V期第2小期	
900		平安時代	0-53	美濃窯
			H-72	光ヶ丘-1
				大塚-2
			渡橋山-1	
			天石-2	
			明和-27	
			西坂-1	
	百代寺		VII期	
	白雲系陶器 第3型式		VIII期	
1100	鎌倉時代		第4型式	常滑窯
		第5型式	1 a 型式	
		第6型式	1 b 型式	
		第7型式	2 型式	
		第8型式	3 型式	
			4 型式	
			5 型式	
			6 b 型式	
			白土塚1	
			明和1	
1300	(南北朝時代)	第9型式	大塚大塚4	
		第10型式	大谷洞14	
		第11型式	大塚大塚1	
			葛之島3 土塚2	
			10型式	
			11型式	
			12型式	
			13型式	
			14型式	
			15型式	
1400	室町時代		古瀬戸 大窯 登窯	
			前1期	
			前2期	
			前3期	
			前4期	
			前5期	
			前6期	
			前7期	
			前8期	
			前9期	
1500	安土・桃山時代		大瀬戸	
			第1段階	
			第2段階	
			第3段階	
			第4段階	
			第5小期	
			第6小期	
			第7小期	
			第8小期	
			第9小期	
1600	江戸時代		大瀬戸	
			第10小期	
			第11小期	
			第12小期	
			第13小期	
			第14小期	
			第15小期	
			第16小期	
			第17小期	
			第18小期	

室中屋敷遺跡の様相の表5に追加

表7の参考文献 土器様式の編年と古墳文化：『考古資料大観2 弥生・古墳文化 土器Ⅱ』小学館
 藤岡武典2012『紀尾井 土器様式の編年と古墳文化：『考古資料大観2 弥生・古墳文化 土器Ⅱ』小学館
 早野由二2003『畿南・中部地方の土器』『考古資料大観3 弥生・古墳文化 土器Ⅲ』小学館
 藤原孝正1996『奈良、美濃、美濃須賀窯甲と他窯編年対比表』『奈良考古学』第3巻 頁1-6編1』
 藤原孝正2008『美濃須賀窯について』『日本考古学協会2008年度学術大会研究発表資料集』

多治見市教育委員会2007『大洲4・5号窯跡調査報告書』
 多治見市教育委員会2003『大洲8-11号窯跡調査報告書』
 中野隆久1996『先史地における編年について』『筑前大学』小学館
 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 加藤 彌生2 中世・近世 瀬戸窯』

第4節 A地区の遺構・遺物

1 包含層出土遺物

遺物の出土量は、検出した遺構数と相関関係があり、遺構が多く検出された南部（SD23より南）では遺物の出土も多く、遺構があまり検出されなかった北部では、遺物の出土も少なかった。種別で見ると、遺物は山茶碗の割合が多く、その次に中近世陶器・土器器が多く出土した（表8）。小さい破片が大部分を占めるが、比較的大きい破片は山茶碗が多い。層別に見ると、多くはIb層からの出土である。ただし、Ⅲ層についても種別による数量の傾向は同じである。土器以外では、土錘や煙管が出土した。

包含層出土遺物として図示したのは、Ib層及びⅢ層から出土した土器器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、中近世陶器、土製品、金属製品である（図15）。1は土錘、2は瓦質土器で火舎香炉か。3～5は灰釉陶器の碗である。3はK-14号窯式からK-90号窯式のもの、4は美濃窯の虎渓山1号窯式のもの、5は美濃窯の明和27号窯式～西坂1号窯式のものである。6は美濃須衛窯産の須恵器の甕で11世紀のものである。7～13は尾張型山茶碗の碗である。7は第3型式、8は第3型式～4型式、9・10・11は第4型式、12・13は第5型式のものである。14は中近世陶器の加工円盤で大塚第2段階のものである。15は肥前産の紅皿である。16・17は煙管である。

表8 A地区包含層出土遺物数一覧（接合前破片数）

包含層位	古代土器器	中世土器器	時期不明土器器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	中近世陶器	中国製陶磁器	瓦質土器	土製品	石器・石製品	金属製品	木製品	合計
I a・I b層	1	43	140	2	47	322	209	1	1	6	8	5	1	786
Ⅲ層	0	4	11	2	9	32	17	0	0	0	0	1	0	76
合計	1	47	151	4	56	354	226	1	1	6	8	6	1	862

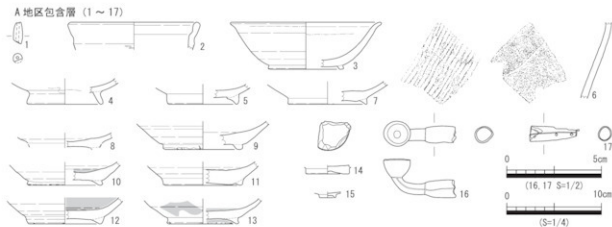


図15 A地区包含層出土遺物

2 遺構と遺物

A地区では、92基の遺構を検出した。検出面はSD23より南にⅢ層がないためIb層基底面、北がⅢ層を除去したIV層上面となる。検出した遺構は南部に分布するものが多く、IV層上面の遺構はわずかであった。遺構の時期は出土遺物の時期から12世紀後半から13世紀前半が大半を占めると考える。切り合い関係から、大きく3時期に分けることができそうだが、後世の攪乱を受け、遺構の残存状況

表9 A地区遺構数一覧

遺構種別	SD	SK	SP	合計
遺構数	37	51	4	92

がよくないため、はっきりと時期細分することができない。山茶碗以外は灰軸陶器（10世紀）と古瀬戸（15世紀）が出土しており、この時期の遺構も存在した可能性が高い。

SD24・SD25（遺構図：図16）

A地区の南部、N8～O9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は大きくは東西方向の溝状遺構であるが、SD24とSD25はそれぞれゆるやかに湾曲し、合わせるとゆるやかなS字状になる。断面は壁が立ち気味である。SD24とSD25はSK3に切られているため、断定はできないが、連続する同一の溝状遺構である可能性がある。SK3内には広範囲にキタビラ痕が残る。平面形は明瞭であり、SD24の西部はSK4の底面で検出した。埋土はSD24の部分で上下2層の水平堆積、SD25の部分で単層としたが、いずれも底面に近づくにつれて砂が混じるようになる。底面はSD24の西部がやや標高が高く、SD24の中央から東にかけて一段下がり、SD25の底面の標高と近くなる。他の遺構と比較して、壁の立ち上がり状況やこの溝の南側に遺構や遺物も多いことなどから、居住域とその外を区画する性格をもった溝状遺構と思われる。遺物は、中近世陶器1点が出土したが、小破片で図示していない。切り合い関係から本遺構の時期は中世と考える。

SD26（遺構図：図17）

A地区の南部、P8・P9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は東西方向の溝状遺構で、中央部から東部にかけて幅が広がる。平面形は明瞭であった。埋土は4層に分層したが、ほぼ水平堆積であった。底面は西部では浅く、幅広になる中央部から東部にかけては一段深くなる。性

SD24・SD25

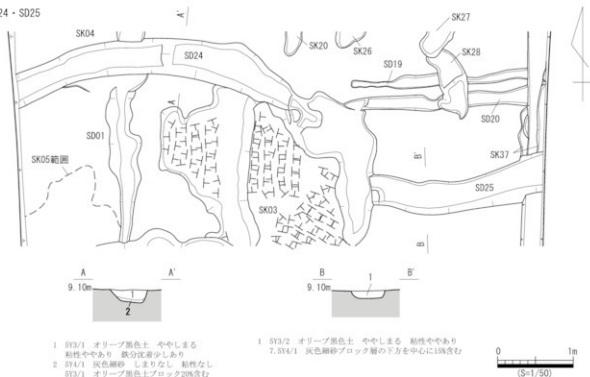


図16 SD24・SD25 遺構図

格不明の溝状遺構である。

遺物は、土師器4点、須恵器1点、山茶碗1点、中近世陶器1点が出土した。いずれも小破片のため、図示していない。出土した遺物から、本遺構の時期は中世と考える。

SD28 (遺構図：図17)

A地区の南部、O9～Q9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は東西方向の幅広い溝状遺構で、東へ延びていくと考えられる。北側にテラス状の平坦面があり、南側が一段下がる。テラス面と一段下がった部分のいずれにも、部分的に凸凹がある。SD26よりも濃い色調の埋土で、切り合い関係は比較的明瞭であった。全体の平面形も明瞭であった。底面は部分的に凸凹となる。性格不明の溝状遺構である。

遺物は、土師器3点、灰軸陶器2点、山茶碗8点、中近世陶器2点が出土し、遺存状態の良い灰軸陶器(18)を図示した。18は、美濃窯産の灰軸陶器で丸石2号窯式のものである。小破片の山茶碗が多く出土していることから、本遺構の時期は中世と考える。図示した灰軸陶器は、1層と包含層(1b層)が接合したもので、混入の可能性がある。

SD30 (遺構図：図18)

A地区の中央部、N9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は東西方向の幅広い溝状遺構で、東部は調査区外へと延びていく。平面形は明瞭であった。埋土は3層に分層した。1層が遺構全体に堆積し、2・3層は少し凹む部分に堆積する。土層観察畦から西側の底面は凸凹が認められ、東側の底面には耕地整理時と思われる重機のキャタピラ痕が残るが、ほぼ平坦である。性格不明の溝状遺構である。

遺物は、土師器7点、山茶碗12点、中近世陶器8点が出土し、山茶碗と中近世陶器を各1点図示した。19は山茶碗である。20は播鉢の口縁部で、古瀬戸後IV期新の時期のものである。山茶碗が多いことや他の遺構と比べて中近世陶器の割合が高いことから、本遺構の時期は中世以降と考える。図示した陶器は1層から出土したもので、遺構内にキャタピラ痕が残ることからも混入の可能性がある。

SD32 (遺構図：図18)

A地区の南部、Q9・R9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は大きくは東西方向から南東方向にやや湾曲する溝状遺構であるが、南東部は幅広になる。埋土はオリーブ黒色土で平面形はやや明瞭であった。全体に平坦な底面である。性格不明の溝状遺構である。

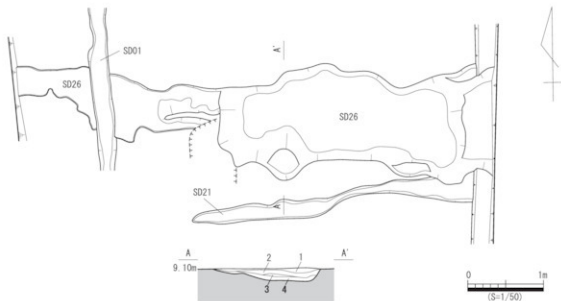
遺物は、山茶碗53点を中心に、土師器16点、灰軸陶器1点、中近世陶器1点が出土し、山茶碗を1点図示した。21は尾張型山茶碗第5型式のものである。切り合い関係は見られるものの、出土した遺物から本遺構の時期はSD33とほぼ同時期で12世紀後半から13世紀前半と考える。

SD33 (遺構図：図19)

A地区の南部、Q8～R9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は東西方向の溝状遺構で、東側はSD32に切られ、西側は調査区外となり、全体は不明な点が多い。埋土は黒褐色土で平面形はやや明瞭であった。底面は平坦である。性格不明の溝状遺構である。

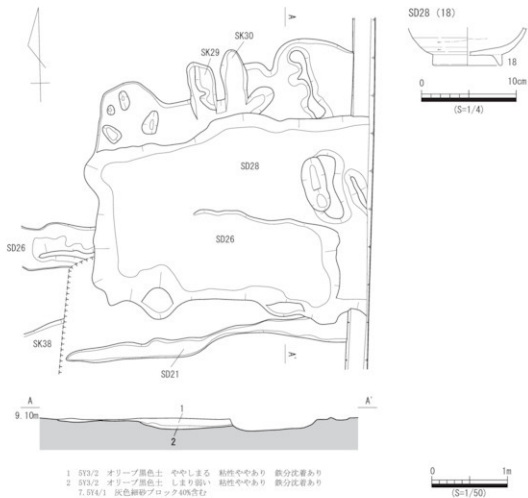
遺物は、山茶碗31点を中心に、土師器14点、須恵器1点、灰軸陶器1点、砥石1点、種子1点が出土し、灰軸陶器、山茶碗、砥石を図示した。22は美濃須衛窯産の須恵器で円面硯か台付盤と思われる。23は美濃須衛窯産の灰軸陶器の高坏で、灰軸の終わりから山茶碗の時期のものである。24は尾張

SD26



- 1 5Y4/1 灰色土 しまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり マンガン付着
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり 鉄分沈着あり
- 3 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 5Y4/1 灰色砂質土ブロック15%含む
- 4 5Y4/2 灰オリーブ色細砂 ややしまる 粘性なし 5Y3/2 オリーブ黒色土ブロック20%含む

SD28



- 1 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 鉄分沈着あり
7. 5Y4/1 灰色細砂ブロック40%含む

図 17 SD26・SD28 遺構図、出土遺物

張型山茶碗第6型式のものである。25は砥石で、側縁部に成形時の敲打痕が認められ、磨製石斧を転用して使用したものと思われる。出土した遺物と切り合い関係から本遺構の時期は12世紀後半から13世紀前半と考える。

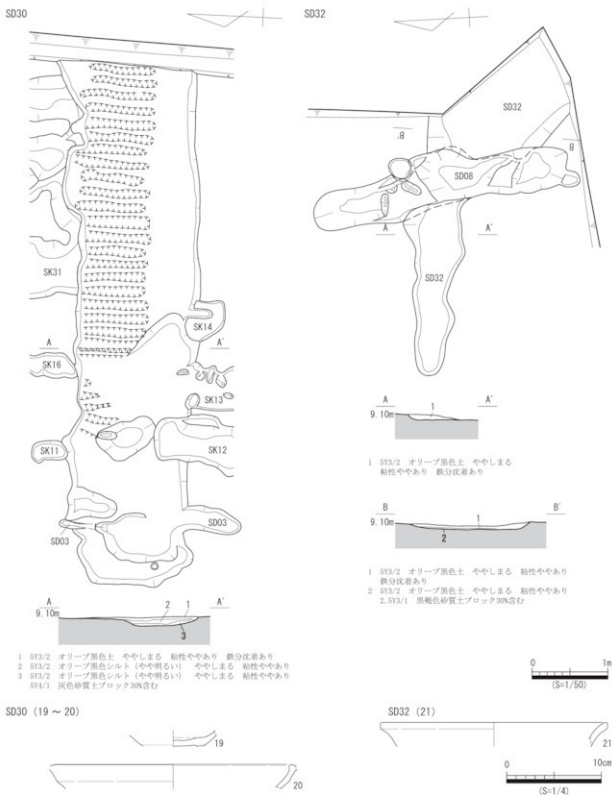


図18 SD30・SD32遺構図、出土遺物

SD35 (遺構図: 図19)

A地区の南部、Q8～R9グリッドに位置する。形状は南北方向に長い溝状遺構で、輪郭は不定形である。西側は調査区外となる。当初は本遺構とSD36との切り合い関係はないと判断していたが、SK46を掘削したところ、本遺構が北側に延びてその下にSD36が存在していることが判明した。そこで、本遺構がSD36を切っていると判断し、オリーブ黒色砂質土が広がる範囲をこの遺構と判断した。埋土は上下2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。砂質土が主体の埋土である。底面は東側の肩部に部分的にテラス状の平坦面が認められ、部分的に凸凹がある。性格不明の溝状遺構である。

遺物は、土師器38点、灰釉陶器4点、山茶碗75点、中近世陶器5点の計122点が出土し、土師器と山茶碗を図示した。比較的大きい破片が出土しており、底面近くからも出土した。26はクロコ土師器皿である。27～29は尾張型山茶碗第5型式のものである。27は内面全面に煤状の付着物が認められ、外面の口縁下にも同様のものがわずかに認められる。30は尾張型山茶碗第3型式のものであり、内面全面に自然釉が認められる。31は山茶碗の仏供具と思われるもので、全面に自然釉が認められる。当遺構は、尾張型山茶碗第5型式の時期の遺構と考えられるSK46に切られるが、尾張型山茶碗第5型式の山茶碗が出土していることから、本遺構の時期はSK46とほぼ同時期で12世紀後半から13世紀前半と考える。

SD36 (遺構図: 図20)

A地区の南部、R8・R9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は大きくは東西方向の溝状遺構であると思われるが、不定形で調査区外に延びる部分も多いと推測する。断面は北側がテラス状の浅い平坦部分となり、南側が一段深くなる。埋土はオリーブ黒色砂質土で、掘削当初は南端部の一段深くなる部分を検出したが、周辺の遺構を完掘した結果、この埋土が北側にも広がることから、最終的に一部北から西にかけての肩部を検出し、この遺構の範囲とした。4層に分層したが、ほぼ水平堆積である。1層はほぼ遺構全体に広がるオリーブ黒色砂質土である。土層断面では一部埋土が途切れる部分があるが、その部分は検出作業で掘削してしまった部分である。北側は広いテラス状の平坦面となり、南側は一段深くなる。性格不明の溝状遺構である。

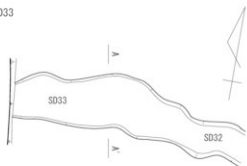
遺物は、A地区の遺構の中では最も多く、209点が出土した。そのうち山茶碗が147点を占める。他は土師器47点、灰釉陶器7点、中近世陶器6点、土製品2点が出土し、土師器、灰釉陶器、山茶碗、土錘を図示した。32は土錘である。33は土師器皿である。34は美濃窯産の灰釉陶器で、虎浜山1号窯式から丸石2号窯式のものである。35・37～41は尾張型山茶碗第5型式のものである。36・42は尾張型山茶碗第4型式のものである。38は内面に、42は外面にそれぞれ煤状の付着物が認められる。切り合い関係と出土した遺物から本遺構の時期は12世紀中頃から12世紀後半と考える。

SD37 (遺構図: 図22)

A地区の南部、P8～Q9グリッドに位置する。東西方向の溝状遺構で、東端は調査区外へと延びていく。形状は不定形であり、西部が幅広で、東部に行くほど幅が狭くなる。SK46、SK44、SK45の底面で検出した。SD35との切り合い関係は不明瞭であったが、それ以外の平面形は比較的精瞭であった。埋土は3層に分層した。堆積状況は不明である。底面は土層観察畦付近が土坑状に凹むが、そこから東に向けては浅く、平坦になる。性格不明の溝状遺構である。

遺物は、土師器6点、山茶碗5点、木製品1点が出土し、山茶碗と火付け木を図示した。43は尾

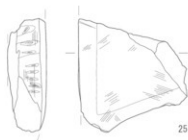
SD33



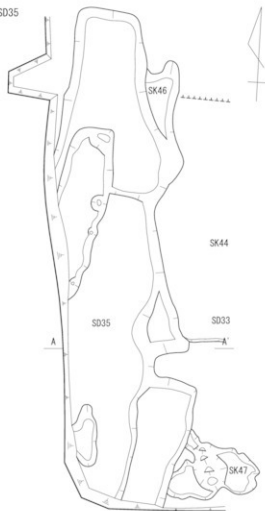
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 しまる 粘性あまりなし 鉄分沈着あり
- 2 2.5Y3/1 黒褐色砂質土 しまる 粘性なし



SD33 (22 ~ 25)



SD35



- 1 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ほぼなし 鉄分比着少しあり 径2cmの黒角礫2点あり
- 2 7.5Y3/2 オリーブ黒色砂 しまりなし 粘性なし
- 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土ブロック20%含む



SD35 (26 ~ 31)

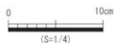


図19 SD33・SD35遺構図、出土遺物

張型山茶碗第5型式のものである。44は火付け木で、先端に約4cmにわたり炭化している。12世紀後半としたSK44の底面で検出したことや出土した遺物から本遺構の時期は12世紀後半から13世紀前半と考える。

SK05（遺構図：図23）

A地区の南部、O8・O9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は不定形で、中央やや北よりに窪みが2箇所認められる。北東部の一部は非常に浅く、肩部の掘りこみが不明瞭であった為、図面では破線で表示した。埋土は、上下2層の水平堆積で、2層が窪みにも堆積する。平面形はやや明瞭であった。底面は中央が一段下がるが、部分的に凸凹が認められる。性格不明の土坑である。

SD36

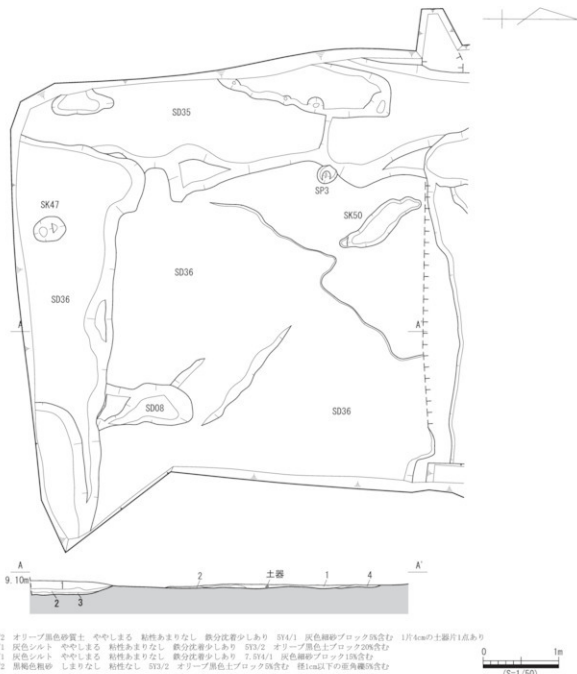


図20 SD36 遺構図

遺物は、土師器1点、灰土陶器2点、山茶碗10点が出土し、山茶碗を図示した。45は美濃須衛窯産の山茶碗で、尾張型山茶碗第4型式と同時期のものである。出土した遺物や切り合い関係から本遺構の時期は12世紀中頃と考える。

SK25 (遺構図：図23)

A地区の中部、N9グリッドに位置し、Ib層基底面で検出した。平面形状は東西方向に長い小楕円形で、壁面の立ちあがりの形状はなだらかである。

検出作業時から、山茶碗の破片を確認

し、周囲を精査してこの遺構の範囲を確定した。平面形は明瞭であった。遺構の残存状況が悪く、浅い。上下2層に分層したが、水平堆積で、底面は平坦である。性格不明の土坑である。

SD36 (32~44)

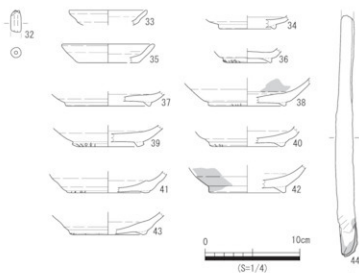


図21 SD36出土遺物

SD37

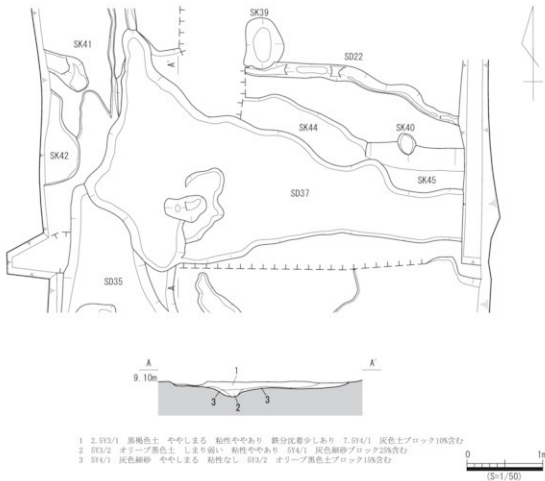


図22 SD37遺構図

遺物は、尾張型山茶碗第5型式の山茶碗(46)の底部1点が1層から出土した。出土した遺物から本遺構の時期は12世紀後半から13世紀前半と考える。

SK42 (遺構図: 図 24)

A地区の南部、P8・Q8グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は不定形で、西側は調査区外となることから全体形状は不明である。壁面はゆるやかに立ちあがる。平面形は比較的明瞭であった。上下2層の水平堆積である。底面はほぼ平坦である。性格不明の土坑である。

遺物は、美濃窯産の灰釉陶器(47)の口縁部が1点出土した。大原2号窯式以降のものであると思われる。出土した遺物と切り合い関係から本遺構の時期は中世と考える。

SK43 (遺構図: 図 24)

A地区の南部、P8～Q9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は南北方向にやや長い不整楕円形で、壁面の立ちあがりの形状はゆるやかである。埋土は黄灰色で平面形はやや明瞭であった。単層で堆積状況は不明である。底面は平坦である。性格不明の土坑である。

遺物は、土師器5点、灰釉陶器1点、山茶碗2点、中近世陶器2点、金属製品3点、鉄滓と思われるもの1点が出土し、白磁を図示した。48は白磁の碗で、内面に櫛目文が認められる。12世紀中頃から13世紀前半の時期のものである。出土した遺物から本遺構の時期は中世と考える。

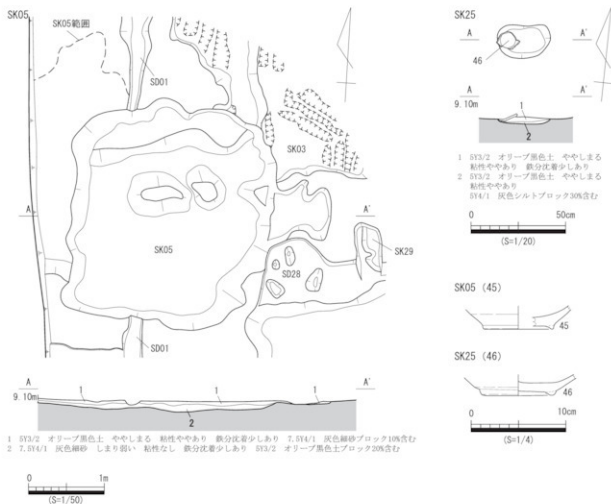


図 23 SK05・SK25 遺構図、出土遺物

SK44 (遺構図: 図 25)

A地区の南部、P 8～Q 9 グリッドに位置し、1 b 層基底面で検出した。形状は大きい不定形である。黒っぽく見える範囲を大きく平面形としたが、SK45 との切り合い関係は不明瞭であった。2層に分層したが、1層が大半を占める。堆積状況は不明である。底面は平坦であるが把握しづらく、4区画を下げていき、底面に別遺構と思われる平面形が見えてきた時点で当遺構の底面と判断した。性格不明の土坑である。

遺物は、土師器 29 点、灰釉陶器 5 点、山茶碗 68 点が出土し、灰釉陶器と山茶碗を図示した。山茶碗が多いが、美濃窯産の灰釉陶器 (50) の破片は比較的大きなものであった。内面に使用痕があり、明和 27 号窯式～西坂 1 号窯式頃のものである。51 は美濃窯産の山茶碗で、浅間窯下 1 号窯式の時期のものである。52 は尾張型山茶碗の第 4 型式のもので、内面に使用痕が認められる。53 は尾張型山茶碗第 5 型式のもので、内面全面に煤状の付着物が認められる。出土した遺物や切り合い関係から本遺構の時期は 12 世紀後半から 13 世紀前半と考える。

SK45 (遺構図: 図 26)

A地区の南部、Q 9 グリッドに位置し、1 b 層基底面で検出した。東側が調査区外で、西側が SK44 に切られるため、全体の形状ははっきりしない遺構である。東壁調査区土層断面でも掘りこみを確認できるため、東西方向に長い土坑と判断した。平面形はやや明瞭であったが、SK44 との境目は不明瞭であった。調査区東壁土層断面でも掘りこみを確認し、遺構の範囲を判断した。2層に分層したが、1層が大半を占める。堆積状況は不明。底面はほぼ平坦である。性格不明の土坑である。

遺物は、土師器 12 点、灰釉陶器 2 点、山茶碗 9 点が出土し、灰釉陶器と山茶碗を図示した。54 は美濃窯産の灰釉陶器で、底部外面に回転糸切痕が認められる。丸石 2 窯式のものである。55・56 は尾張型山茶碗第 5 型式のものである。出土した遺物と切り合い関係から本遺構の時期は 12 世紀後半から 13 世紀前半と考える。

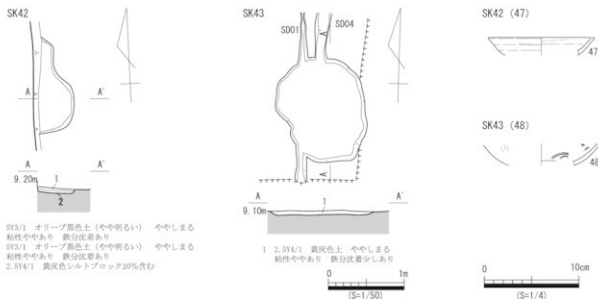


図 24 SK42・SK43 遺構図、出土遺物

SK46 (遺構図: 図27)

A地区の南部、Q8・Q9グリッドに位置し、1b層基底面で検出した。形状は南北方向に長い不整形長方形であるが、西側は調査区外となる。平面形はやや不明瞭であったが、切り合うSK44の埋土よりもやや淡いように見えた。上下2層に分層した。水平堆積である。底面の形状からは中央が凹み、西側に曲がっていく溝状遺構にも見える。掘削時には底面の判断が難しく、黒色の砂質土を下の遺構(SD35)の埋土と判断した。性格不明の土坑である。

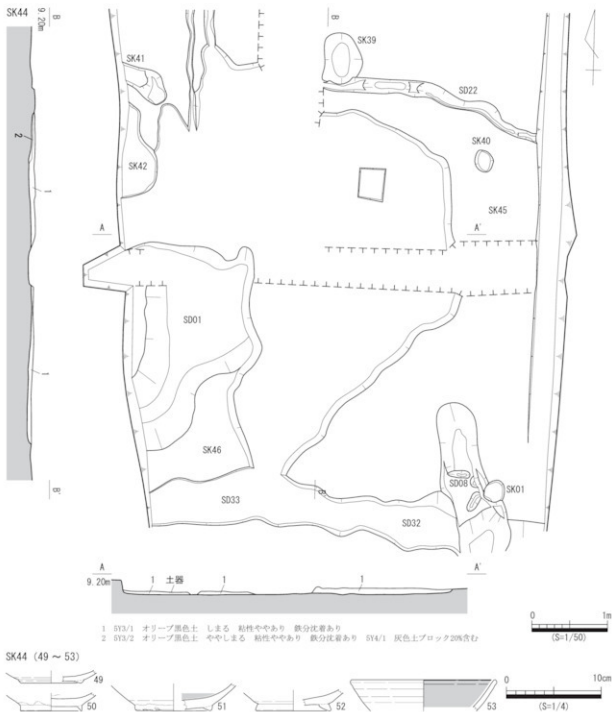


図25 SK44 遺構図、出土遺物

遺物は、山茶碗 58 点を中心に土師器 23 点、灰釉陶器 7 点、中近世陶器 2 点が出土し、伊勢型鍋、灰釉陶器、山茶碗を図示した。57・58 は伊勢型鍋の口縁部で、ともに外面に煤状の付着物が認められる。57 は 12 世紀後半～13 世紀前半の時期のものである。58 は 12 世紀から 13 世紀のものか。59 は美濃窯産の灰釉陶器の底部で、外面に回転糸切痕、内部に使用痕が認められる。丸石 2 号窯式の時期のものである。60 は美濃窯産の灰釉陶器の口縁部で、大原 2 号窯式のものである。61～65 は尾張型山茶碗第 5 型式のものである。62・64 は内面に煤状の付着物が認められる。出土した遺物から本遺構の時期は 12 世紀後半から 13 世紀前半と考える。

SK48 (遺構図：図 28)

A 地区の南部、Q 9 グリッドに位置し、I b 層基底面で検出した。形状は肩部がないため、不明である。周辺の遺構を掘削し、残った部分を当遺構の範囲としたが、全体にブロック状の灰色土が混じ

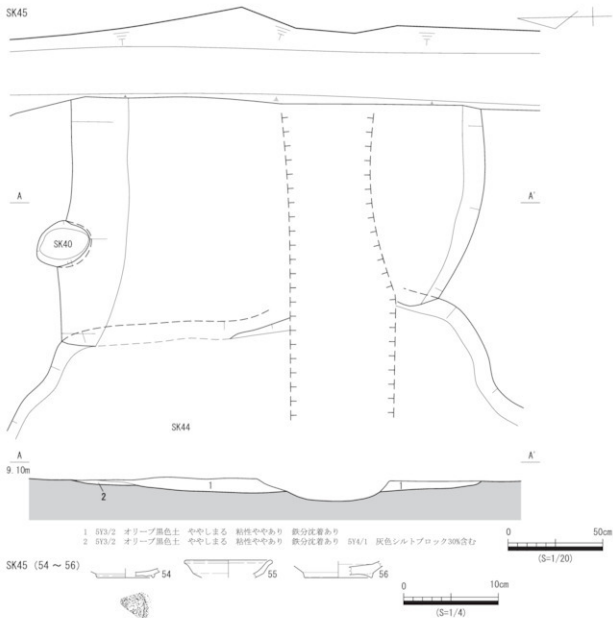


図 26 SK45 遺構図、出土遺物

る状況が確認できた。単層で、オリーブ黒色土に、灰色土がブロック状に混じる。底面は平坦である。SD36の埋土（黒色砂質土）上面を底面と判断した。性格不明であるが、掘りこみが確認できないことや埋土の状況から、SD36埋土の一部である可能性も考えられる。

遺物は、土師器14点、灰釉陶器5点、山茶碗39点が出土し、山茶碗を図示した。66は尾張型山茶碗第5型式のもので、内面に煤状の付着物が認められる。出土した遺物や他の遺構との重複関係から本遺構の時期は12世紀後半から13世紀前半と考える。

SP1（遺構図：図29）

A地区の中部、M8グリッドに位置する。形状は小楕円形で、壁はほぼ垂直に立つ。Ⅲ層を除去し、Ⅳ層上面で検出した。SD23周辺から北のⅢ層が堆積する部分に位置する。平面形は比較的明瞭であった。埋土は2層に分層したが、1、2層は垂直方向に分層できるため、2層は柱痕跡と思われる。底面は平坦である。南側にも柱穴（SP2）があるが、周辺ではそれ以外の柱穴は検出されなかったため、それぞれ単独の柱穴とした。

遺物の出土はなかった。Ⅳ層上面で検出したことから、本遺構の時期は中世と考える。

SP2（遺構図：図29）

A地区の中部、M8グリッドに位置する。形状は小楕円形で、壁面はほぼ垂直に立つ。Ⅲ層を除去

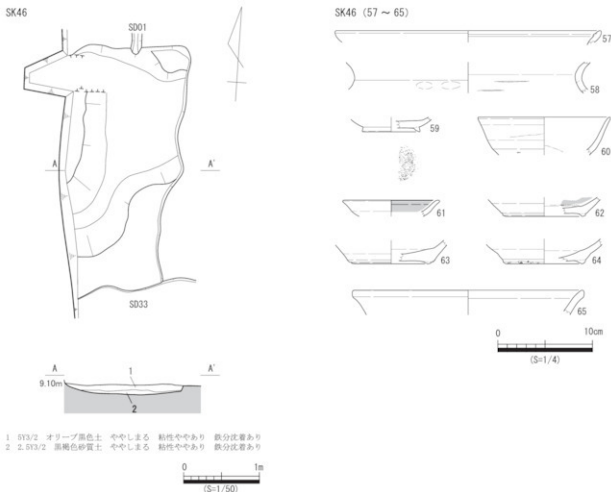


図27 SK46遺構図、出土遺物

し、IV層上面で検出した。SD23 周辺から北のⅢ層が堆積する部分に位置する。平面形はやや明瞭であった。埋土は4層に分層したが、2、3層は垂直方向に分層できるため、柱痕跡の可能性はある。底面は平坦である。北側に柱穴（SP1）があるが、周辺ではそれ以外の柱穴は検出されなかったため、それぞれ単独の柱穴とした。

遺物の出土はなかった。IV層上面で検出したことから、本遺構の時期は中世と考える。

SP3（遺構図：図 29）

A地区の南部、Q 9 グリッドに位置する。形状は小円形で、断面形は尖る。SK46、SK44、SD35 を掘削し、その肩口のIV層が露出した面で検出した。埋土は3層に分層した。1、2層が柱痕跡になると思われる。3層はブロックが混じることから、人為的に埋め込んだ土の可能性が考えられる。底面は中央部分が尖るように一段下がる。東側に柱穴（SP4）があるが、他の柱穴は検出されなかったため、それぞれ単独の柱穴とした。

遺物の出土はなかった。12世紀後半から13世紀前半と思われるSK46・SK33・SD35 など周辺の遺構を掘削した後で検出したことから、本遺構の時期は12世紀後半から13世紀前半かそれ以前と考える。

SP4（遺構図：図 29）

A地区の南部、Q 9 グリッドに位置する。形状は楕円形で、壁面はやや立つ。SD36 を完掘した底面で検出した。平面形は明瞭であった。埋土は3層に分層した。2層が垂直方向に分層でき、その部分

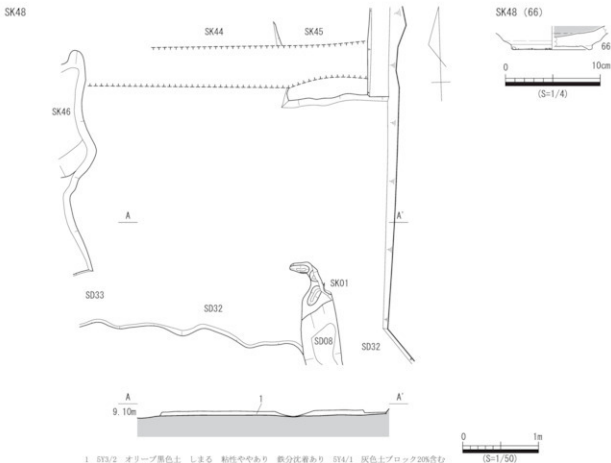


図 28 SK48 遺構図、出土遺物

が深くなる。底面は丸くなる。西側に柱穴 (SP3) があるが、他の柱穴は検出されなかったため、それぞれ単独の柱穴とした。

遺物の出土はなかった。12世紀中頃から12世紀後半と思われるSD36の底面で検出したことから、本遺構の時期は12世紀中頃から12世紀後半かそれ以前と考える。

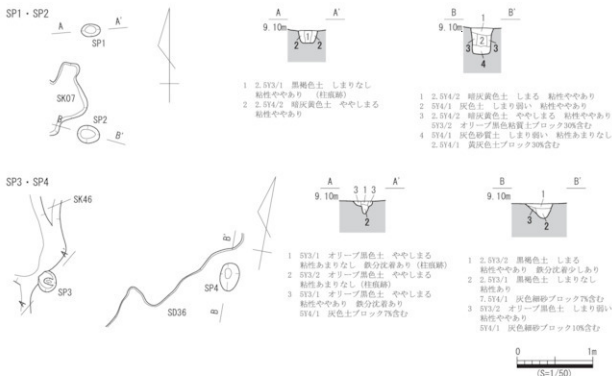


図 29 SP1～SP4 遺構図

第5節 B地区の遺構・遺物

1 包含層出土遺物

出土遺物を種別で見ると、山茶碗の割合が多く、次に中近世陶磁器・中世土師器が多く出土し、A地区包含層の出土遺物と同じような傾向が見られた。層位別に見ると、遺物の多くはI a・I b層からの出土である。山茶碗が多く出土するのはII層よりも上層であり、III層では土師器の割合が多くなる。IV層（洪水堆積層）よりも下層で出土した遺物はわずかであった。

遺物は、67～164を包含層出土遺物として図示した。67は土鉢である。68・69は同一個体で脚のつく瓦質土器である。70は用途不明土製品である。71は土師器甕で9から10世紀のものである。72は伊勢型鍋で11世紀のものである。73・74は土師器皿で13から14世紀のものである。75～87は須恵器である。75は美濃須衛窯産の坏の蓋で7世紀後半から8世紀前半のもの、76は美濃須衛窯産の無台坏で7世紀後半から8世紀前半のもの、77は美濃須衛窯産の有台盤で8世紀後半から9世紀前半のもの、78は美濃須衛窯産の高坏の脚部で7世紀後半のもの、79は大甕の口縁部で6世紀後半から7世紀前半のもの、80は甕で6世紀後半から7世紀前半のもの、81は美濃須衛窯産の甕で8世紀後半のものである。82は須恵器の甕で、叩き・当て具痕がある。83・84は美濃須衛窯産の長頸瓶で8世紀代のもので、85は壺、86は瓶、87は美濃須衛窯産の有台坏で8世紀後半から9世紀前半のものである。88～93は灰軸陶器である。88は碗でK-90号窯式のもの、89は大原2号窯式のもの、90は深碗、91は碗でともに虎渓山1号窯式のもの、92・93は深碗で丸石2号窯式のものである。94は美濃須衛窯産の灰軸陶器の三筋壺で山茶碗の時期のものである。95～118は山茶碗である。95は美濃須衛窯産の小碗、96は美濃須衛窯産の碗でVIII期のもの、97は碗で丸石3号窯式のもの、98は碗で尾張型山茶碗第3型式のもの、99・100は皿で尾張型山茶碗第4型式のもの、101は碗で尾張型山茶碗第4型式のもの、102は片口鉢で尾張型山茶碗第4型式のもの、103～110は碗で尾張型山茶碗第5型式のもの、111～114は皿で尾張型山茶碗第5型式のもの、115は片口鉢で尾張型山茶碗第5型式のもの、116は片口鉢で尾張型山茶碗第5～6型式のもの、117は片口鉢で尾張型山茶碗第6型式のもの、118は尾張型山茶碗第8型式のものである。119～127は中国製陶磁器である。119は青磁碗で12世紀中頃から13世紀前半のもので、内面に劃花文を施す。120～123は白磁碗で、120は12世紀前半、121～123は12世紀中頃から13世紀前半のものである。124は白磁碗である。125～127は青磁碗である。125は13世紀中頃から14世紀のもので内面に鎬連弁文を施す。126は13世紀中頃から14世紀中頃のもので鎬連弁文を

表10 B地区包含層出土遺物一覧（接合前破片数）

包含層位	中世土師器	時期不明土師器	須恵器	灰軸陶器	山茶碗	中近世陶器	中国製陶磁器	瓦質土器	土製品	石器・石製品	金属製品	木製品	骨	炭化物	種子	合計
I a・I b層	69	30	14	27	488	281	8	2	12	6	6	2	1	0	5	951
II層（第1面包含層）	14	8	4	3	64	7	1	0	1	0	1	0	0	1	5	109
III層（第1面水田の床土）	1	31	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	2	5	44
IV層（洪水堆積層）	0	6	5	0	2	0	0	0	1	1	0	12	1	0	41	69
V層（第2面水田の床土）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	84	76	24	30	556	289	9	2	14	8	7	14	2	3	56	1174

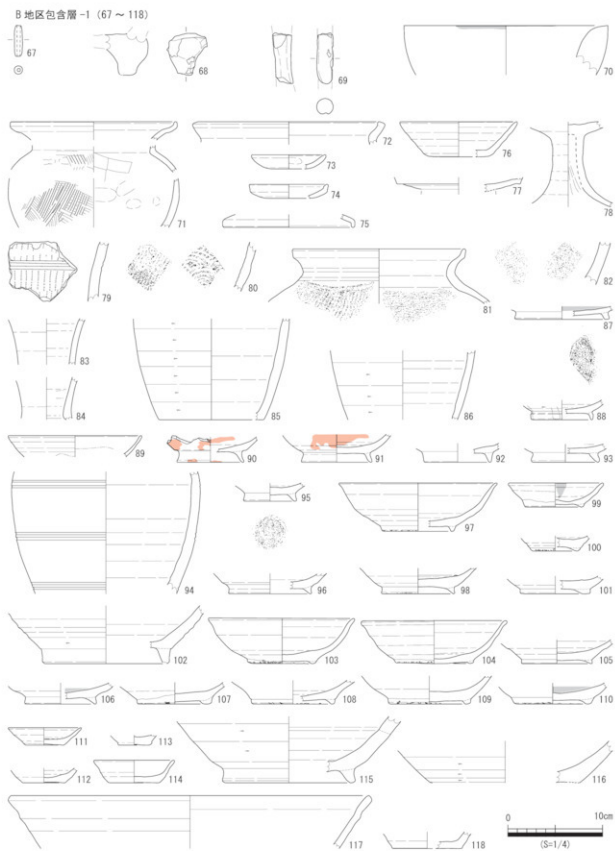


図30 B地区包含層出土遺物(1)

B地区包含層-2 (119 ~ 164)

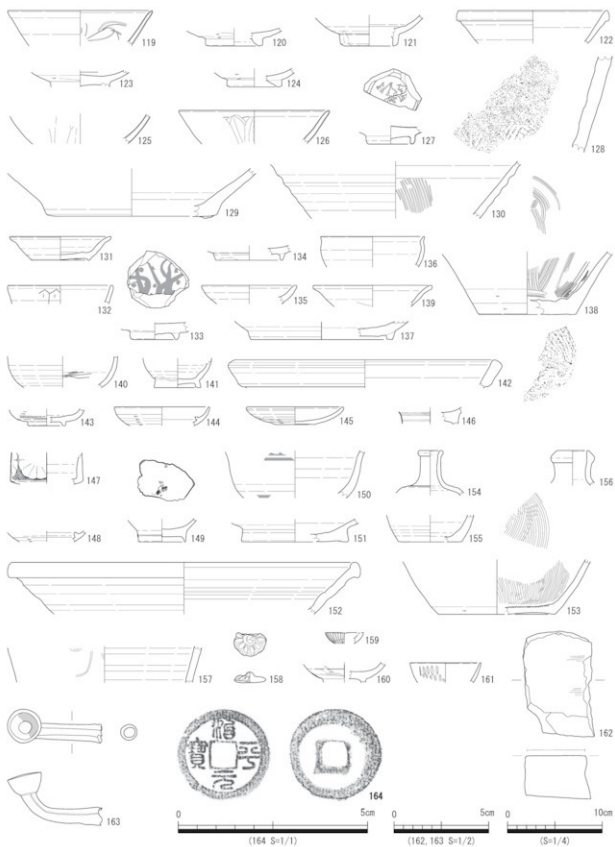


図31 B地区包含層出土遺物(2)

施す。127は15世紀後半から16世紀前半のものである。128～161は中近世陶磁器である。128・129は常滑の甕、130は播鉢で古瀬戸後IV期から大窯第1段階のもの、131は稜皿、132は丸碗で大窯第3窯段階のもの、133は唐津窯産の向付茶碗で16世紀末から17世紀初めのもの、134は瀬戸美濃窯産の皿である。135は志野皿で登窯第2小期のもの、136は天目茶碗で登窯第3小期のもの、137は美濃窯産の黄瀬戸鉢で登窯第3小期から第4小期のもの、138は瀬戸窯産の播鉢で登窯第1小期から第4小期のもの、139は瀬戸窯産の輪充皿で登窯第5小期のもの、140は美濃窯産の尾呂茶碗で登窯第7小期のもの、141は美濃窯産の小瓶で登窯第7小期のもの、142は瀬戸窯産の播鉢で登窯第7小期のもの、143は美濃窯産の鍍湯呑で登窯第8小期のもの、144・145は美濃窯産の灯明皿で登窯第10小期のもの、146は瀬戸窯産の広東碗で登窯第10小期のもの、148は美濃窯産の灯明皿で登窯第11小期のもの、149は瀬戸窯産の広東碗で登窯第11小期のもの、150は瀬戸窯産の菓子鉢で登窯第11小期のもの、151は美濃窯産の片口鉢で登窯第11小期のもの、152は瀬戸窯産の播鉢で登窯第11小期のもの、153は瀬戸窯産の播鉢で登窯第10小期から第11小期のもの、154・155は美濃窯産の油徳利で登窯第10小期から第11小期のもの、156は美濃窯産の徳利で登窯第11小期のもの、157は瀬戸窯産の水瓶で登窯第11小期のもの、158は蓋で江戸時代後半のもの、159は肥前窯産の紅皿、160は肥前窯産の碗、161は器種不明で近世以降のものである。162は砥石、163は煙管、164は中国の古銭で上・右・下・左の順に治平元寶と記される。北宋で1056年に初铸されたものである。

2 B地区第1面の遺構と遺物

B地区第1面では、70基の遺構を検出した。表土掘削においてI・II層を掘削した段階でSN7南畦畔を検出したことから、III層上面を第1面の調査面として遺構検出を行った。検出した畦畔の区画内を掘削し、耕作土と考えられる土を下げ、床土上面を検出した。耕作土と床土の違いは不明瞭で、掘削深度をあやまった部分があると思われる。畦畔を検出した面は、後世の削平を受けていると考えられる。

表11 B地区第1面遺構数一覧

遺構種別	SD	SK	SM	SN	SR	NR	合計
遺構数	27	10	3	27	2	1	70

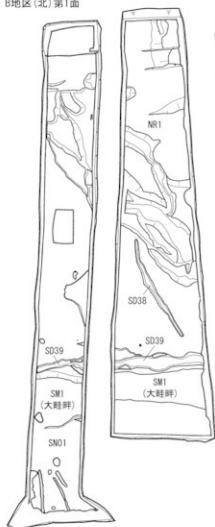
SM1 (遺構図：図32・33)

B地区の北部で、東西方向に検出した。西側は盛土を調査区壁面と合わせて確認したが、東側は表土掘削時に下げていたため、基底部のみ確認した。幅は約5mの大畦畔で、一部調査区外となるが約14mにわたって確認した。第2面の調査では、SM1の部分が洪水によって破壊されているため、何があったかは判断できない。しかし、第2面でSX1とした部分が、北に向かって下がっていくことや、SM1の北側と南側では田面の高さが20cm程度違うことから地形の変化点であったと考えられる。このことから、従来から土地の境界とされていたと思われる。遺物の出土はなかった。

SM2 (遺構図：図32・34)

B地区の南部で、AC～Dラインの東西方向で検出した。C1から東に向かって延びるが、C4あたりで南に向きを変えて幅が狭くなり、D4で止まる。SM1ほどではないが、他の畦畔と比べて幅広の畦畔である。検出した状況から同時期に存在していたと考えられるが、途中で止まることから、SM1と同様の性格をもつとは考えにくい。詳細は不明である。遺物の出土はなかった。

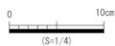
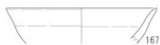
B地区(北)第1面



SN16 (166)



SN26 (167)



B地区(南)第1面

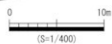
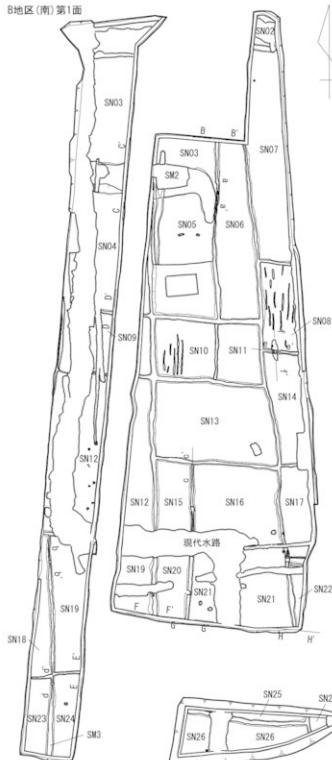
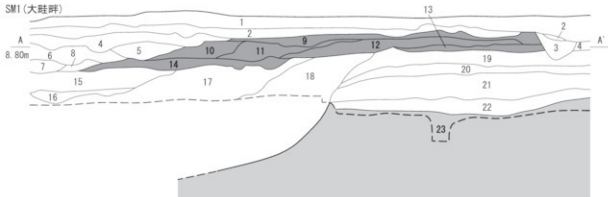


図32 B地区第1面水田遺構図、SN16・SN26出土遺物

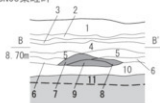
SM3 (遺構図: 図32)

B地区の南西部で、南北方向に検出した。ほぼ真北に延び、1面と2面で唯一位置を変えない畦畔である。幅は約0.5mであるが、第2面では、さらに幅広(約1m)の畦畔が確認された。遺物の出土はなかった。



- 1 1014/1 灰色土 しまり弱い 粘性ややあり (1a層)
- 2 1013/1 オリーブ黒色土 しまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり (1b層)
- 3 7.514/1 灰色シルト ややしまる 粘性なし 鉄分沈着少しあり 1014/1 灰色粗砂ブロック10%含む
- 4 514/1 灰色シルト ややしまる 粘性なし 鉄分沈着少しあり
- 5 513/2 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 7.514/1 灰色細砂ブロック10%含む
- 6 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 514/1 灰色細砂ブロック7%含む
- 7 1013/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり 7.514/1 灰色細砂がラミナ状に混じる 植物遺体少し混じる (S109堆土)
- 8 7.513/2 オリーブ黒色細砂 しまりなし 粘性なし 7.514/1 灰色シルトがラミナ状に混じる (S109堆土)
- 9 7.514/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 鉄分沈着少しあり (S81盛土)
- 10 7.514/1 灰色シルト しまり弱い 粘性なし 鉄分沈着少しあり 7.514/2 灰オリーブ粗砂がラミナ状に40%混じる (S81盛土)
- 11 7.514/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 植物遺体多く混じる (S81盛土)
- 12 1014/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 植物遺体多く混じる (S81盛土)
- 13 7.514/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 鉄分沈着少しあり (S81盛土)
- 14 514/1 灰色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 1014/1 灰色細砂がラミナ状に混じる (S81盛土)
- 15 2.513/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 7.514/1 灰色細砂ブロック25%混じる
- 16 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.514/2 灰オリーブ粗砂ブロック5%混じる 植物遺体少し混じる
- 17 1014/1 灰色粗砂 しまりなし 粘性なし 径1cm以下の形角礫5%混じる
- 18 7.513/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 1013/1 灰色粗砂がラミナ状に混じる
- 19 7.513/1 灰色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 514/1 灰色細砂がラミナ状に混じる 植物遺体混じる (IV層)
- 20 1014/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 7.514/1 灰色シルトがラミナ状に混じる 植物遺体少し混じる (IV層)
- 21 1014/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 7.513/1 オリーブ黒色土 7.514/1 灰色シルトがラミナ状に混じる 植物遺体混じる (IV層)
- 22 513/2 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 7.514/1 灰色土ブロック20%混じる 植物遺体少し混じる 上面からの踏み込みに1014/1 灰色細砂が入る
- 23 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.514/1 灰色土ブロック5%混じる 植物遺体少し混じる (V層)

SN03東畦畔



- 1 1014/1 灰色土 しまり弱い 粘性ややあり 鉄分沈着あり (1a層)
- 2 1013/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり (1b層)
- 3 514/1 灰色砂質土 しまり弱い 粘性なし 鉄分沈着あり 部分的に 513/1 オリーブ黒色土とのラミナ状構構が見られる (洪水堆積層?)
- 4 1014/1 灰色砂質土 ややしまる 粘性なし 鉄分沈着あり 植物遺体わずかに混じる
- 5 513/1 オリーブ黒色土 ややしまり弱い 粘性ややあり 鉄分沈着少しあり 植物遺体わずかに混じる
- 6 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着少しあり 植物遺体わずかに混じる (1面水田耕作土)
- 7 7.514/1 灰色土 しまる 粘性ややあり 1013/1 灰色細砂ブロック6%含む (SN03東畦畔盛土)
- 8 1014/1 灰色砂質土 ややしまる 粘性なし (SN03東畦畔盛土)
- 9 1015/1 灰色シルト ややしまる 粘性なし (SN03東畦畔盛土)
- 10 1015/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 7.513/1 オリーブ黒色細砂との互層がラミナ状に繰り返す 植物遺体少し混じる 下部に513/1 オリーブ黒色粗質土が部分的に多く混雑する (IV層)
- 11 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.514/1 灰色細砂ブロック1%含む 植物遺体少し混じる (2面水田耕作土)

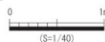


図33 SM1 (大畦畔)・SN03 遺構図

SN01～SN27 (遺構図: 図 32)

第1面・第2面ともにB地区の大部分において水田遺構を確認した。第1面と第2面の間には洪水堆積層A (IV層) が認められることから、第1面の水田は第2面の水田が洪水によって砂層で覆われた後に復旧したものと思われる。水田遺構の小区画の形態には違いが認められるが、SM1 (調査区北部の東西方向の大畦畔) と SM3 (調査区南西部の南北方向の大畦畔) によって大きく3つに区画される点は共通している。SM1 北側を大区画①、SM3 西側を大区画②、SM1 南側・SM3 東側を大区画③として、大区画ごとにそれぞれの小区画水田について述べる。第1面では、SN01～SN27 の27枚の小区画水田を確認した。

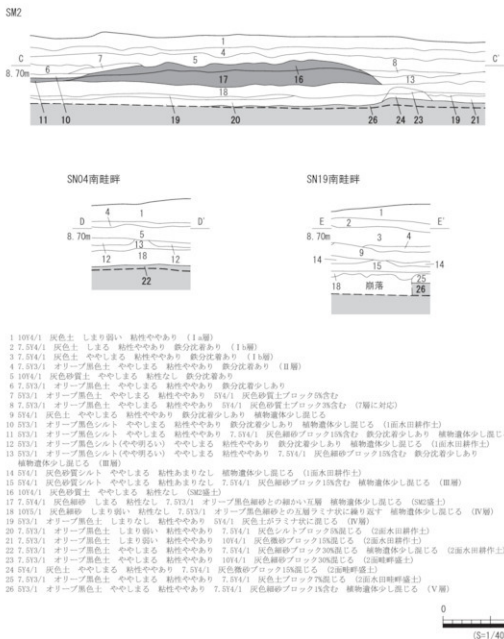


図 34 SM2、SN04、SN19 遺構図

大区画① (SM1 北側)

SM1 北側では畦畔や耕作土等、水田跡と思われる痕跡は検出されなかった。SM1 の北側には、それに沿った溝状遺構 (SD39) が認められ、その北側には少し空間を挟み、自然流路が北西から南東に向けて流れている。自然流路と SM1 の間には、溝状遺構 (SD38) が自然流路と大畦畔沿いの溝状遺構 (SD39) をつなぐような配置で認められる。

大区画② (南西部畦畔西側、SN18・SN23)

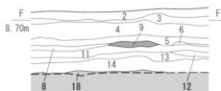
小区画水田を2枚検出した。いずれも部分的な検出であるが、長方形区画になると考えられる。SN18 と SN23 の東畦畔には1つずつ水口を検出した。田面の中央標高は SN18 で 8.38m なのに対して、SN23 では 8.27m と低くなっている。

また、SN23 の東端には畦畔に沿って南北方向の溝状遺構 SD64 を検出した。SD64 は、幅は 50cm ほどで、深さはなく、浅い。平面形はやや明瞭であった。単層で、砂質土が堆積する。底面はセクションポイント付近に凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。性格不明の溝状遺構だが、畦畔に沿うことや、第2面の畦畔上の石が見えていることから、畦畔を盛るときに凹んだ跡の可能性がある。遺物の出土はなかった。南部底面に見えていた石は、第2面の水田畦畔に置かれた石であった。III層上面で検出したことから、石が置かれた時期は中世と思われる。

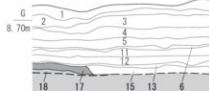
大区画③ (SM1 南側・南西部畦畔東、SN01～SN17・SN19～SN22・SN24～SN27)

小区画水田を27枚検出した。区画全体を検出したものは少ないが、畦畔は直線的であることから、大部分は方形もしくは長方形区画の水田遺構になると思われる。大区画の南東部には、盛土と思われる層が認められた。南東方向に向かって下がる、もともとの自然地形を大きく変えて平坦な土地を作りだしたことが想定される。SM3 から東へは、約 11m (およそ 109m の 10 分の 1) の間隔で南北方向に2本の畦畔が存在することから、条里地割による水田遺構で、1町方格の内部は長地型地割であつ

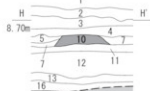
SN19東畦畔



SN15東畦畔



SN21東畦畔



- 1 5Y4/2 灰オリーブ色土 ややしまる 粘性ややあり 畝分沈着あり (隣接水田への給水路盛土)
- 2 7.5Y4/1 灰色土 しまり強い 粘性ややあり 畝分沈着多い (Ia層)
- 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり 畝分沈着多い (Ib層若しくは盛土か)
- 4 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり (II層)
- 5 5Y4/1 灰色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし
- 6 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり強い 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色土がラミナ状に混じる 植物遺体少し混じる
- 7 7.5Y4/1 灰色細砂 しまり強い 粘性なし
- 8 10Y3/1 オリーブ黒色土 しまり強い 粘性あまりなし 植物遺体少し混じる (I面水田耕作土)
- 9 7.5Y4/1 灰色シルト ややしまる 粘性あまりなし 植物遺体少し混じる (I面畦畔盛土)
- 10 5Y4/1 灰色砂質シルト ややしまる 粘性あまりなし 7.5Y4/2 灰オリーブ色粗砂ブロック10%含む (I面畦畔盛土)
- 11 5Y4/1 灰色砂質シルト ややしまる 粘性あまりなし 植物遺体少し混じる (III層)
- 12 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色細砂2%混じる 植物遺体少し混じる (III層対応、帯地盛土か?)
- 13 10Y4/1 灰色細砂 しまり強い 粘性なし 部分的に 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂とのラミナ状堆積が見られる (IV層)
- 14 5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり強い 粘性ややあり 植物遺体少し混じる 7.5Y4/1 灰色細砂ブロック10%混じる (I面水田耕作土)
- 15 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体少し混じる (I面水田耕作土)
- 16 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり強い 粘性ややあり 植物遺体少し混じる (I面水田耕作土)
- 17 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまり強い 粘性ややあり 植物遺体わずかに混じる (I面水田耕作土)
- 18 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり (V層)

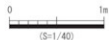


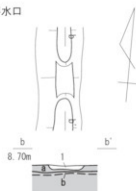
図 35 SN15・SN19・SN21 遺構図

SN03東睦畔水口



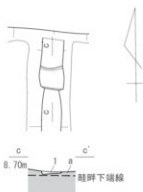
- 1 2.5Y4/1 黄灰色土 しまり弱い 粘性あまりなし
- 7.5Y4/1 灰色細砂ブロック10%含む
- a 7.5Y4/1 灰色砂質シルト ややしまる 粘性なし (SN03東睦畔盛土)

SN18東睦畔水口



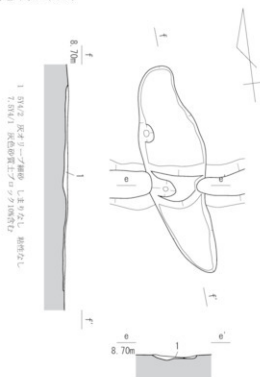
- 1 5Y4/1 灰色砂質シルト しまり弱い 粘性あまりなし
- a 7.5Y4/1 灰色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし (SN18東睦畔盛土)
- b 10Y5/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし (IV層)

SN15東睦畔水口



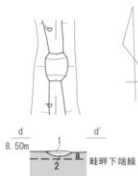
- 1 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり
- a 7.5Y4/1 灰色シルト しまる 粘性ややあり
- 5Y4/2 灰オリーブ細砂ブロック10%混じる (SN15東睦畔盛土)

SN08南睦畔水口 (SD57)



- 1 5Y4/2 灰オリーブ細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.5Y4/1 灰色砂質土ブロック10%含む

SN23東睦畔水口



- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性あまりなし 植物遺体が混じる
- 2 5Y4/1 灰色シルト ややしまる 粘性あまりなし
- a 7.5Y4/1 灰色シルト しまる 粘性あまりなし
- 5Y4/2 灰オリーブ細砂ブロック10%混じる (SN23東睦畔盛土)



図 36 SN03・SN08・SN15・SN18・SN23 遺構図

B地区(南)第1面

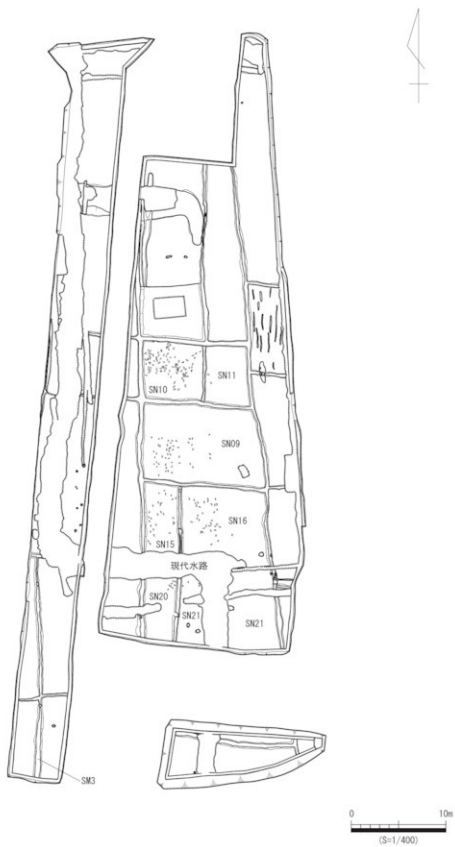


図37 B地区(南)第1面足跡検出状況図

SN10・SN11区画内簡溝・足跡

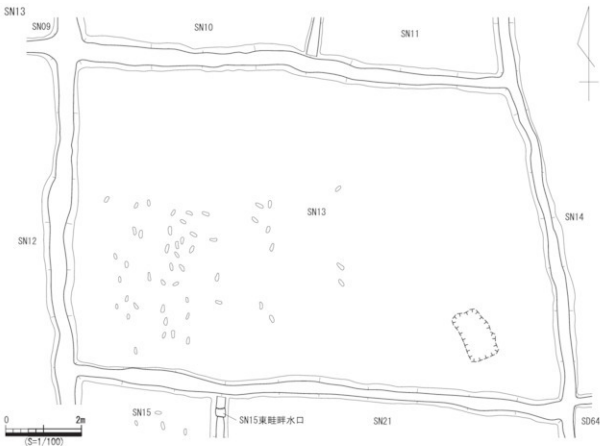
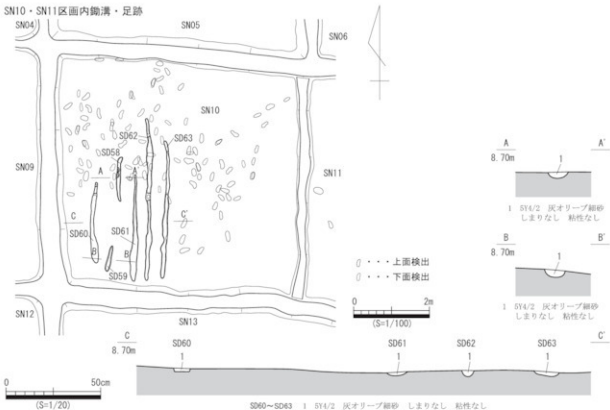


図 38 SN10・SN11・SN13 遺構図

SN15・SN16・SN21



図 39 SN15・SN16・SN21 遺構図

SN08区内跡溝

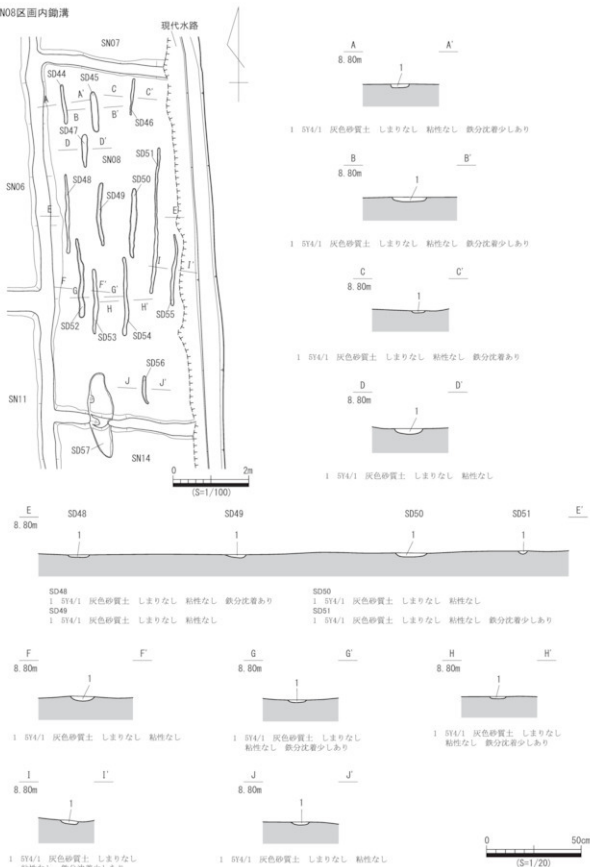


図 40 SN08 遺構図

たことが推測される。これは第2面の調査における水田区画では見られなかったことで、洪水後に水田を復旧する際には、大がかりな造成工事が行われたことが考えられる。このためか、水田畦畔はIV層から盛っているもの(SN3 東畦畔)やIII層の上から盛っているもの(SN21 東畦畔)が存在する。水口はSN03 東畦畔、SN15 東畦畔、SN08 南畦畔に1つずつ検出した。SN08 南畦畔の水口は両側が少し挟れており、残りがよいものであった。SN08 と SN10 の区画内には耕作跡として南北方向の鋤溝を検出した。SN10・SN13・SN15・SN21 の区画内では、人間の足跡を検出した。SN08・SN10 内で検出した鋤溝は、形状は長さの違いはあるが、いずれも南北方向の細い溝状遺構である。検出した面で、畦畔・足跡・鋤溝が同時に見えていたため、水田面の上部は削平を受けていると考えられる。埋土は細砂で、平面形は比較的明瞭であった。いずれも単層で、浅い溝状遺構である。底面はほぼ平坦である。遺物の出土はなかった。III層上面で検出したことから、中世と思われる。SN10 内では鋤溝と同時に人間の足跡と思われるものを検出したが、その関連性は不明である。

遺物は、水田遺構に伴う畦畔も含めて土師器 23 点、須恵器 2 点、山茶碗 6 点、石製品 1 点、木製品 4 点、種子 2 点が出土し、須恵器(166)と山茶碗(167)を図示した。166 は、SN16 から出土した美濃須衛窯産の無台杯の底部でV期のものである。167 は、SN26 から出土した尾張型山茶碗第3型式～4型式の片口鉢の口縁部である。

SD38 (遺構図：図 41)

B地区の北部、SM1の北側に位置し、SD39とSR2との間に検出した。形状は細長い溝状遺構で、やや湾曲し、幅は中央付近では広がる。埋土は細砂で、平面形はやや明瞭であった。最大で2層に分層したが、水平堆積で自然堆積と思われる。底面は南東から北へ、SR2に向かって低くなっている。

遺物の出土はなかった。III層上面で検出したことから、第1面の水田の時期と同じ中世であると思われる。

SD39 (遺構図：図 42)

B地区の北部、SM1の北側に位置し、SM1に沿うような位置関係で検出した。形状は東西方向の溝状遺構で、幅は1メートル弱から2メートル強まで、幅を変えて続いている。肩部には部分的にテラス状の平坦面が付く。平面形はやや不明瞭であった。最大で3層に分層した。埋土は灰色シルト～細

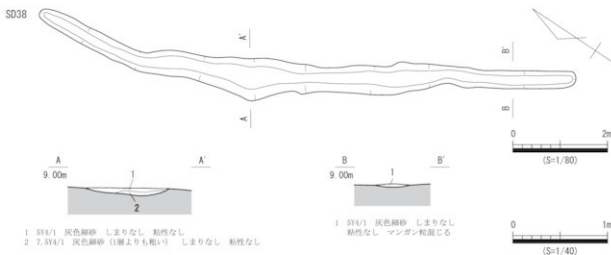


図 41 SD38 遺構図

SD39

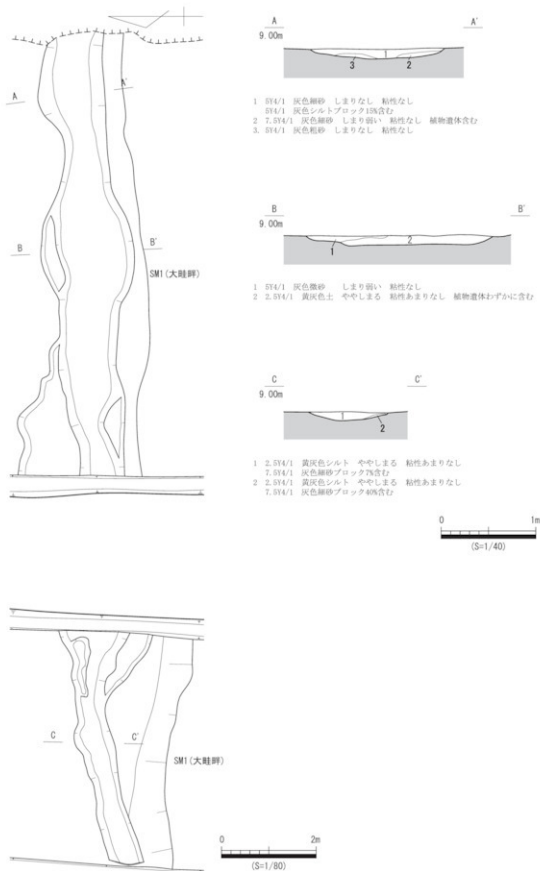


図 42 SD39 遺構図

砂が主体で、水の流れによる自然堆積であると思われる。底面はほぼ平坦である。SM1に伴う溝状遺構であると思われる。

遺物の出土はなかった。SM1に伴うものと思われることから、第1面の水田の時期と同じ中世である可能性がある。

NR1（遺構図：図32）

B地区の北部に位置し、北西から南東方向に向けて検出した。幅は約15mである。第2面の水田は、洪水堆積層Aが上部に堆積した後、別の洪水による激しい水流で一部を破壊されているが、NR1はその洪水堆積層Bを切る。このためNR1は第2面の水田と第1面の水田との間の時期に流れているものであると思われる。NR1内にはそれに伴うと思われる2基の水制遺構（SR1・SR2）を確認した。NR1の埋土からは7～8世紀の須恵器や瓦が出土したが、ローリングを受け摩耗していることから、北西方向から流れてきたものとする。

SR1（遺構図：図43～51）

B地区の北部、NR1（自然流路）内に位置する。北西から南東方向に向かって流れていると考えられる自然流路に対して、ほぼ直交する方向に向いている。断面は台形になると考えられる。2面の水田を壊して流れはじめたと考えられる自然流路（NR1）内に検出した。第1面調査では、この自然流路の粘質土層を表土掘削時に重機でほぼ掘削し、人力によって砂質から砂の層上面まで掘削した。この粘質土層から遺物の出土はなかった。第2面調査では、田面を自然流路が切っていることがはっきりしたため、順次掘り下げていった結果、杭列2列と草敷の一部を確認した。この時点では盛土と自然流路埋土の判別がつかなかったため、範囲を括ることはできなかった。そのためセクションポイントを設けて断ち割りながら、土層を確認し、範囲を確認していった。水制遺構は杭を打設した後に、横木を入れながら盛土して構築されている。盛土は敷葉工法で構築されており、土の間に藁敷（草敷）が挟まれている。土層断面からは、3回土と藁敷きを大きく繰り返して盛土されていることを確認したが、1回目は元々の構築であり、2回目・3回目には水制遺構の補修若しくは拡張といった状況であると考えられる。

第1段階（遺構図：図44）

自然流路の流水方向と直交する方向で杭を打設している。この杭列はBセクションとCセクションの間に境に、東部と西部で方向に若干のずれがある。また東部の杭は太く長く垂直方向に打ち込まれているが、西部は細く短く水流方向にやや寝かせて打ち込まれている。これらの状況やその後の構築状況を見ても、当初打設されたのは東部の杭であり、西部は水制遺構が西側を中心に破壊されたため補修したものか、西に向かって水制遺構を拡張するために東部のものより後（レイアウト図SR1-2の後）に打設されたものであると考えられる。西部の杭のうち、盛土の下層に切断面がある杭が出土したことから、これを水制遺構が破壊された状況を示しているとすれば、補修を考えるのが妥当であると思われる。また、盛土のほぼ基底部分で畜串が出土したことから、水制遺構を構築する最初の段階で祭祀を行い、埋められたと考えられる（図51参照）。

第2段階（遺構図：図45）

杭の打設後、砂混じりの土を盛り、最初の草敷を行っている（対応する草敷はA断面36層、C断面16層、D断面31層）。

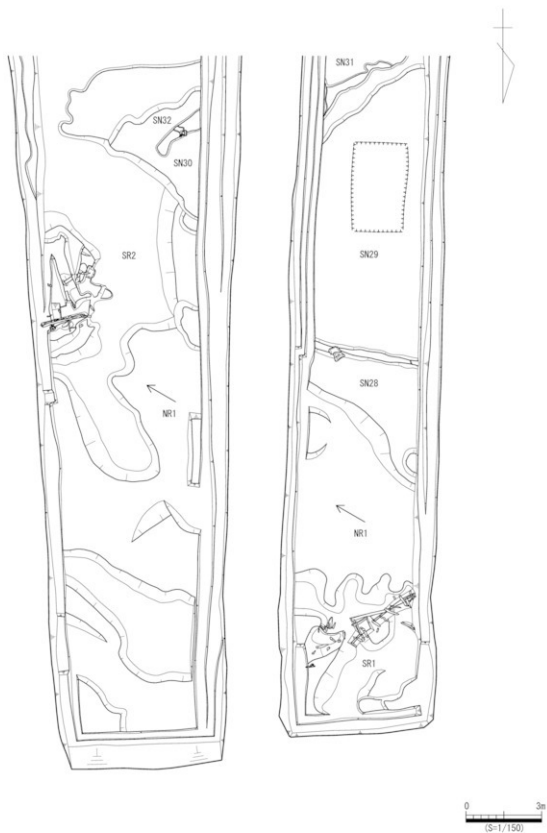


図 43 SR1・SR2 全体図

SR1-1

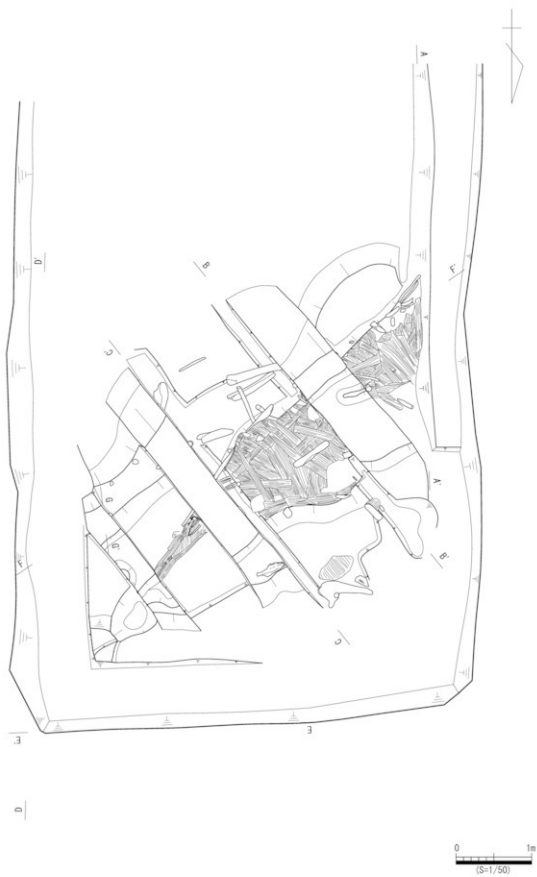


図44 SR1-1遺構図

SR1-2

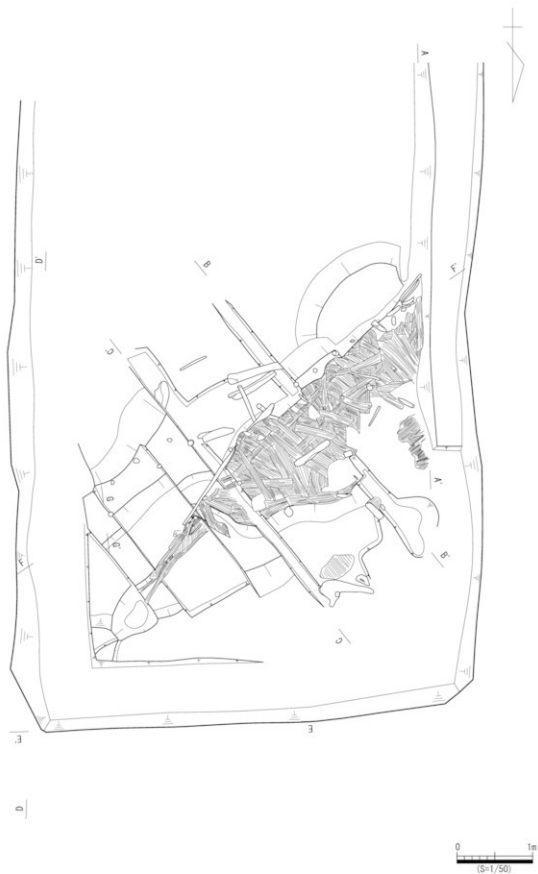


図45 SR1-2遺構図

SR1-3

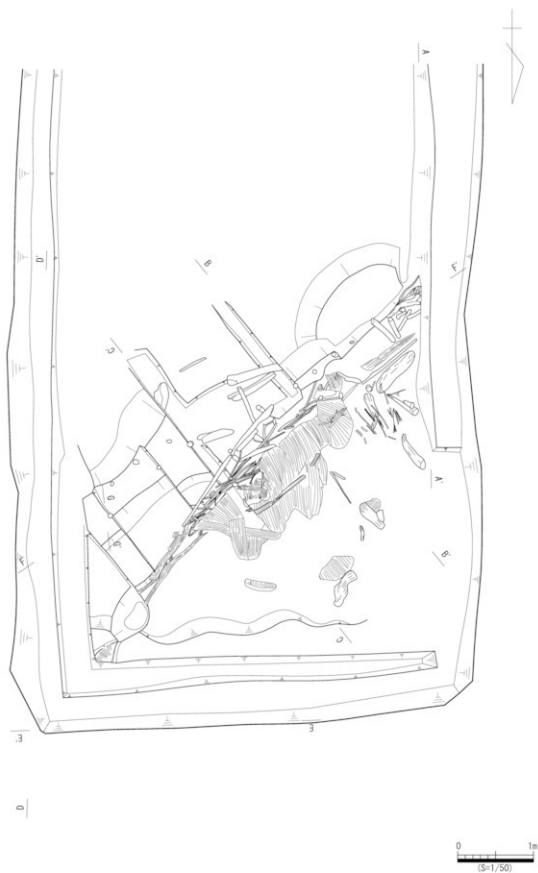


図46 SR1-3遺構図

SR1-4

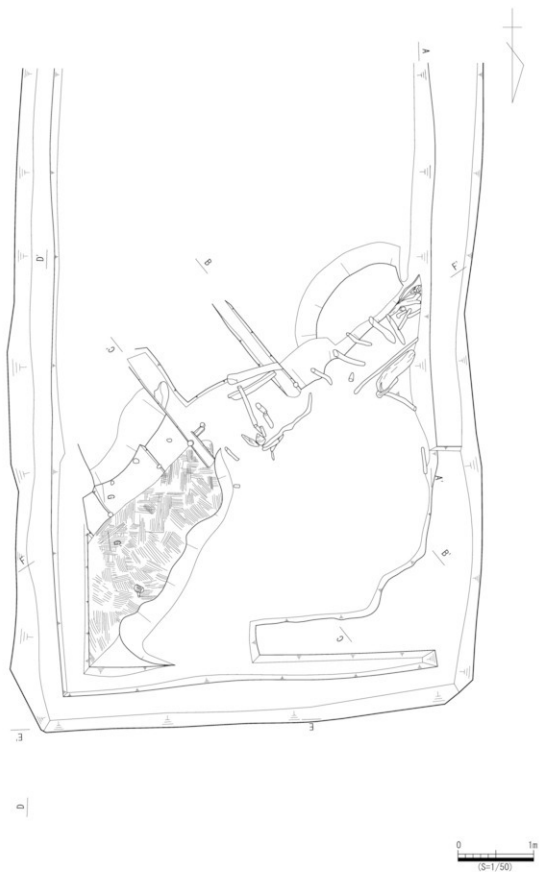


図47 SR1-4 遺構図

SR1-5

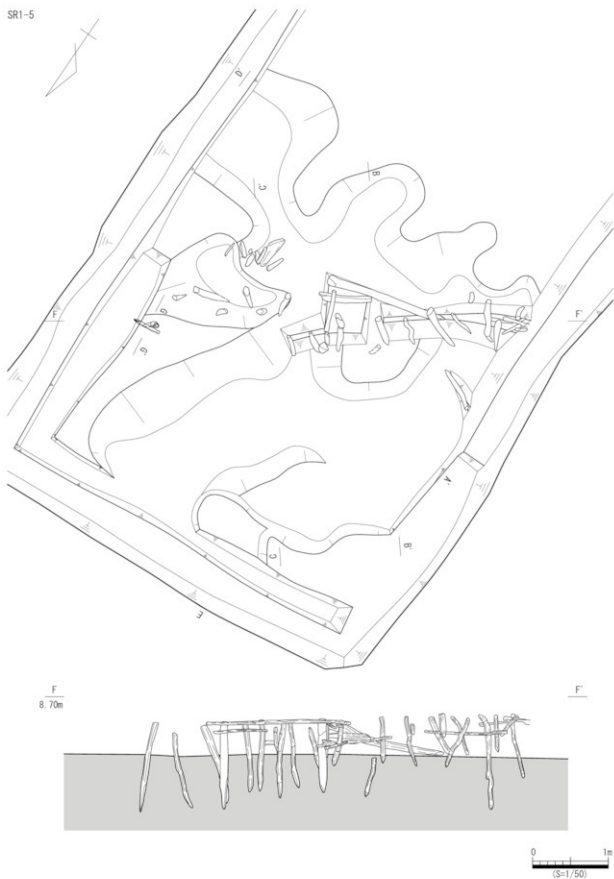


図48 SR1-5遺構図

SR1

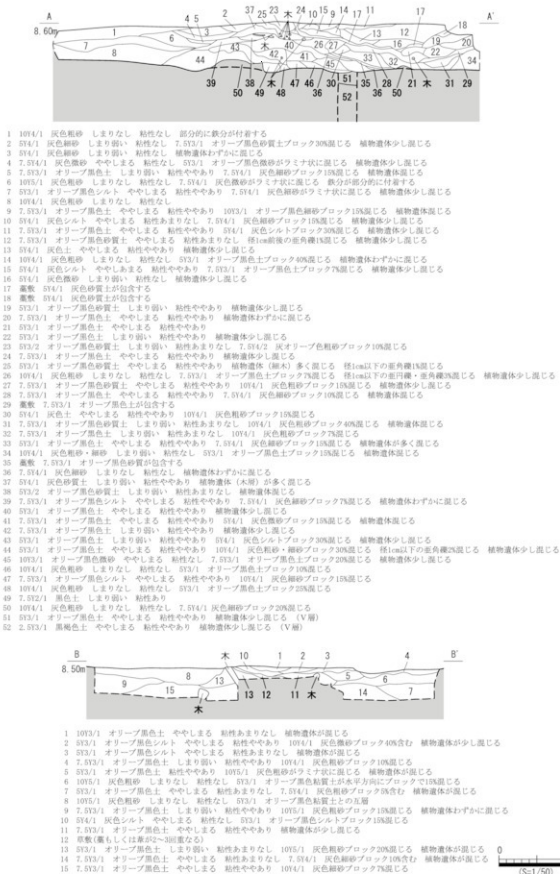
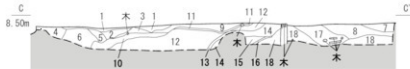
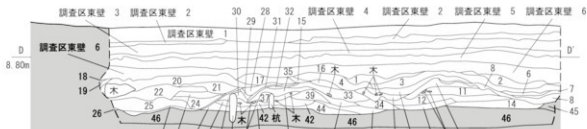


図 49 SR1 遺構図 (1)

SR1



- 1 5Y4/1 灰土色 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロックが2%混じる 植物遺体が少し混じる
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体ほとんど混じる
- 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック15%混じる 植物遺体がわずかに混じる
- 4 5Y2/1 オリーブ黒色砂土 しまり強い 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック2%混じる 植物遺体ほとんど混じる
- 5 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性あり 植物遺体ほとんど混じる
- 6 5Y3L/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック3%混じる 植物遺体ほとんど混じる
- 7 5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 植物遺体ほとんど混じる
- 8 10Y3/1 オリーブ黒色細砂 しまり強い 粘性なし 10Y4/1 灰色粗砂ブロック1%混じる
- 9 5Y2/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック2%混じる 植物遺体ほとんど混じる
- 10 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック2%混じる 植物遺体少し混じる
- 11 藁敷(藁もしくは草が2~3回重なる)
- 12 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体少し混じる
- 13 藁敷(藁もしくは草が2~3回重なる)
- 14 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック3%混じる
- 15 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あまりなし 植物遺体ほとんど混じる
- 16 藁敷(藁もしくは草が2~3回重なる)
- 17 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック1%混じる 植物遺体ほとんど混じる
- 18 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック7%混じる 植物遺体ほとんど混じる



- 1 7.5Y4/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 5Y2/1 オリーブ黒色土が少し混じる 植物遺体少し混じる
- 2 5Y4/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 5Y4/1 灰色シルトが少し混じる
- 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/2 灰オリーブ粗砂ブロック3%混じる 植物遺体混じる
- 4 10Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 10Y4/1 灰色粗砂ブロック7%混じる 植物遺体少し混じる
- 5 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 10Y4/2 オリーブ灰色粗砂ブロック2%混じる 植物遺体少し混じる
- 6 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7 10Y4/2 オリーブ灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 8 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性あまりなし 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック10%混じる
- 9 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 しまり弱い 粘性あまりなし 10Y4/2 オリーブ灰色粗砂ブロック10%混じる 植物遺体(木材)多く混じる
- 10 10Y4/2 オリーブ灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 11 10Y4/2 オリーブ灰色細砂 しまりなし 粘性なし 10Y4/1 灰色粗砂ブロック15%混じる 植物遺体少し混じる
- 12 7.5Y4/2 灰オリーブ粗砂 しまりなし 粘性なし 径1cm以下の亜角礫混じる
- 13 5Y4/1 灰色砂質土 しまり強い 粘性なし 10Y4/1 灰色粗砂ブロック10%混じる 植物遺体多く混じる
- 14 7.5Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 5Y3/1 オリーブ黒色土ブロック30%混じる
- 15 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体少し混じる
- 16 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック7%混じる
- 17 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 7.5Y4/2 灰オリーブ粗砂ブロック30%混じる 植物遺体少し混じる
- 18 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし
- 19 藁敷 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土が包含する
- 20 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック7%混じる 植物遺体少し混じる
- 21 5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック5%混じる 径2cm以下の亜円礫・亜角礫混じる
- 22 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体少し混じる
- 23 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック15%混じる 植物遺体少し混じる
- 24 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック5%混じる
- 25 7.5Y4/1 灰色細砂 ややしまる 粘性なし 5Y4/1 灰色シルトブロック10%混じる 植物遺体少し混じる
- 26 藁敷 7.5Y4/1 灰色細砂が包含する
- 27 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体混じる
- 28 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/2 灰オリーブ粗砂ブロック20%混じる 植物遺体少し混じる
- 29 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック7%混じる 植物遺体少し混じる
- 30 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック30%混じる 植物遺体少し混じる
- 31 藁敷 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土が包含する
- 32 10Y4/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 7.5Y3/1 オリーブ黒色土ブロック20%混じる
- 33 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック15%混じる 植物遺体少し混じる
- 34 10Y3/1 灰色粗砂 しまり強い 粘性なし 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック15%混じる 植物遺体わずかに混じる
- 35 7.5Y4/1 灰色細砂 ややしまる 粘性なし 5Y4/1 灰色シルトブロック10%混じる
- 36 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 10Y4/1 灰色粗砂ブロック20%混じる 植物遺体混じる
- 37 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 しまりなし 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色粗砂ブロック7%混じる
- 38 7.5Y4/1 灰色細砂 ややしまる 粘性なし 植物遺体多く混じる
- 39 10Y4/1 灰色細砂 ややしまる 粘性なし 植物遺体わずかに混じる
- 40 5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック20%混じる 植物遺体少し混じる
- 41 2Y3/2 黒褐色土 しまりなし 粘性ややあり 植物遺体混じる
- 42 7.5Y4/1 灰色細砂・細砂 しまり弱い 粘性なし 径1cm以下の亜角礫混じる 植物遺体少し混じる
- 43 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂(径1cm前後) しまりなし 粘性なし 7.5Y3/1 オリーブ黒色粗砂ブロック20%混じる
- 44 10Y4/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 植物遺体ほとんど混じる
- 45 7.5Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 径0.5mm以下の亜円礫・亜角礫7%混じる
- 46 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂 しまりなし 粘性なし 径3cm以下の円礫・亜円礫20%混じる

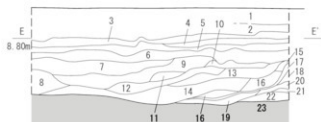
0 1m
(3=1/50)

図 50 SR1 遺構図 (2)

第3段階（遺構図：図46・49・50）

西部から東部にかけて、第1段階とは若干方向を変えて杭を打設し、盛土した後、草敷している（対応する草敷はA断面29層、C断面13層、D断面26層）。杭の上部に横木を据え、さらに細い木の枝を束ねるように置いた後（中央部や西部端で確認）、草敷をしている。また、横木には杭を転用したものを1点確認した。

SR1



- 1 1014/1 灰色土 しまり弱い 粘性ややあり (1a層)
- 2 1013/1 オリーブ黒色土 しまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり (1b層)
- 3 514/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着多い
- 4 2.514/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着多い
- 5 514/1 灰色土 しまり弱い 粘性強い 鉄分沈着多い
- 6 513/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 鉄分沈着層の上方に多い 層の下方に516/2 灰オリーブ色土が斑点状に混じる
- 7 513/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性あまりなし 513/2 オリーブ黒色粘質土ブロック30%混じる
- 8 1014/1 灰色粗砂 しまりなし 粘性なし 7.514/1 灰色細砂ブロック15%混じる
- 9 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 514/1 灰色細砂ブロック5%混じる 植物遺体混じる
- 10 7.513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.514/1 灰色細砂ブロック15%混じる 植物遺体少し混じる
- 11 7.514/1 灰色細砂 ややしまる 粘性なし 7.513/1 オリーブ黒色土ブロック20%混じる 植物遺体混じる
- 12 7.513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.514/1 灰色細砂ブロック20%混じる 植物遺体少し混じる
- 13 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 514/1 灰色土ブロック7%混じる
- 14 513/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 1014/1 灰色粗砂ブロック30%混じる 植物遺体混じる
- 15 513/1 オリーブ黒色粘質土 ややしまる 粘性あまりなし (東壁18層)
- 16 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり
- 17 遺物 513/1 オリーブ黒色砂質土が包含する (東壁19層)
- 18 513/1 オリーブ黒色粘質土 ややしまる 粘性あまりなし 7.514/1 灰色細砂ブロック7%混じる 植物遺体少し混じる (東壁20層)
- 19 7.513/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 7.514/1 灰色細砂ブロック20%混じる
- 20 7.514/1 灰色細砂 ややしまる 粘性なし 514/1 灰色シルトブロック30%混じる 植物遺体少し混じる (東壁25層)
- 21 513/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性あまりなし 植物遺体多く混じる
- 22 7.513/1 オリーブ黒色砂礫 しまりなし 粘性なし 径3cm以下の円礫・楕円礫20%混じる (東壁45層)
- 23 513/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体少し混じる (V層)



斎串出土状況

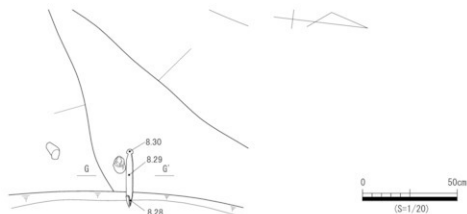


図51 SR1遺構図(3)、SR1斎串出土状況

SR1-1 (169 ~ 173)

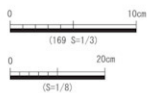
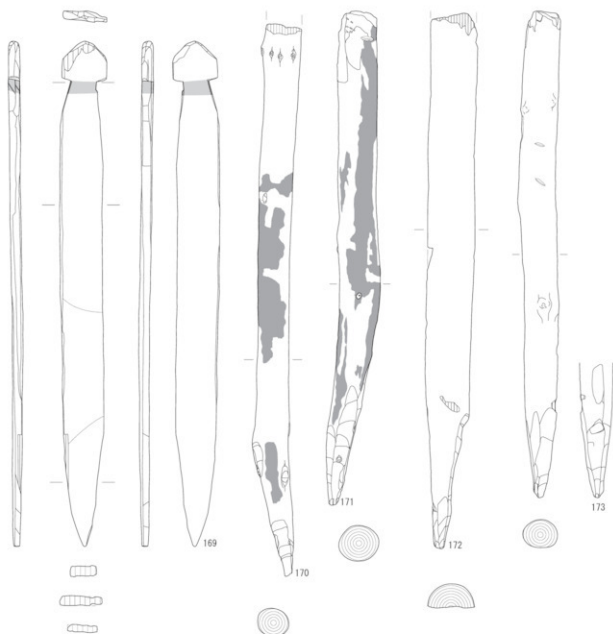


図 52 SR1 出土遺物 (1)

SR1-2 (174 ~ 180)

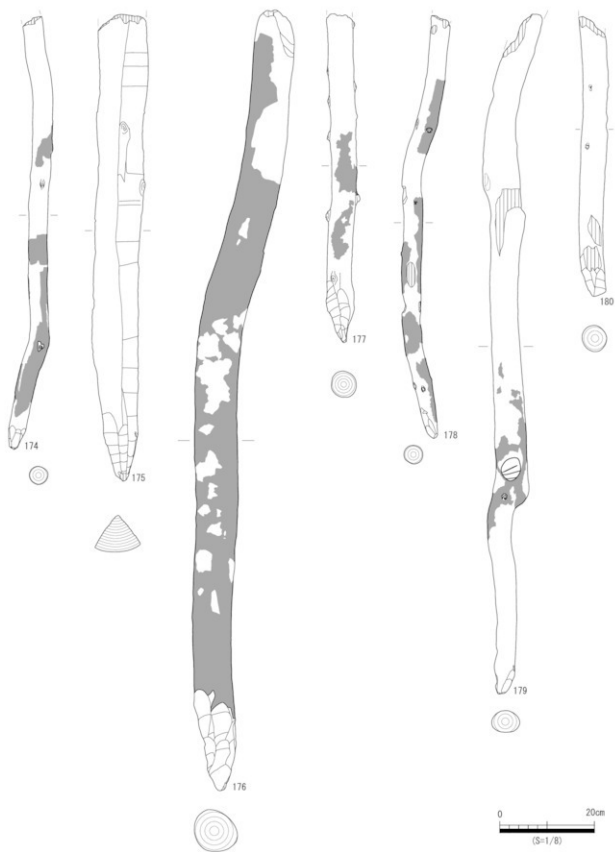


图 53 SR1 出土遺物 (2)

第4段階（遺構図：図47・49・50）

第3段階の状況に、さらに盛土し、草敷している（対応する草敷はA断面17・18層、B断面12層、C断面11層、D断面19層）。

第5段階（遺構図：図48）

第4段階の状況に、さらに盛土している。なお、調査時には盛土と認識できず、自然流路埋土と考え、水制遺構の北側を掘削したが、最終的には盛土であると確認した。

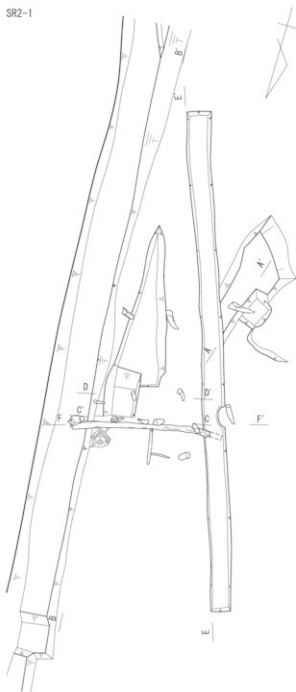
遺物は、盛土内から畜串1点、水制遺構の構造材である杭30点と横木6点、種子5点が出土し、畜串及び主な杭材を図示した。169は畜串で、短冊状の板を使って作られている。上端は圭頭状になっており、上端近くの両側面に三角形の切り込みが入る。切り込みの部分には、約1cm幅で周辺と色が異なる部分が認められる。その痕跡は表裏ともに認められることからその部分に何か巻かれていたと思われるが、詳細は不明である。下端は剣先状になる。側面全体には小刀のようなもので付けたと考えられる細かい加工痕があり、全長は約40cmである。176は横木であるが、先端に加工が施されていた。杭として使われていたものが横木として使われた可能性がある。杭材の木取り（表5）は、丸木材（170・171・173・174・176～180）が29点、単に割っただけで半割に満たないもの（175）が2点、半割材（172）が2点、不明のものが3点であった。加工状況（表6）は、確認できたものは全て側面に単純な削り痕を残すもので、欠損のため不明のものが3点であった。先端形状（表6）は周縁方向から比較的鋭角に先端を削りだしたもの（170～177）が22点、1～2方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削りだしたもの（178～180）が11点、欠損のため不明のものが3点であった。土器の出土はなかった。

これより南側にある水田等に導水するための水制遺構と思われる。第1面の自然流路に伴うものと思われることから、本遺構も第1面と同時期のものと考えられる。

SR2（遺構図：図43・49～51・54～56）

B地区の北部、自然流路内に位置する。北西から南東方向に向かって流れていると考えられる自然流路に対して、やや東に開いた方向を向いている。南北方向断面はおおよそ台形であるが、北側と南側の盛土の間には凹んでいる部分がある。東側は発掘区外へと伸びるが、西側は収束する。基底部は上に構造物があったためか、盛土を除去するとV層が周辺の流路の底よりもやや盛り上がり、高状に残っている状況であった。2面の水田を壊して流れはじめたと考えられる自然流路（NR1）内で検出した。第1面調査では、この自然流路の粘質土層を表土掘削時に機械でほぼ掘削し、人力によって砂質から砂層上面まで掘削した。どの層からも遺物の出土はなかった。第2面調査に入る際、セクションポイントA・Bとした部分の杭の断面が砂層の表面に出ている。この段階では、平面的に盛土は確認できず、打ち込まれた杭であると考え、断ち割りを行った。断ち割り断面から、杭に掘方がないことは確認できたが、盛土と自然流路堆積の判別はつかず、依然として杭が打ち込まれたものであると考えて調査を進めた。その後、杭の周辺を自然流路埋土として少しずつ掘り下げていった結果、最初に見えていた杭の他にも杭を検出した。A断面の断ち割りの幅を広げて土層を再確認した結果、盛土を確認した。そこで、水制遺構と判断して、南北方向にもセクションポイントを設け（D・E断面）、調査を進めた。構築方法はSR1と同様に、杭を打設した後に、横木を入れながら盛土してつくられている。盛土は敷葉工法で構築されており、土の間に藁敷（草敷）が挟まれていることが確認された。杭列は、

SR2-1



SR2-2

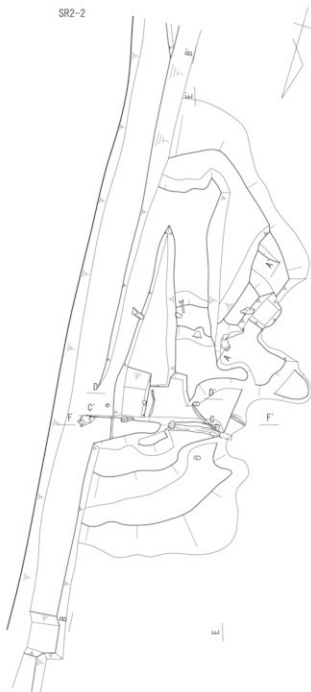


図 54 SR2-1・SR2-2 遺構図

東西方向のものを3列確認した。大きく北側と南側に分けることができ、北側の杭列は狭い間隔で2列になっている。この杭列の構築順序は判然としない部分があるが、盛土状況から、北側を構築した後に、南側を構築したように見える。北側の杭が芯持ち材を使用しているのに対して、南側の杭は角

SR2

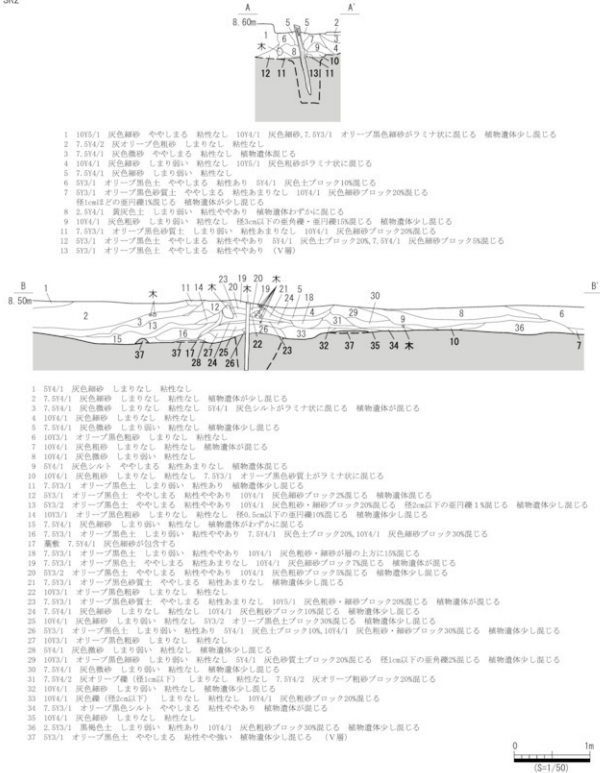


図 55 SR2 遺構図 (1)

SR2

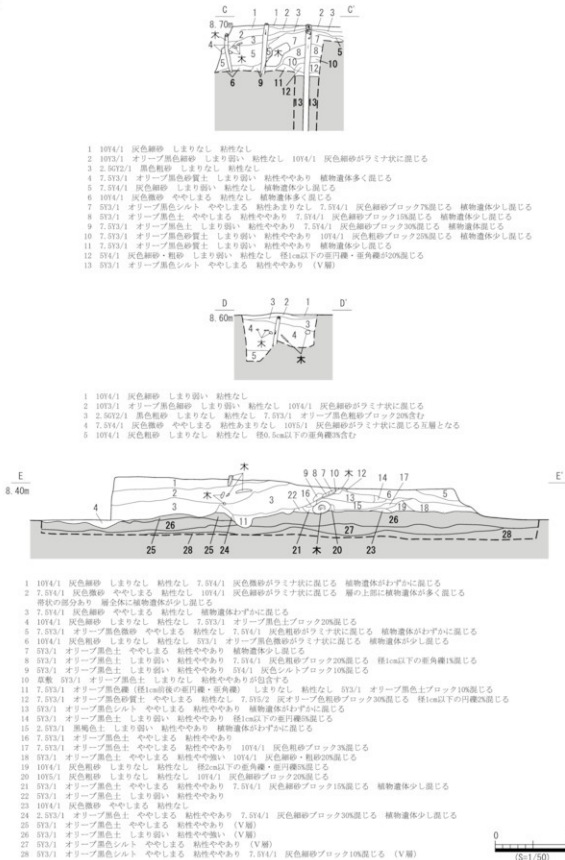


図 56 SR2 遺構図 (2)

SR2 (181 ~ 188)



図 57 SR2 出土遺物

材を使用するといったように、使用している杭の形状が違うことから、構築順序による時期差が想定される。

第1段階（遺構図：図54～56）

B断面・C断面の杭列を打設し、杭の周りを台形状に盛土していく。B断面の杭列には横木が渡してある。また、B断面杭列とC断面杭列の間には、盛土内に補強のためと見られる大小の木材が入っている。杭の周りに盛土した後、北側全面の法面に草敷している。

第2段階（遺構図：図55）

南側杭列の盛土前後にさらに盛土している。

遺物は、盛土から水制遺構の構造材である杭17点と横木1点が出土し、主な杭材を図示した。杭材の木取り（表5）は、丸木材（181～186）が12点、木肌側を削り三角形にしたもの（187）が1点、半割材が1点、断面がほぼ正方形になっているものが1点、断面が長方形になっているもの（188）が3点であった。加工状況（表6）は、単純な削り痕を残すもの（181～188）が13点、側面に数度にわたる緻密な削り痕を残すものが1点、折損ため不明のものが4点であった。先端形状（表6）は周縁方向から比較的鋭角に先端を削りだしたもの（181～186）が10点、1～2方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削りだしたもの（187～188）が3点、1～2方向もしくは片々から比較的鈍角に先端を削りだしたものが1点、折損のため不明のものが4点であった。土器の出土はなかった。

これより南側にある水田等に導水するための水制遺構と思われる。北側の杭列と南側の杭列との関係は、最初から一体として存在したものなのか、補修・補強のために南側を継ぎ足したものなのかは判断としない。第1面の自然流路に伴うものと思われることから、本遺構も第1面と同時期のものと考えられる。

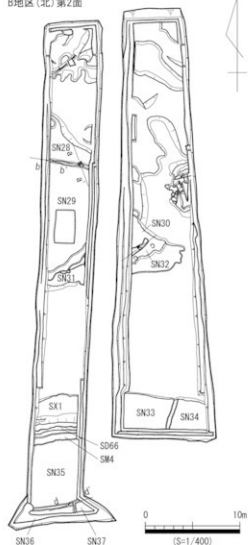
3 B地区第2面の遺構と遺物

B地区第2面では、67基の遺構を検出した。V層上面で水田跡を検出し、V層上面を第2面の調査面として遺構検出を行った。V層上面は、B地区全域が洪水堆積層Aで覆われており、検出した遺構面は水田が機能していた面をほぼ表していると考えられる。この田面には足跡が多く検出されたが、人間のものだけでなく牛の足跡も同時に確認した。足跡は、区画によって粗密があるが、これは耕作土の土質で残存状況が変わったものだと考えられる。水田耕作土と基盤のV層とは分層でき、水田耕作土は厚さが10cm前後で、V層に砂がブロックで混じる層であった。各畦畔はV層から盛り上げられていることを断ち割った断面で確認した。水田はおおよそB地区全域に広がっていたと思われるが、B地区北部では第1面においてSM1（大畦畔）がつくられた部分は、第2面では小區画水田からゆるやかに下がっていくため、水田として利用できない部分がある（以下SX1）。また、洪水堆積層Aを形成する洪水が起こった後に再び洪水があり、第1面でSM1となる部分を中心にその周辺が大きく挟ら

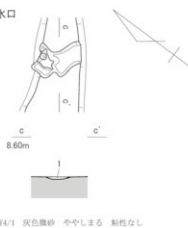
表12 B地区第2面遺構数一覧

遺構種別	SD	SM	SN	SX	NR	合計
遺構数	18	2	45	1	1	67

B地区(北)第2面

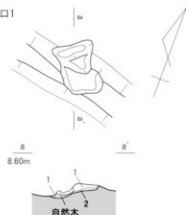


SN30南畦畔水口



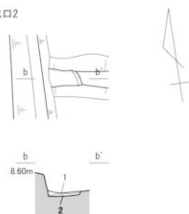
- 1 T. 5Y4/1 灰色微砂 ややしまる 粘性なし

SN28南畦畔水口1



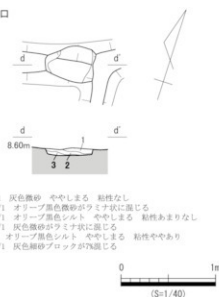
- 1 10Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし(流水層)
2. 5Y3/1 オリーブ黒色土 しまりなし 粘性ややあり
5Y4/1 灰色土ブロック10%含む

SN28南畦畔水口2



- 1 10Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし(流水層)
2 5Y3/1 オリーブ黒色土 しまりなし 粘性ややあり
5Y4/1 灰色土ブロック5%含む

SN35南畦畔水口



- 1 10Y5/1 灰色微砂 ややしまる 粘性なし
7. 5Y3/1 オリーブ黒色微砂がラミナ状に混じる
2 7. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性あまりなし
7. 5Y4/1 灰色微砂がラミナ状に混じる
3 5Y3/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性ややあり
7. 5Y4/1 灰色微砂ブロックが7%混じる

図 58 B地区(北)第2面水田遺構図

B地区(南)第2面

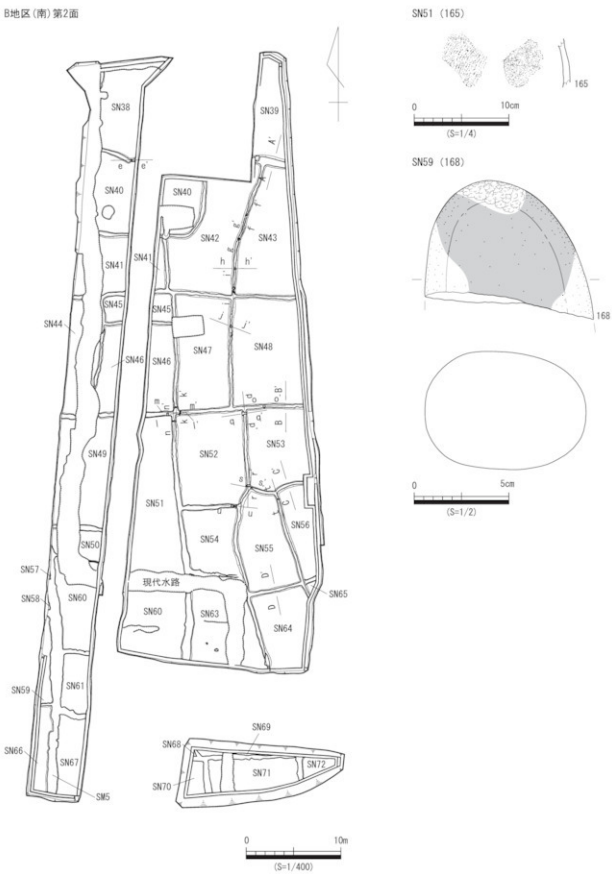


図59 B地区(南)第2面水田遺構図、SN51・SN59出土遺物

れている。また、この洪水の後、北部には自然流路が流れ始める。そのため、北部の田面は大きく破壊され、調査区内に島状になって残っている状況であった。

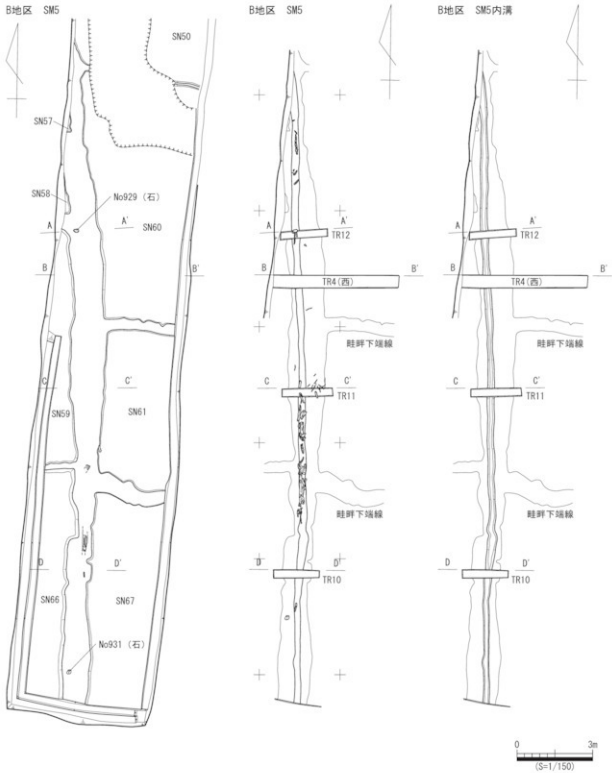


図60 SM5 遺構図(1)

畦畔土層断面図

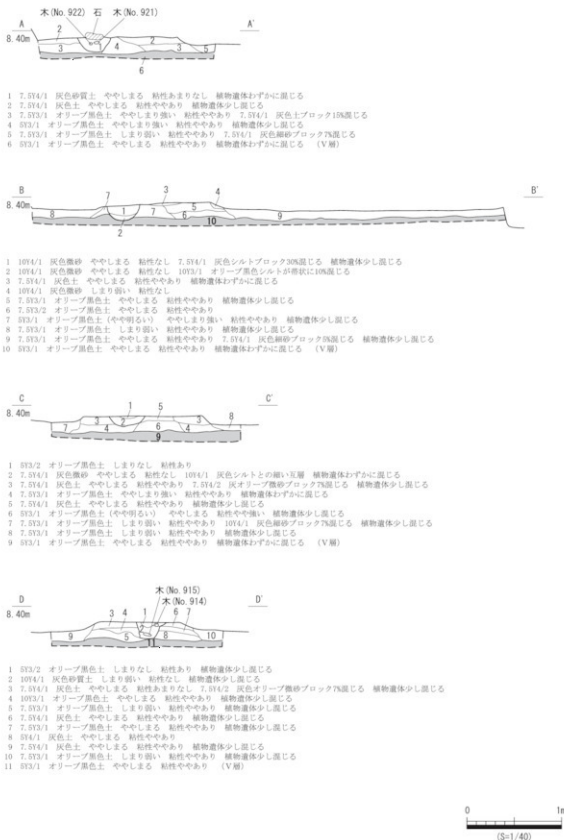


図 61 SM5 遺構図 (2)

SM4 (遺構図：図 68)

B地区の北部で東西方向に検出した。SM1のやや南に位置する、幅約0.7mの畦畔である。この畦畔の北側には東西方向のSD66があり、その北側には土地が下がっていく地形のSX1がある。

SM5 (遺構図：図 60・61)

B地区の南西部で南北方向に検出した。SM3の下部にあり、第1面と第2面で唯一位置を変えない畦畔である。特に第2面の畦畔については、幅広(約1m)であること、目印となる置き石が2箇所(N0929、N0931)確認されたこと、上から溝状に掘った後に木材が埋められていたことから他の畦畔とは性格を異にするもので、他の畦畔は地形に沿うのに対して真北方向であることから坪境の畦畔であると考えられる。断り割り調査を行ったところ、土層断面からは最初から幅広にしたのではなく、最初に細く盛った後に幅を広げたと思われる状況が確認された。遺物の出土はなく、同時期に順に幅広にしていったか、時間をおいて幅広にしていったかは不明である。

SN28～SN72 (遺構図：図 58～68)

第1面と同様に3つの大区画ごとにそれぞれの水田遺構について述べる。第2面においてSX1北側

SN39南畦畔



SN48南畦畔



SN53南畦畔

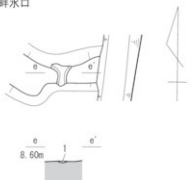


SN55南畦畔



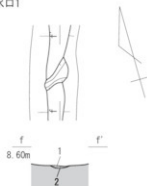
図 62 SN39・SN48・SN53・SN55 遺構図

SN38南畦畔水口



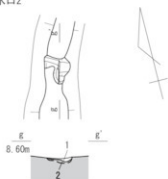
- 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.SY3/1 オリーブ黒色細砂がクミナ状に固じる

SN42東畦畔水口1



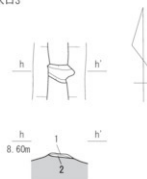
- 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.SY4/1 灰色微砂 しまりなし 粘性なし

SN42東畦畔水口2



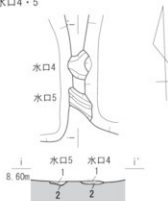
- 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 10Y3/1 オリーブ黒色細砂がクミナ状に固じる
- 2.SY3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり (粘り盛土)

SN42東畦畔水口3



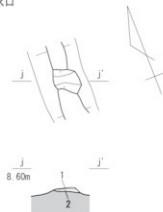
- 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 10Y3/1 オリーブ黒色細砂がクミナ状に固じる
- 2.7.SY3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性少しあり

SN42東畦畔水口4・5



- 水口4
- 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
 - 10Y3/1 オリーブ黒色細砂がクミナ状に固じる
 - 2.7.SY3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり
- 水口5
- 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
 - 10Y3/1 オリーブ黒色細砂がクミナ状に固じる
 - 2.7.SY3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり

SN47東畦畔水口



- 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 10Y3/1 オリーブ黒色細砂 しまりなし 粘性なし
- 10Y5/1 灰色細砂がクミナ状に固じる

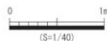
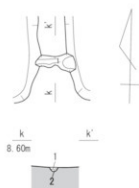


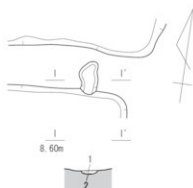
図 63 SN38・SN42・SN47 遺構図

SN46東畦畔水口



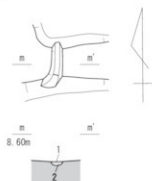
- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂ブロックがラミナ状に混じる
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性なし
- 10Y4/1 灰色細砂がラミナ状に混じる

SN46南畦畔水口



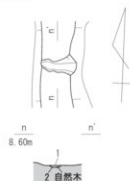
- 1 10Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルトがラミナ状に混じる
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり

SN47南畦畔水口



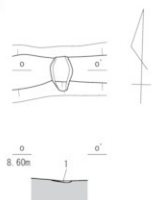
- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 植物遺体が少し混じる
- 2 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 10Y3/1 オリーブ黒色細砂がラミナ状に混じる

SN51東畦畔水口



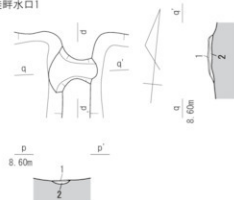
- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 植物遺体混じる
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり

SN48南畦畔水口



- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂がラミナ状に混じる

SN52東畦畔水口1



- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 10Y5/1 灰色細砂がラミナ状に混じる
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性なし

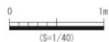


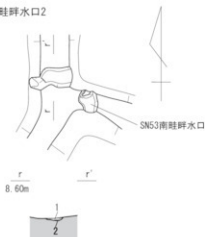
図 64 SN46・SN47・SN48・SN51・SN52 遺構図

を大区画④、南西部畦畔（坪境畦畔以下 SM5 と表記する）西側を大区画⑤、SX1 南側・SM5 東側を大区画⑥として、大区画ごとに第2面では、SN28～SN72 の45枚の小区画水田を確認した。

大区画④（SX1 北側、SN28～SN32）

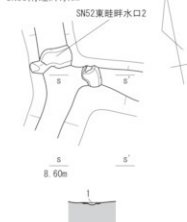
洪水と自然流路によって島状に残存している小区画水田を5枚検出した。全形ははっきりとしないが、検出した畦畔は並行にならないため、区画の形状は台形もしくは不定形であると思われる。SN29 と SN30、SN31 と SN32 との間は発掘区外となり、同一の水田区画かの判断が困難であるが、SN29 の東側調査区壁面に南北方向の畦畔があるような土層が確認できたこと、SN29 南畦畔と SN30 南畦畔の平面の位置が少しずれることから、別区画の水田として扱うこととした。この大区画④は、大区画⑥北側の区画と標高を比べると、20 cm 程度低くなることから、自然地形は北側に向かって下っていること

SN52東畦畔水口2



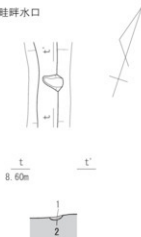
- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂がラミネ状に混じる
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり

SN53南畦畔水口



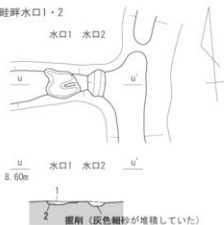
- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルトブロック20%含む

SN55東畦畔水口



- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり

SN52南畦畔水口1・2



- 水口1
- 1 10Y5/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし
 - 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルトがラミネ状に混じる
 - 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト しまり弱い 粘性ややあり

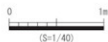


図 65 SN52・SN53・SN55 遺構図

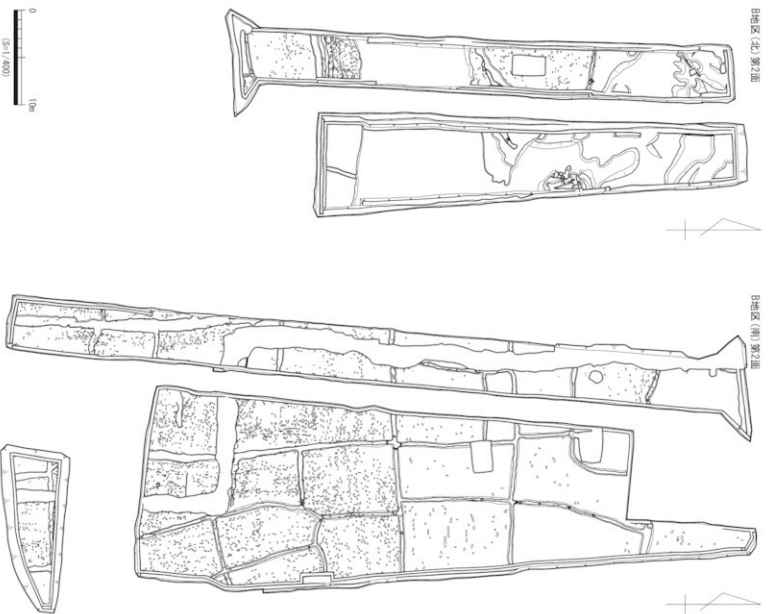


図66 B地区第2面足跡検出状況図

が分かる。水口はSN28 南畦畔に2箇所、SN30 南畦畔に1箇所確認した。

遺物は、土師器が1点出土した。

大区画⑤ (SM5 西側、SN57~SN59・SN66)

小区画水田を4枚検出した。特に北側の2枚は面積が小さく、全形ははっきりとしない。南側の2枚は長方形の区画が推測される。

遺物は、水田遺構に伴う畦畔も含め、中近世陶器が1点、石器・石製品が2点、木製品が16点出土し、叩石(168)を図示した。168はSN59から出土したもので、表面に煤が付着している。石材は安山岩である。

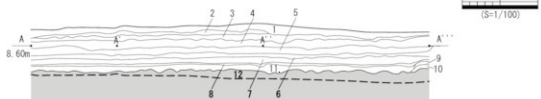
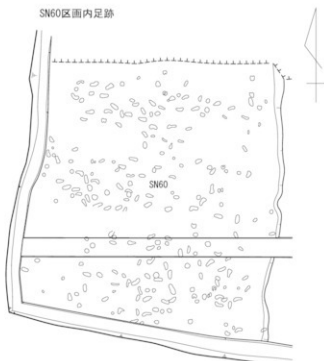
大区画⑥ (SX1 南側・SM5 東、SN33~SN56・SN60~SN65・SN67~SN72)

小区画水田を36枚検出した。形状は、長方形・五角形・不定形と様々である。これは、自然地形に

SN51 輪溝



SN60区画内足跡



- 1 10Y4/1 灰色土 しまり弱い 粘性ややあり (Ia層)
- 2 5Y4/1 灰色土 しまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり (Ib層)
- 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 5Y4/1 灰色土ブロック20%混じる (II層)
- 4 10Y4/1 灰色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり
- 5 5Y3/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着少しあり 植物遺体少し混じる (I面日本田耕作土)
- 6 5Y3/1 オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性あまりなし 鉄分沈着少しあり 7.5Y4/1 灰色細砂ブロック15%混じる 植物遺体少し混じる (III層)
- 7 10Y5/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂がワミ寸数に混じる 植物遺体少し混じる (IV層)
- 8 5Y3/1 オリーブ黒色土 しまりなし 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色土がツミナ状に混じる (IV層)
- 9 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色砂質土ブロック20%混じる 植物遺体少し混じる (I面軽耕層土)
- 10 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色土ブロック20%混じる 植物遺体少し混じる (I面日軽耕層土)
- 11 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり 7.5Y4/1 灰色細砂ブロック15%混じる 植物遺体少し混じる
- 12 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 植物遺体少し混じる (V層) (I面水田耕作土)

図 67 SN51・SN60 遺構図

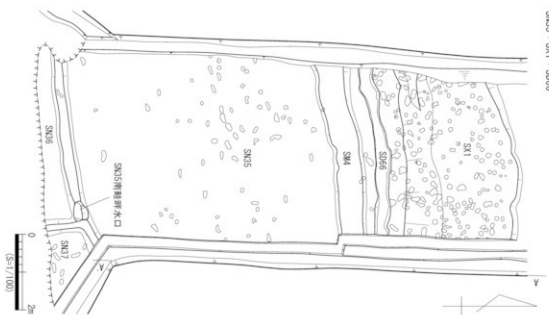
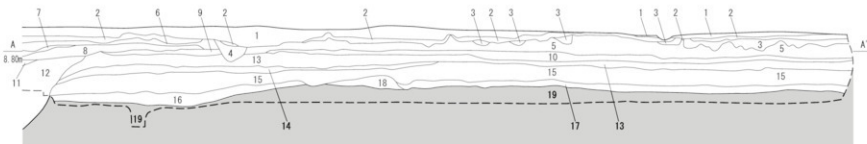


図 68 SN35・SX1・SD66遺構平面図



- | | |
|--|--|
| 1 10Y4/1 灰色土 しまり弱い 粘性ややあり (Ia層) | 13 7.5Y5/1 灰色シルト しまり弱い 粘性あまりなし 5Y4/1 灰色粗砂がラミナ状に混じる 植物遺体が混じる (IV層) |
| 2 10Y3/1 オリーブ黒色土 しまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり (Ib層) | 14 10Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 7.5Y4/1 灰色シルトがラミナ状に混じる 植物遺体少し混じる (IV層) |
| 3 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分沈着あり 5Y4/1 灰色シルトブロック10%含む | 15 10Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 7.5Y3/1 オリーブ黒色土, 7.5Y4/1 灰色シルトがラミナ状に混じる 植物遺体が混じる (IV層) |
| 4 7.5Y4/1 灰色シルト ややしまる 粘性なし 鉄分沈着少しあり 10Y4/1 灰色粗砂ブロック10%含む | 16 5Y3/2 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり |
| 5 5Y4/1 灰色シルト ややしまる 粘性なし 鉄分沈着少しあり | 7.5Y4/1 灰色土ブロック20%混じる 植物遺体少し混じる 上面からの踏み込みに10Y4/1 灰色細砂が入る |
| 6 7.5Y4/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 鉄分沈着少しあり (SN1盛土) | 17 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 しまり弱い 粘性ややあり |
| 7 7.5Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 植物遺体多く混じる (SN1盛土) | 7.5Y4/1 灰色土ブロック7%混じる 植物遺体少し混じる (2面水田耕作土) |
| 8 10Y4/1 灰色細砂 しまりなし 粘性なし 植物遺体多く混じる (SN1盛土) | 18 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり |
| 9 7.5Y4/1 灰色細砂 しまり弱い 粘性なし 鉄分沈着少しあり (SN1盛土) | 7.5Y4/1 灰色土ブロック10%混じる 植物遺体わずかに混じる (2面水田耕作盛土) |
| 10 5Y4/1 灰色シルト しまり弱い 粘性あまりなし 植物遺体が混じる 鉄分沈着わずかにあり | 19 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり |
| 11 10Y4/1 灰色粗砂 しまりなし 粘性なし 径1cm以下の亜角礫混じる | 7.5Y4/1 灰色土ブロック5%混じる 植物遺体少し混じる (V層) |
| 12 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質土 ややしまる 粘性ややあり 10Y3/1 灰色粗砂がラミナ状に混じる | |

0 1m
(S=1/50)

沿って区画を作っているためであると考えられる。南、南東方向へ標高が低くなる自然地形に合わせて区画しているため、畦畔も湾曲している。特に、南東部の SN55・SN56・SN64・SN65・SN72 は自然地形に合わせて田面が一段低くなっていることが確認できる。そのため、第2面の水田遺構では、第1面で見られたような1町方格の内部に区画の規則性は見られないと言える。水口は、SN35 南畦畔に1箇所、SN38 南畦畔に1箇所、SN42 東畦畔に5箇所、SN46 東・南畦畔に各1箇所、SN51 東畦畔に1箇所、SN47 南畦畔に1箇所、SN48 南畦畔に1箇所、SN52 東畦畔に1箇所、SN52 南畦畔に2箇所、SN55 東畦畔に1箇所検出した。いずれも洪水堆積層Aが堆積しており、洪水による埋没時期は水口が空いていた時期であると言える。追加調査によってSN51の北部に鋤溝群とそれに伴うと思われる足跡を検出した。東西方向の足跡の下に同じく東西方向の鋤溝があり、SN51の南部には南北方向の人間と牛の足跡が認められた。SN51の南側に位置するSN60とSN63でも同様に南北方向の人間の牛の足跡が認められた。水口が開いているので、水が入って鋤溝が残っていないが、田おこしや代掻きの作業の可能性がある。また、SN48、SN52、SN53には東西方向の人間の足跡が認められた。耕作痕がV層に残るのは部分的であるが、平面的に確認しなかった箇所でも、耕作土層とV層との分層線が波打っているような場合には、鋤溝の痕跡があった可能性がある。

遺物は、土師器が4点、須恵器が1点、山茶碗が1点、木製品が2点、種子が11点出土し、土師器(165)を図示した。165は、SN51の耕作土から出土した土師器で内外面に煤が付着。弥生時代から古墳時代のものである。

SX1 (遺構図：図68)

B地区の北側、水田区画SN35の北側に位置する。SN35北畦畔のすぐ北側に畦畔沿いに東西方向の溝状遺構があり、そこから北に向かって下がっていく地形となっている。平坦な面ではないので、水田として使用されていた可能性は低い。また、この面には多数の足跡を検出したが、円形のものも多く、人間の足跡というより牛の足跡と思われる。水田区画間の空き地的な空間であったのかもしれない。また、SX1から北の洪水堆積層A周辺は第1面で検出した大畦畔の位置にあたり、土地が下がっていった法尻の部分に溝があった可能性もある。

NR2

B地区の北部に位置し、SX1の北側で東西方向に検出した。幅は約12mである。南側のSX1はNR2に向かって下がっていく地形となっている。第2面の水田遺構を壊していることから、この水田遺構を覆う洪水堆積層と関係する可能性がある。

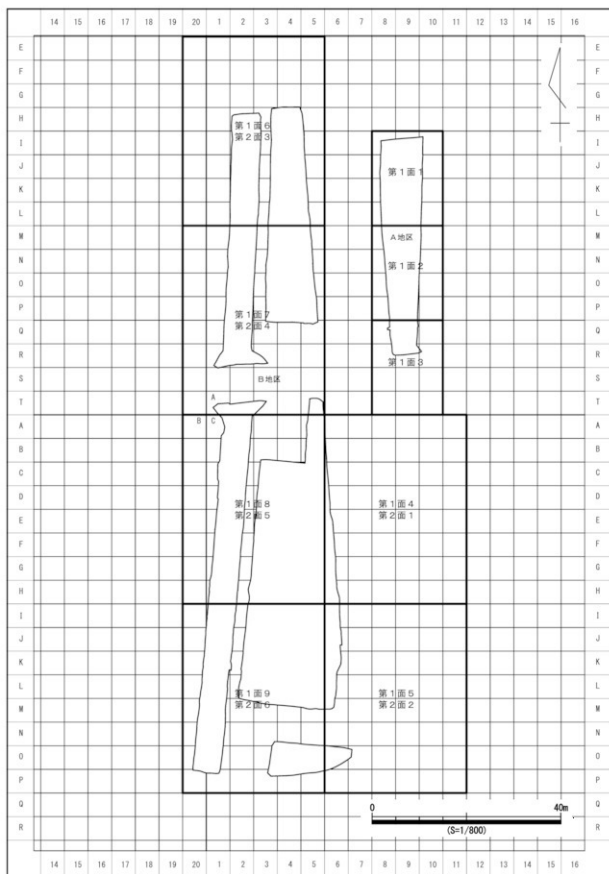


図69 遺構全体図分割付図

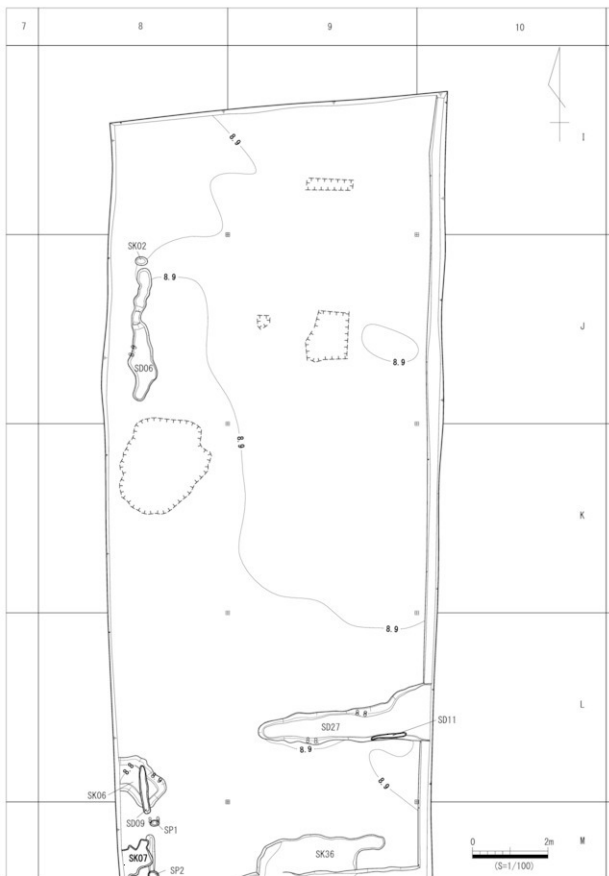


図70 第1面遺構全体図分割図1

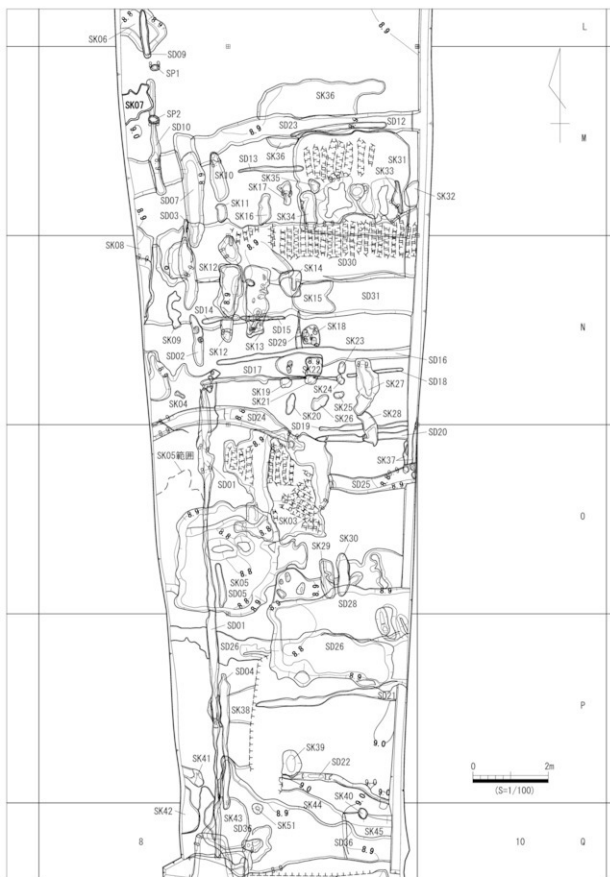


图71 第1面遺構全体図分割図2

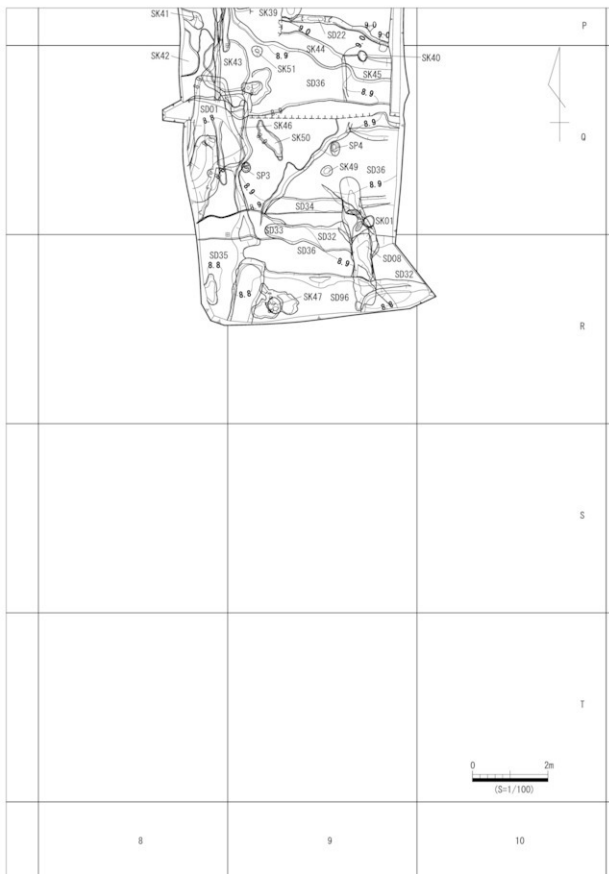


図72 第1面遺構全体図分割図3

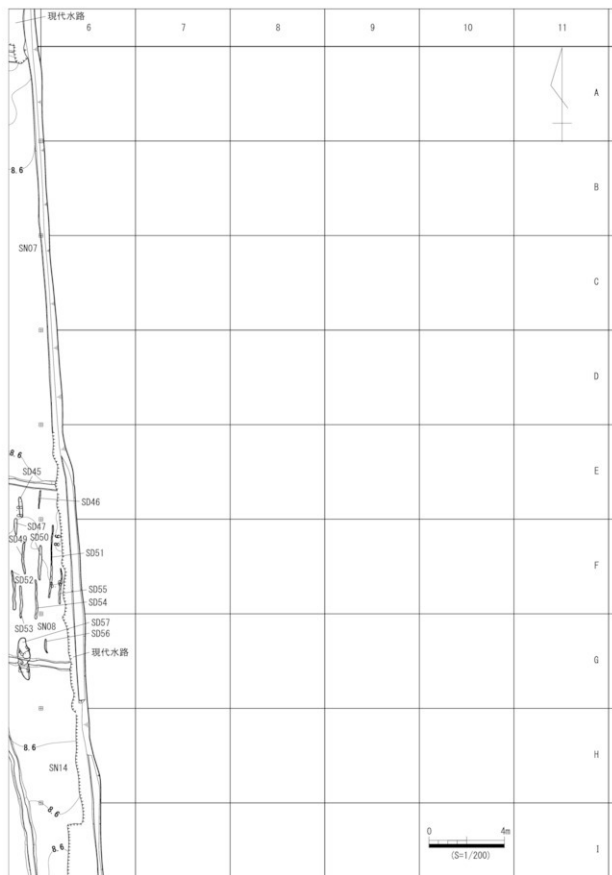


图73 第1面遺構全体図分割図4

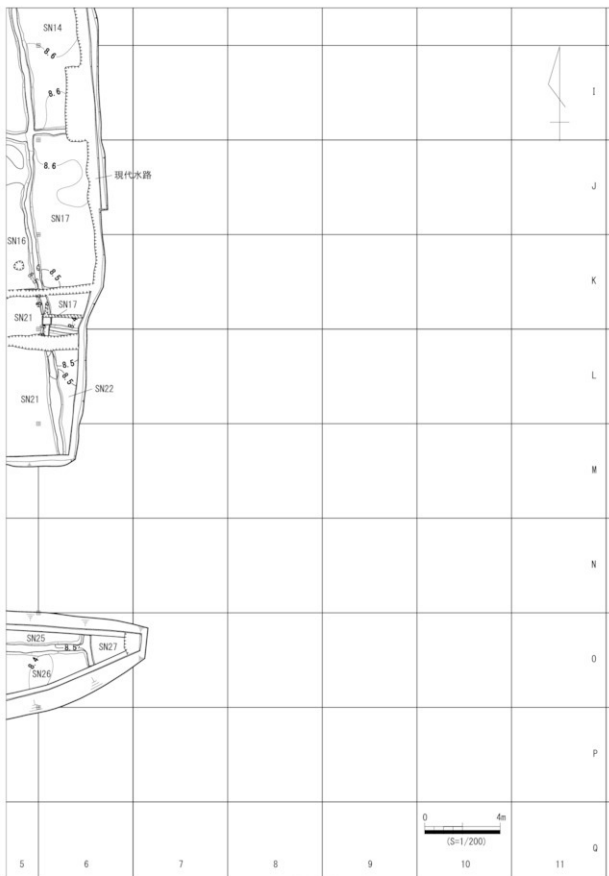


図74 第1面遺構全体図分割図5



図75 第1面遺構全体図分割図6

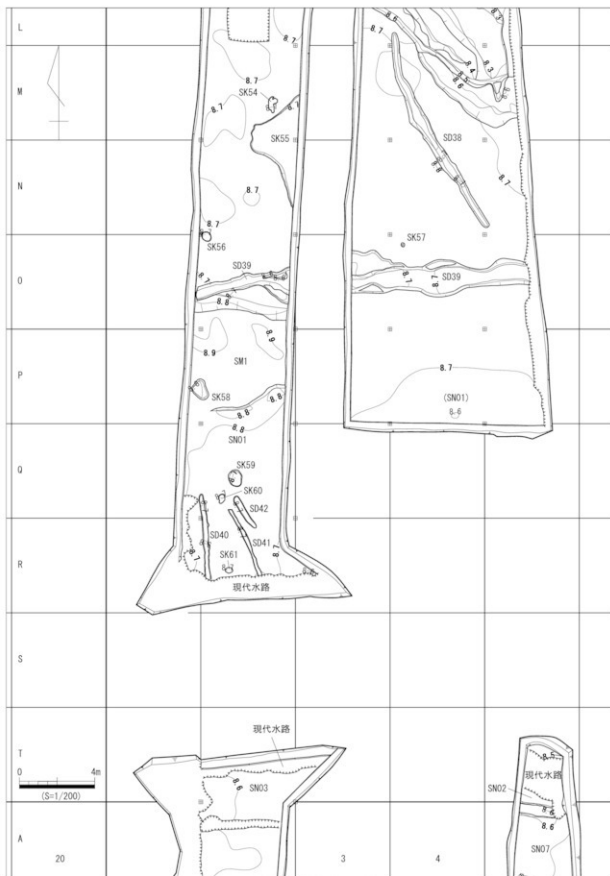


図76 第1面遺構全体図分割図7



图77 第1面遺構全体図分割図B



図78 第1面遺構全体図分割図9

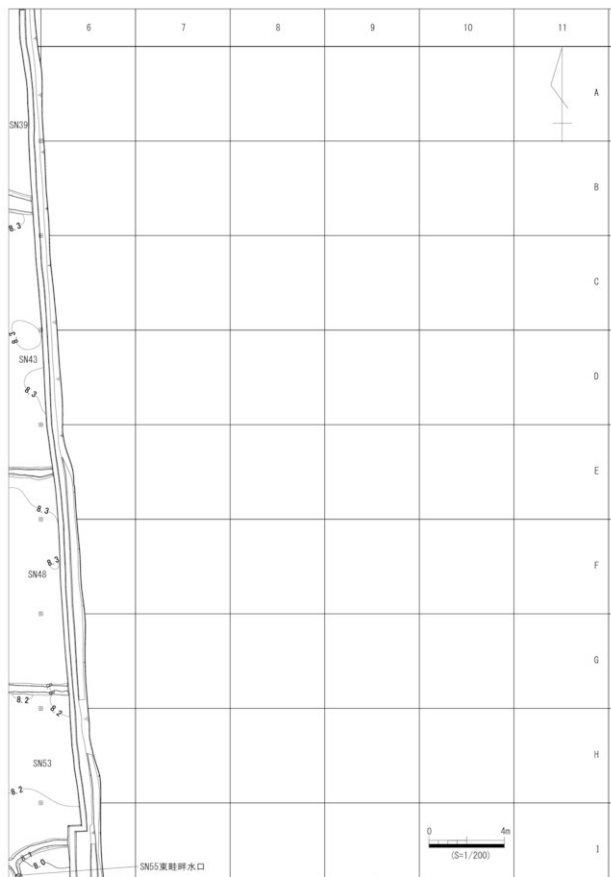


図79 第2面遺構全体図分割図1

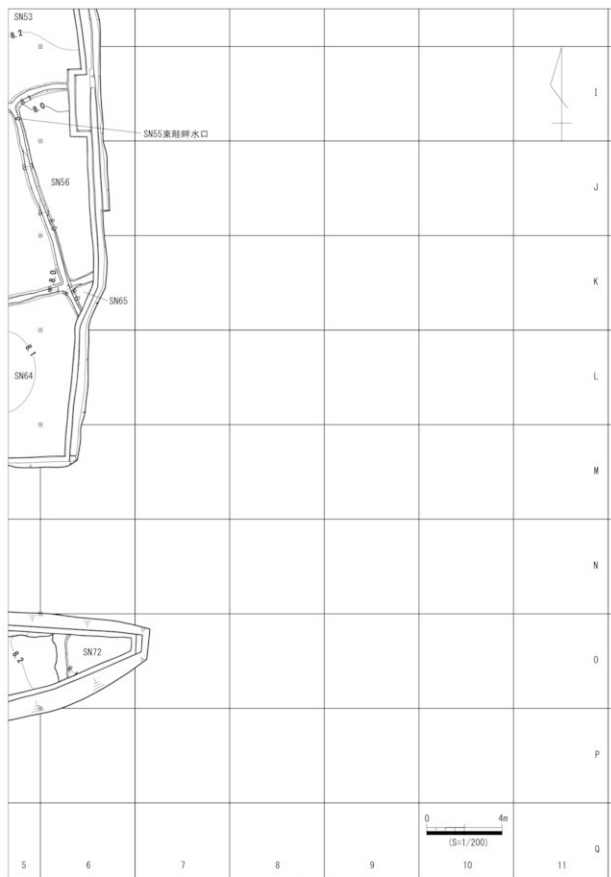


図80 第2面遺構全体図分割図2



图81 第2面遺構全体図分割図3

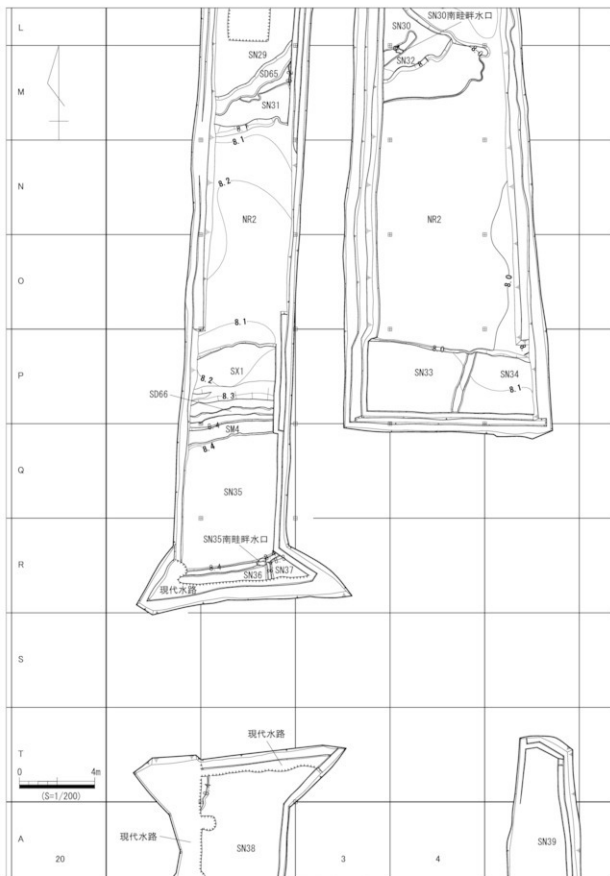


図82 第2面遺構全体図分割図4

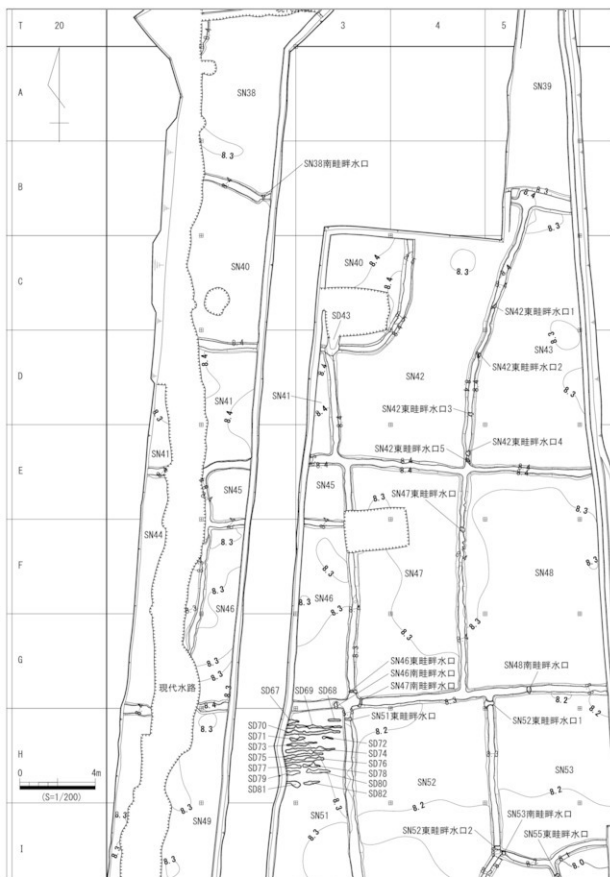


図83 第2面遺構全体図分割図5



図84 第2面遺構全体図分割図6

表13 遺構別遺物出土点数

遺構名	地区区	検出面	古代土 土器	中世 土器	時期 不明土 器類	須恵器	灰輪 陶器	山薬筒	中近世 陶器	中国製 陶磁器	瓦質 土器	土製品	石器・ 石製品	金属 製品	木製品	炭化物	種子	合計
SD1	A	15-基			2			4										6
SD4	A	15-基					1											1
SD5	A	15-基						1	1									2
SD6	A	IV上			3													3
SD7	A	15-基			10				1	6								16
SD8	A	15-基			2	1		14	2									19
SD15	A	15-基						2										2
SD17	A	15-基			1													1
SD21	A	15-基			1			1										2
SD23	A	IV上					1											1
SD24・SD25	A	15-基							1									1
SD26	A	15-基		4				1	1									7
SD28	A	15-基			3		2		3									15
SD30	A	15-基			7				12	8								27
SD31	A	15-基			1	1				2								4
SD32	A	15-基		13	3		1	53	1									71
SD33	A	15-基		4	10		1	1	31								1	49
SD34	A	15-基			2				2									4
SD35	A	15-基		2	29	7		4	75	5								122
SD36	A	15-基		3	20	24		7	146	6			2					208
SD37	A	15-基		3	3			5							1			12
SD38	A	15-基			5			4	3									12
SD4	A	15-基			3			4	1									8
SK05	A	15-基		1				2	10									13
SK08	A	15-基				1							2					3
SK12	A	15-基			1													1
SK13	A	15-基			1			2	1			1						5
SK15	A	15-基						1										1
SK16	A	15-基			1													1
SK22	A	15-基			1			1										2
SK25	A	15-基			1			1										1
SK27	A	15-基			1			1										1
SK30	A	15-基			1				1									2
SK31	A	15-基			6			1	10									17
SK35	A	15-基			1													1
SK38	A	15-基			1													1
SK39	A	15-基						1										1
SK40	A	15-基						1										1
SK42	A	15-基					1											1
SK43	A	15-基		3	2		1	7	2	1				4				20
SK44	A	15-基		2	11	16	5	66										100
SK45	A	15-基		3	9	2	9											23
SK46	A	15-基		12	11		7	56	2									88
SK47	A	15-基		1	1			7										9
SK48	A	15-基		1	5	8		39										54
A地区区遺構出土小計			0	111	147	3	40	669	62	1	0	5	1	4	1	0	1	944
SD43	B	Ⅲ上														2		3
SD4	B	Ⅲ上														1		1
SD5	B	Ⅲ上			5	12												17
SD6	B	Ⅲ上															1	1
SD10	B	Ⅲ上				6												6
SD10東畦畔	B	Ⅲ上				1												1
SD12	B	Ⅲ上					1											1
SD13	B	Ⅲ上																1
SD15	B	Ⅲ上										1						1
SD16	B	Ⅲ上					2											2
SD21	B	Ⅲ上						4							1			5
SD26	B	Ⅲ上						1										1
SD30	B	V上				1												1
SD40	B	V上															4	4
SD41	B	V上																1
SD43	B	V上																1
SD48	B	V上																1
SD51	B	V上				2												2
SD51東畦畔	B	V上																2
SD52	B	V上																2
SD53	B	V上				2												2
SD56	B	V上																1
SD59	B	V上							2									2
SD59東畦畔	B	V上																2
SD5東畦畔	B	V上				3												3
SD63	B	V上						1		1								2
SD64	B	V上																1
SD66東畦畔	B	V上											1					1
SD1	B	V上															13	14
SD2	B	V上															139	5
SD2	B	V上															61	61
B地区区遺構出土小計			0	7	28	4	0	6	2	0	0	0	1	0	2	0	14	51
遺構別出土小計			0	118	175	7	40	675	64	1	0	5	1	4	1	0	1	1000
A地区区包含層 Ⅲ上・Ⅲ層			1	42	140	2	45	317	209	1	1	6	8	5	1			719
A地区区包含層 Ⅲ層			1	4	11	1	8	21	17									21
A地区区包含層出土小計			1	46	151	3	53	338	226	1	1	6	8	5	1	0	0	740
B地区区包含層 Ⅲ上・Ⅲ層			1	68	30	11	26	477	273	8	2	12	6	6	2			929
B地区区包含層 Ⅲ層			1	14	8	4	2	64	7	1	1	1	1					108
B地区区包含層 Ⅲ層			1	20	1			2	1				1					23
B地区区包含層 IV層						6	5	2										13
B地区区包含層 V層																		41
B地区区包含層出土小計			0	83	46	21	38	545	281	9	2	14	8	7	14	8	56	1136
遺構別出土小計			1	128	216	28	81	820	507	10	3	20	16	13	14	8	56	1569
合計			10	247	392	31	121	1498	561	11	3	25	21	17	23	8	15	2025

表14 ビット・土坑一覧

道標 番号	地区 名	グランド名	検出面	埋土	堆積 状況	断面 形状	平面形状	底面 形状	法量 (m)				押込番 号	図版番 号	
									上端		下端				深さ
									長軸	短軸	長軸	短軸			
SP1	A	AM8	IV上	2	G	B4	楕円	a2	0.25	0.17	0.15	0.10	0.20	29	5
SP2	A	AM8	IV上	1	G	B5	楕円	a2	0.30	0.23	0.20	0.12	0.38	29	5
SP3	A	AQ9	Ib基底	3	G	C5	楕円	b3	0.28	0.24	0.08	0.03	0.17	29	5
SP4	A	AQ9	Ib基底	3	G	C4	楕円	a1	0.37	0.25	0.14	0.09	0.28	29	5
SK01	A	AQ9	Ib基底	1	A	B1	円	a1	0.32	0.30	0.26	0.26	0.03	-	-
SK02	A	AJ8	IV上	2	B	B1	楕円	a1	0.32	0.23	0.22	0.14	0.06	-	-
SK03	A	AQ8~9	Ib基底	2	B	B1	不定形	c1	2.90	2.84	2.85	2.75	1.10	-	-
SK04	A	AM~NS	Ib基底	1	A	B1	不定形	c1	1.96	(1.72)	1.90	(1.70)	0.07	-	-
SK05	A	AQ8~9	Ib基底	2	B	B1	不定形	b1	(3.88)	3.74	2.78	2.72	1.14	23	4
SK06	A	AM~M9	IV上	2	B	B1	不定形	a1	(1.49)	0.88	(1.19)	0.43	0.19	-	-
SK07	A	AM8	IV上	1	A	B1	不定形	a1	(0.90)	0.83	(0.89)	0.72	0.04	-	-
SK08	A	AN~MS	Ib基底	3	B	B1	不明	b1	2.61	(0.41)	1.56	(0.24)	0.12	-	-
SK09	A	AN8	Ib基底	1	A	B1	不定形	a1	1.01	0.34	0.98	0.31	0.04	-	-
SK10	A	AM8	Ib基底	1	A	B1	不整長楕円	a1	1.32	0.42	1.21	0.25	0.07	-	-
SK11	A	AM8	Ib基底	1	A	B1	不整長楕円	a1	0.50	0.26	0.42	0.18	0.03	-	-
SK12	A	AN8	Ib基底	1	A	A1	不定形	b1	2.05	0.65	1.19	0.37	0.10	-	-
SK13	A	AN9	Ib基底	1	A	B1	不定形	c1	1.92	0.60	1.88	0.51	0.08	-	-
SK14	A	AN9	Ib基底	1	A	B1	不整円	a1	0.72	0.62	0.66	0.59	0.05	-	-
SK15	A	AN9	Ib基底	2	B	B1	不定形	a1	1.13	(0.91)	1.09	(0.86)	0.07	-	-
SK16	A	AM9	Ib基底	2	B	B1	不整長楕円	a1	0.85	0.33	0.74	0.24	0.07	-	-
SK17	A	AM9	Ib基底	2	B	A1	不定形	b1	0.65	0.38	0.21	0.19	0.08	-	-
SK18	A	AN9	Ib基底	1	A	B1	不整円	c1	0.57	0.48	0.52	0.44	0.07	-	-
SK19	A	AN9	Ib基底	1	A	A1	不整楕円	a1	0.31	0.25	0.22	0.16	0.04	-	-
SK20	A	AN9	Ib基底	1	A	B1	不整長楕円	a1	0.59	0.22	0.53	0.18	0.04	-	-
SK21	A	AN9	Ib基底	1	A	B1	不整楕円	a1	0.37	0.29	0.25	0.18	0.04	-	-
SK22	A	AN9	Ib基底	2	B	B1	不整長楕円	c1	1.24	0.64	1.17	0.59	0.09	-	-
SK23	A	AN9	Ib基底	2	B	B1	楕円	a1	0.32	0.18	0.25	0.14	0.03	-	-
SK24	A	AN9	Ib基底	1	A	B1	不整長楕円	a1	0.26	0.18	0.20	0.12	0.03	-	-
SK25	A	AN9	Ib基底	2	B	B1	不整長楕円	a1	0.28	0.18	0.24	0.12	0.04	23	4
SK26	A	AN9	Ib基底	1	A	B1	不整長楕円	a1	0.55	0.31	0.49	0.21	0.04	-	-
SK27	A	AN9	Ib基底	2	B	A1	不定形	b1	1.50	0.60	0.96	0.24	0.11	-	-
SK28	A	AN~O9	Ib基底	1	A	B1	不定形	b1	(0.95)	0.38	0.45	0.35	0.05	-	-
SK29	A	AQ9	Ib基底	1	A	A1	不整長楕円	b1	1.06	0.92	0.97	0.27	0.05	-	-
SK30	A	AQ9	Ib基底	1	A	B1	不整長楕円	a1	1.15	0.27	1.10	0.22	0.05	-	-
SK31	A	AM~N9	Ib基底	2	B	B1	不整正方形	c1	2.94	2.72	2.85	2.66	1.12	-	-
SK32	A	AM9	Ib基底	1	A	B1	不明	a1	0.67	(0.36)	0.58	(0.36)	0.05	-	-
SK33	A	AM9	Ib基底	1	A	B1	不定形	a1	0.89	0.28	0.81	0.18	0.05	-	-
SK34	A	AM9	Ib基底	1	A	B1	不定形	a1	(0.90)	0.30	(0.83)	0.21	0.05	-	-
SK35	A	AM9	Ib基底	1	A	B1	不整長楕円	a1	0.39	0.25	0.28	0.17	0.04	-	-
SK36	A	AM9	IV上	1	A	B1	不定形	a1	3.46	1.71	3.35	1.59	0.07	-	-
SK37	A	AQ9	Ib基底	2	H	E1	不明	c1	1.56	(0.39)	1.48	(0.31)	0.09	-	-
SK38	A	AP9	Ib基底	1	A	A1	不定形	a1	(1.29)	0.97	(1.24)	0.89	0.06	-	-
SK39	A	AP9	Ib基底	1	A	A1	不整長楕円	a1	0.74	0.50	0.45	0.23	0.05	-	-
SK40	A	AQ9	Ib基底	2	B	B1	楕円	a2	0.30	0.25	0.26	0.21	0.06	-	-
SK41	A	AP8	Ib基底	2	B	B1	不定形	b1	(0.65)	0.36	(0.64)	0.25	0.06	-	-
SK42	A	AP~Q8	Ib基底	2	B	B1	不定形	a1	1.29	(0.47)	1.22	(0.44)	0.06	24	-
SK43	A	AP~Q8~9	Ib基底	1	A	B1	不整円	a1	1.37	1.18	1.25	1.11	0.05	24	4
SK44	A	AP~Q8~9	Ib基底	2	D	B1	不定形	a1	(4.76)	(4.32)	(4.74)	(4.22)	0.08	25	4
SK45	A	AQ9	Ib基底	2	D	B1	不明	a1	2.16	(1.30)	1.74	(1.30)	0.07	26	-
SK46	A	AQ8~9	Ib基底	2	B	B1	不定形	b1	(3.20)	(1.55)	(2.24)	1.25	0.12	27	4
SK47	A	AR9	Ib基底	2	B	C1	不定形	a3	1.26	0.89	0.13	0.10	0.26	-	-
SK48	A	AQ9	Ib基底	1	A	B1	不明	a5	(2.98)	(1.95)	(2.98)	(1.95)	0.06	28	4
SK49	A	AQ9	Ib基底	2	B	B1	楕円	a1	0.32	0.26	0.19	0.13	0.06	-	-
SK50	A	AQ9	Ib基底	1	A	B1	不定形	a1	1.21	0.36	1.03	0.25	0.08	-	-
SK51	A	AQ9	Ib基底	2	B	A2	楕円	a1	0.29	0.26	0.10	0.08	0.09	-	-
SK52	B	AJ3	Ⅲ上	1	A	B2	楕円	a1	0.24	0.15	0.19	0.12	0.05	-	-
SK53	B	AJ3	Ⅲ上	1	A	B1	楕円	a1	0.29	0.19	0.26	0.16	0.04	-	-
SK54	B	AM2	Ⅲ上	1	A	B1	不定形	a1	0.86	0.48	0.81	0.45	0.09	-	-
SK55	B	AM~N2~3	Ⅲ上	1	A	B1	不定形	a1	5.98	(2.48)	5.85	(2.41)	0.09	-	-
SK56	B	AN~O2	Ⅲ上	2	B	B1	楕円	a1	0.59	0.46	0.50	0.40	0.12	-	-
SK57	B	AQ4	Ⅲ上	1	A	A2	楕円	a1	0.23	0.20	0.10	0.08	0.06	-	-
SK58	B	AP1~2	Ib基底	1	A	B1	不整楕円	a1	1.12	0.75	0.92	0.62	0.06	-	-
SK59	B	AQ2	Ⅲ上	1	A	B1	楕円	a1	0.89	0.74	0.78	0.62	0.06	-	-
SK60	B	AQ2	Ⅲ上	1	A	B1	不整楕円	a1	0.52	0.38	0.48	0.34	0.07	-	-
SK61	B	AR2	Ⅲ上	2	B	B1	不整楕円	a1	0.41	0.32	0.38	0.29	0.07	-	-
X01	B	AP~Q1~2	V上						(4.30)	3.00	(4.30)	2.10	0.07	68	8

表15 溝・水制遺構・流路一覽(1)

遺構 番号	地区 名	グランド名	検出 層位	埋土	断面 形状	法量 (m)									挿入番 号	図版番 号	
						上端			下端			深さ	深さ比	挿入番 号			図版番 号
						長軸	短軸	形状比	長軸	短軸	形状比						
SD1	A	AN~QS	1b基	2D	B1a1	15.69	0.24	65.38	15.60	0.20	78.00	0.07	0.29	-	-		
SD2	A	AN8	1b基	1A	B1c1	1.39	0.29	4.79	1.33	0.19	7.00	0.03	0.10	-	-		
SD3	A	AN~M8	1b基	2B	A1b1	2.40	0.45	5.33	1.73	0.31	5.58	0.10	0.22	-	-		
SD4	A	AP~Q8~9	1b基	2B	A1a1	3.57	0.27	13.22	3.50	0.22	15.91	0.06	0.22	-	-		
SD5	A	A08	1b基	1A	B1a1	1.18	0.18	6.56	1.11	0.10	11.10	0.05	0.28	-	-		
SD6	A	AJ8	IV上	3F	B1b1	3.51	0.68	5.16	3.38	0.55	6.15	0.08	0.12	-	-		
SD7	A	AM8	1b基	2B	A1c1	3.07	0.62	4.95	2.21	0.28	7.89	0.17	0.27	-	-		
SD8	A	AQ~R9	1b基	2B	A1c1	3.54	0.73	4.85	2.82	0.32	8.81	0.14	0.19	-	-		
SD9	A	AL~M9	IV上	1A	B1a1	1.29	0.21	6.14	1.18	0.15	7.87	0.05	0.24	-	-		
SD10	A	AM8	IV上	2B	B2a1	3.08	0.30	10.27	2.95	0.19	15.53	0.11	0.37	-	-		
SD11	A	AL9	IV上	1A	A2a1	0.94	0.12	7.83	0.89	0.08	11.13	0.06	0.50	-	-		
SD12	A	AM9	1b基	1A	A1a1	2.55	0.17	15.00	2.50	0.09	27.78	0.03	0.18	-	-		
SD13	A	AM9	1b基	1A	B1a1	1.73	0.15	11.53	1.66	0.08	20.75	0.03	0.20	-	-		
SD14	A	AN8	1b基	1A	B1a1	1.02	0.14	7.29	0.93	0.09	10.33	0.03	0.21	-	-		
SD15	A	AN9	1b基	1A	B1a1	1.17	0.11	10.64	1.12	0.07	16.00	0.03	0.27	-	-		
SD16	A	AN8~9	1b基	2D	B1a1	(5.10, 3.1)	(16.45, 5.10)	0.23	(22.17, 0.05)	0.05	16	-	-	-	-		
SD17	A	AN8~9	1b基	1A	A1a1	(3.61, 0.23)	(15.70, 3.66)	0.12	(29.67, 0.05)	0.05	22	-	-	-	-		
SD18	A	AN9	1b基	1A	B2a1	1.50	0.10	15.00	1.48	0.06	24.67	0.03	0.30	-	-		
SD19	A	AN~O9	1b基	1A	B1a1	(2.33, 0.18)	(12.94, 2.33)	0.13	(17.92, 0.03)	0.17	-	-	-	-	-		
SD20	A	A09	1b基	1A	B1a1	(2.44, 0.20)	(12.20, 2.43)	0.14	(17.36, 0.02)	0.10	-	-	-	-	-		
SD21	A	AP9	1b基	1A	B1a1	(3.74, 0.52)	(7.19, 3.71)	0.46	(8.07, 0.03)	0.06	-	-	-	-	-		
SD22	A	AP9	1b基	1A	B2a1	(2.94, 0.22)	(13.36, 2.94)	0.13	(22.62, 0.11)	0.50	-	-	-	-	-		
SD23	A	AM8~9	IV上	1A	B1a1	(7.86, 0.86)	(9.14, 7.86)	0.78	(10.08, 0.08)	0.09	-	-	-	-	-		
SD24	A	AN~O8~9	1b基	2B	B1b1	(3.75, 0.61)	(6.15, 3.75)	0.38	(9.87, 0.16)	0.26	16	-	-	-	-		
SD25	A	A09	1b基	1A	B1a1	(2.26, 0.44)	(5.14, 2.26)	0.27	(8.37, 0.11)	0.25	16	2	-	-	-		
SD26	A	AP8~9	1b基	4B	B1b1	(6.26, 1.45)	(4.32, 6.26)	0.98	(6.39, 0.17)	0.12	17	2	-	-	-		
SD27	A	AL9	IV上	2B	B1a1	(4.54, 1.53)	(2.97, 4.40)	1.44	(3.06, 0.16)	0.10	-	-	-	-	-		
SD28	A	AO~Q9	1b基	2B	B1b1	(3.73, 3.64)	(1.02, 3.50)	2.29	1.53	0.15	0.94	17	2	-	-		
SD29	A	AN9	1b基	1A	B2b1	(1.00, 0.16)	(6.25, 0.99)	0.12	(8.25, 0.07)	0.44	-	-	-	-	-		
SD30	A	AN9	1b基	3B	B1c1	(6.88, 1.66)	(4.14, 6.80)	1.60	(4.53, 0.12)	0.07	18	-	-	-	-		
SD31	A	AN8~9	1b基	2B	B1a1	(7.12, 2.14)	(3.33, 7.12)	2.01	(3.54, 0.08)	0.04	-	-	-	-	-		
SD32	A	AQ~R9	1b基	2B	B1a1	(4.28, 0.67)	(6.39, 4.23)	0.53	(7.98, 0.08)	0.12	18	-	-	-	-		
SD33	A	AQ~R8~9	1b基	2D	B1a2	(1.60, 0.68)	(2.35, 1.60)	0.64	(2.50, 0.06)	0.09	19	2	-	-	-		
SD34	A	AQ9	1b基	1A	B1a1	(3.35, 0.44)	(7.61, 3.35)	0.36	(9.31, 0.05)	0.11	-	-	-	-	-		
SD35	A	AQ~R8~9	1b基	2B	B1c1	(6.42, 1.72)	(3.73, 6.29)	1.37	(4.59, 0.21)	0.12	19	2	-	-	-		
SD36	A	AM8~9	1b基	4B	B1b1	(5.24, 5.20)	1.01	(5.20, 5.10)	1.02	0.18	(0.03, 20)	3	-	-	-		
SD37	A	AP~Q8~9	1b基	3E	B1b1	(5.00, 3.20)	(1.66, 4.86)	3.04	(1.60, 0.20)	0.06	22	3	-	-	-		
SD38	B	AL~N4~5	Ⅲ上	2B	B1a1	11.50	0.88	13.07	11.34	0.46	24.65	0.14	0.16	41	-		
SD39	B	A01~5	Ⅲ上	3B	B1a1	(17.80, 2.24)	(7.95, 17.80)	1.36	(13.09, 0.10)	0.04	42	6	-	-	-		
SD40	B	AQ~R1~2	Ⅲ上	1A	B2a2	(4.55, 0.30)	(15.17, 4.49)	0.22	(20.41, 0.18)	0.60	-	-	-	-	-		
SD41	B	AQ~R2	Ⅲ上	1A	A1a1	(3.86, 0.26)	(14.85, 3.84)	0.17	(22.59, 0.06)	0.23	-	-	-	-	-		
SD42	B	AQ~R2	Ⅲ上	2B	B2a1	1.99	0.33	6.03	1.94	0.23	8.43	0.10	0.30	-	-		
SD43	B	CC~F3	Ⅲ上	3B	B1b1	15.16	0.92	16.48	14.92	5.00	29.84	0.25	0.27	-	-		
SD44	B	CE5	Ⅲ上	1A	B1a1	1.04	0.10	10.40	1.02	0.08	12.75	0.02	0.20	-	-		
SD45	B	CE5	Ⅲ上	1A	B1a1	1.08	0.18	6.00	1.04	0.15	6.93	0.02	0.11	-	-		
SD46	B	CE5~6	Ⅲ上	1A	B1a1	0.92	0.08	11.50	0.90	0.06	15.00	0.02	0.25	-	-		
SD47	B	CE~F5	Ⅲ上	1A	B1a1	0.87	0.16	5.44	0.85	0.14	6.07	0.03	0.19	-	-		
SD48	B	CF5	Ⅲ上	1A	B1a1	2.10	0.12	17.50	2.09	0.09	23.22	0.02	0.17	-	-		
SD49	B	CF5	Ⅲ上	1A	B1a1	1.67	0.13	12.85	1.64	0.08	20.50	0.02	0.15	-	-		
SD50	B	CF5~6	Ⅲ上	1A	B1a1	1.84	0.17	10.82	1.81	0.13	13.92	0.02	0.12	-	-		
SD51	B	CF6	Ⅲ上	1A	B1a1	3.84	0.11	34.91	3.83	0.09	42.56	0.02	0.18	-	-		
SD52	B	CF5	Ⅲ上	1A	B1a1	2.09	0.14	14.93	2.05	0.10	20.50	0.03	0.21	-	-		
SD53	B	CF~G5	Ⅲ上	1A	B1a1	1.71	0.14	12.21	1.69	0.10	16.90	0.02	0.14	-	-		
SD54	B	CF~G5	Ⅲ上	1A	B1a1	2.07	0.11	18.82	2.05	0.09	22.78	0.02	0.18	-	-		
SD55	B	CF5	Ⅲ上	1A	B1a1	1.88	0.10	18.80	1.86	0.08	23.25	0.02	0.20	-	-		
SD56	B	CG6	Ⅲ上	1A	B1a1	0.75	0.10	7.50	0.73	0.05	14.60	0.02	0.20	-	-		
SD57	B	CG5	Ⅲ上	1A	B1b1	2.24	0.66	3.39	2.18	0.58	3.76	0.05	0.08	-	-		
SD58	B	CG3	Ⅲ上	1A	A2a1	1.17	0.11	10.64	1.15	0.09	12.78	0.04	0.36	-	-		
SD59	B	CG3	Ⅲ上	1A	A2a1	0.69	0.13	5.31	0.65	0.08	8.13	0.04	0.31	-	-		
SD60	B	CG3	Ⅲ上	1A	B1a1	2.13	0.18	11.83	2.10	0.17	12.35	0.03	0.17	-	-		
SD61	B	CG3	Ⅲ上	1A	B1a1	2.82	0.20	14.10	2.80	0.18	15.56	0.03	0.15	-	-		
SD62	B	CG3	Ⅲ上	1A	B1a1	4.28	0.18	23.78	4.26	0.14	30.43	0.04	0.22	-	-		
SD63	B	CG3	Ⅲ上	1A	B1a1	3.64	0.14	26.00	3.62	0.10	36.20	0.03	0.21	-	-		
SD64	B	BN~O20	Ⅲ上	1A	B1c1	6.42	0.54	11.89	6.32	0.43	14.70	0.05	0.09	-	-		
SD65	B	AL~M2	V上	-	-	(5.20, 1.10)	(4.73, 4.90)	0.85	(5.76, 0.06)	0.05	-	-	-	-	-		
SD66	B	AO~P1~2	V上	2C	B1a1	(4.41, 0.43)	(10.26, 4.41)	0.37	(11.92, 0.04)	0.09	68	-	-	-	-		
SD67	B	BH2~3	V上	1A	B1a1	(0.62, 0.25)	(2.48, 0.57)	0.17	(3.35, 0.02)	0.08	-	-	-	-	-		
SD68	B	BH3	V上	1A	B1a1	0.70	0.15	4.67	0.60	0.07	8.57	0.03	0.20	-	-		

表16 溝・水制造構・流路一覧(2)

造構 番号	地区 名	グランド名	検出 層位	埋土	断面 形状	法量 (m)						深さ	深さ比	挿固番 号	図版番 号
						上端			下端						
						長軸	短軸	形状比	長軸	短軸	形状比				
SD69	B	B02~3	V上	IA	Bla1	(2.95)	0.20	(14.75)	(2.90)	0.12	(24.17)	0.06	0.30	-	-
SD70	B	B02~3	V上	IA	Bla1	(2.95)	0.22	(13.41)	(2.90)	0.15	(19.33)	0.06	0.27	-	-
SD71	B	B02~3	V上	IA	Bla1	0.80	0.20	4.00	0.75	0.10	7.50	0.05	0.25	-	-
SD72	B	B03	V上	IA	Bla1	0.60	0.15	4.00	0.52	0.10	5.20	0.05	0.33	-	-
SD73	B	B02~3	V上	IA	Bla1	1.62	0.20	8.10	1.55	0.12	12.92	0.04	0.20	-	-
SD74	B	B02~3	V上	IA	Bla1	2.62	0.22	11.91	2.55	0.17	15.00	0.05	0.23	-	-
SD75	B	B02~3	V上	IA	Bla1	(2.10)	0.20	(10.50)	(2.07)	0.10	(20.70)	0.04	0.20	-	-
SD76	B	B02~3	V上	IA	Bla1	(2.10)	0.22	(9.55)	(2.07)	0.15	(13.80)	0.05	0.23	-	-
SD77	B	B02~3	V上	IA	Bla1	(0.85)	0.22	(3.86)	(0.82)	0.17	(4.82)	0.02	0.09	-	-
SD78	B	B03	V上	IA	Bla1	0.95	0.26	3.65	0.90	0.22	4.09	0.06	0.23	-	-
SD79	B	B02~3	V上	IA	Bla1	(0.75)	0.22	(3.41)	(0.71)	0.17	(4.18)	0.03	0.14	-	-
SD80	B	B03	V上	IA	Bla1	1.27	0.21	6.05	1.22	0.17	7.18	0.01	0.05	-	-
SD81	B	B02~3	V上	IA	Bla1	(0.79)	0.35	(2.26)	(0.74)	0.27	(2.74)	0.03	0.09	-	-
SD82	B	B03	V上	IA	Bla1	0.87	0.20	4.35	0.34	0.15	2.27	0.07	0.35	-	-
SR1	B	A0~12~3	V上	-	-	7.20	6.65	1.08	7.10	6.60	1.08	0.05	0.01	43~51	12・13
SR2	B	AK~L4~5	V上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43・54 ~56	13
NR1	B	A0~L15	V上	-	台形	(24.50)	15.35	(1.60)	(24.05)	14.40	(1.67)	0.25	0.02	-	-
NR2	B	AW~P15	V上	-	台形	(19.10)	12.10	(1.58)	(18.80)	11.25	(1.67)	0.13	0.01	-	-

表17 水田造構一覧(1)

造構 番号	地区 名	グランド名	検出 層位	平面形状 畦畔の向き	法量 (m)				挿固番 号	図版番 号
					長軸	短軸	形状比	中央部		
								標高		
SN01	B	AP~R1~3	Ⅲ上	長方形?	(9.85)	(7.22)	1.36	8.74	-	-
SN02	B	AP3~5	Ⅲ上	長方形?	(10.24)	(2.94)	3.48	8.65	-	-
SN03	B	A~CT~C2~4	Ⅲ上	長方形?	(14.10)	(7.36)	1.92	8.60	33・36	7・8
SN04	B	CD~F2~3	Ⅲ上	長方形?	(6.00)	(5.90)	1.02	8.57	34	-
SN05	B	CD~F3~4	Ⅲ上	長方形?	(3.10)	(2.20)	1.41	8.56	-	-
SN06	B	CC~F4~5	Ⅲ上	長方形?	(18.38)	3.84	(4.79)	8.62	-	8
SN07	B	A~CT~E5~6	Ⅲ上	長方形	12.68	6.24	2.03	8.55	-	-
SN08	B	CE~G5~6	Ⅲ上	長方形?	8.94	(3.64)	(2.46)	8.59	36・40	8
SN09	B	CF~G2~3	Ⅲ上	長方形	9.50	6.14	1.55	8.52	-	-
SN10	B	CF~G3~4	Ⅲ上	方形	6.18	5.82	1.06	8.53	38	7
SN11	B	CF~G4~5	Ⅲ上	長方形	6.06	4.32	1.40	8.54	38	-
SN12	B	CK~N1	Ⅲ上	方形	16.72	10.32	1.62	8.49	-	-
SN13	B	CH~I3~5	Ⅲ上	長方形	12.82	7.84	1.64	8.51	38	-
SN14	B	CG~I5~6	Ⅲ上	長方形	11.52	(3.60)	(3.20)	8.60	-	-
SN15	B	CL~M3	Ⅲ上	長方形	(7.12)	3.36	(2.12)	8.49	35・36・39	-
SN16	B	CI~K3~5	Ⅲ上	長方形?	9.10	(8.15)	(1.12)	8.51	39	-
SN17	B	CI~M5~6	Ⅲ上	長方形?	10.08	(2.96)	(3.41)	8.57	-	-
SN18	B	B~CK~N20~1	Ⅲ上	方形	14.78	(2.10)	(7.04)	8.38	36	-
SN19	B	CK~N1	Ⅲ上	長方形	14.24	10.62	1.34	8.38	34・35	-
SN20	B	CJ~K3	Ⅲ上	長方形	(6.70)	3.50	(1.91)	8.41	-	-
SN21	B	CL~M4~5	Ⅲ上	方形	8.72	8.18	1.07	8.50	35・39	-
SN22	B	CK~L6	Ⅲ上	長方形?	(5.50)	1.40	(3.93)	8.44	-	-
SN23	B	B~CN~P20~1	Ⅲ上	長方形?	(8.00)	(2.18)	3.67	8.27	36	8
SN24	B	CN~P1	Ⅲ上	長方形?	(8.72)	(2.60)	3.35	8.27	-	-
SN25	B	CO4~6	Ⅲ上	長方形?	10.10	(0.68)	(14.85)	8.44	-	-
SN26	B	CO3~6	Ⅲ上	長方形?	(13.42)	(4.34)	3.09	8.40	-	-
SN27	B	CO6	Ⅲ上	長方形?	(1.78)	(1.58)	1.13	8.54	-	-
SN28	B	AK2~3	V上	長方形?	(4.86)	(4.16)	1.17	8.14	-	-
SN29	B	AK2	V上	長方形?	11.30	(4.08)	(2.77)	8.15	-	-
SN30	B	AL~M3~4	V上	不明	(2.78)	(2.38)	1.17	8.15	-	-
SN31	B	AM2	V上	不明	(4.06)	(1.32)	3.08	8.15	-	-
SN32	B	AM3~4	V上	不明	(4.96)	(4.00)	1.24	8.13	-	-
SN33	B	AP3~4	V上	不明	(5.23)	(3.70)	1.41	8.06	-	-
SN34	B	AP4~5	V上	不明	(3.94)	(3.30)	1.19	8.10	-	-
SN35	B	AQ~R1~2	V上	長方形?	6.72	(4.90)	(1.37)	8.34	68	-
SN36	B	AR1~2	V上	台形?	(4.60)	(0.72)	6.39	8.32	-	-
SN37	B	AR2~3	V上	長方形?	(1.84)	(0.90)	2.04	8.29	-	-
SN38	B	A~CT~02~3	V上	不整形長方形?	(9.80)	(5.60)	1.75	8.33	63	-
SN39	B	A~CT~B5~6	V上	長方形?	(10.30)	(3.38)	3.05	8.24	62	-

表18 水田遺構一覧(2)

遺構番号	地区名	グロット名	検出層位	平面形状 畦畔の向き	法量 (m)			中央部 標高	碑園番号	図版番号
					長軸	短軸	形状比			
					SN40	B	CB~D2~4			
SN41	B	CD~E1~3	V上	長方形?	(9.54)	6.00	(1.59)	8.38	-	-
SN42	B	CC~E3~5	V上	不定形(九字形)	14.10	6.98	2.02	8.34	63	-
SN43	B	CB~E4~6	V上	長方形?	13.82	(6.32)	(2.19)	8.32	-	-
SN44	B	CE~G1	V上	長方形?	11.88	(3.18)	(3.74)	8.35	-	-
SN45	B	CE~F2~3	V上	長方形	7.06	2.70	2.61	8.35	-	-
SN46	B	CF~G2~3	V上	長方形	9.12	8.20	1.11	8.28	64	-
SN47	B	CE~G3~4	V上	長方形	12.12	5.58	2.17	8.34	63・64	-
SN48	B	CE~G5~6	V上	長方形?	11.22	(7.38)	(1.52)	8.28	62・64	-
SN49	B	CH~J1~2	V上	長方形?	11.40	(5.40)	(2.11)	8.32	-	-
SN50	B	CJ~K1~2	V上	長方形?	(5.12)	(3.04)	1.68	8.28	-	-
SN51	B	CH~K2~3	V上	長方形?	(16.54)	(5.70)	2.90	8.29	64・67	8
SN52	B	CG~L3~5	V上	不整長方形	9.62	7.02	1.37	8.23	64・65	8・10
SN53	B	CG~L5~6	V上	不整長方形?	8.66	(6.20)	(1.40)	8.20	62・65	-
SN54	B	CJ~K3~4	V上	不整長方形	7.04	5.72	1.23	8.18	-	-
SN55	B	CI~K4~6	V上	不定形	10.42	5.14	2.03	8.02	62・65	-
SN56	B	CI~K5~6	V上	長方形?	9.68	(3.12)	(3.10)	7.94	-	-
SN57	B	BK20	V上	不明	(0.64)	(0.12)	5.33	8.32	-	-
SN58	B	BK~L20	V上	不明	(1.50)	(0.18)	8.33	8.25	-	-
SN59	B	B~CL~N20~1	V上	長方形?	9.06	(1.18)	(7.68)	8.23	-	10
SN60	B	CK~M1~3	V上	長方形?	9.42	(4.68)	(2.01)	8.28	67	-
SN61	B	CM~N1	V上	長方形?	6.18	(2.84)	(2.18)	8.20	-	-
SN62	B	CK~M2~3	V上	長方形?	(7.00)	6.70	(1.04)	8.32	-	-
SN63	B	CK~M3~5	V上	台形?	(9.10)	7.98	(1.14)	8.20	-	-
SN64	B	CK~M5~6	V上	長方形?	(8.32)	5.60	(1.49)	8.08	-	10
SN65	B	CK6	V上	不明	(1.10)	(1.08)	1.02	7.92	-	-
SN66	B	B~CN~P20~1	V上	長方形?	(8.90)	(1.30)	6.85	8.14	-	-
SN67	B	CN~P1	V上	長方形?	(8.38)	(2.68)	3.13	8.14	-	-
SN68	B	CO3~4	V上	不明	(0.76)	(0.34)	2.24	8.25	-	-
SN69	B	CO4~6	V上	不明	(7.32)	(0.74)	9.89	8.22	-	-
SN70	B	CO3~4	V上	長方形?	(3.60)	(1.90)	1.89	8.22	-	-
SN71	B	CO4~6	V上	長方形?	9.20	(3.48)	(2.64)	8.21	-	-
SN72	B	CO6	V上	長方形?	(3.42)	(2.28)	1.50	8.06	-	-
SM1	B	AO~P7~11	Ⅲ上	東西	(17.65)	5.30	(3.33)	8.75	33	-
SM2	B	CC~D14	Ⅲ上	東西	(3.40)	2.80	(1.21)	8.69	-	-
SM3	B	B~CK~O20~1	Ⅲ上	南北	(23.55)	0.58	(40.60)	8.42	-	-
SM4	B	AP~Q12	V上	東西	(4.50)	0.75	(6.00)	8.44	-	-
SM5	B	B~CJ~O20~1	V上	南北	(26.10)	1.45	(18.00)	8.28	-	-

表19 土器観察表(1)

掲載番号	地区名	ブワノ名	遺構名	層位	種別	器種	産地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	最大幅 (cm)	備考	押図番号	図版番号
2	A	AM9	包含層	Ib	瓦質土器	大倉舎 がら			13.0	-	(2.4)	-	ヘラ状工具の圧痕か。	15	14
3	A	AQ8他	包含層	Ib	灰軸陶器	碗	美濃	K-14~K-90	16.0	8.0	15.0	-		15	14
4	A	AQ9	包含層	Ib	灰軸陶器	碗		虎渡山1	-	7.6	(2.8)	-	内面使用。	15	14
5	A	AN2	包含層	Ib	灰軸陶器	碗		明和27~ 西坂1	-	7.2	(2.1)	-	内面使用。	15	14
6	A	AJ9他	包含層	III	須恵器	甕	美濃須 恵	11世紀	-	-	(8.6)	-	灰軸の甕で使った須恵器。	15	14
7	A	AQ9	包含層	Ib	山茶碗	碗	尾張	第3型式	-	8.4	(2.4)	-	内面使用。釉股圧痕有。	15	14
8	A	AP8	包含層	Ib	山茶碗	碗	尾張	第3~4型式	-	-	(1.6)	-	内面使用。重ね焼き痕有。	15	14
9	A	AQ8	包含層	Ib	山茶碗	碗	尾張	第4型式	-	7.6	(3.0)	-	内面使用。釉股圧痕有。	15	14
10	A	AQ9	包含層	Ib	山茶碗	碗	尾張	第4型式	-	7.6	(2.5)	-	内面使用。内面煤付着。釉股圧痕有。	15	14
11	A	A08	包含層	Ib	山茶碗	碗	尾張	第4型式	-	7.8	(2.5)	-	内面使用。	15	14
12	A	AM10	包含層	III	山茶碗	碗	美濃須 恵	第5型式並 行	-	7.4	(2.8)	-	内面使用。内面煤付着。重ね焼き痕有。釉股圧痕有。	15	14
13	A	A08	包含層	Ib	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.6	(2.7)	-	内面・底部煤付着。釉股圧痕有。	15	14
14	A	AN8	包含層	Ib	陶器	加工円 盤		大窯2	-	4.3	(0.9)	-		15	14
15	A	AN8	包含層	Ib	白磁	紅皿	肥前		-	1.7	(0.6)	-		15	14
18	A	A09他	SD28	1他	灰軸陶器	深碗	東濃か	丸石2	-	7.0	(4.0)	-	内面使用。	17	16
19	A	AQ9他	SD30	b	山茶碗	碗			-	-	(1.7)	-	内面使用。	18	14
20	A	AQ9他	SD30	1	陶器	楕鉢		後IV新	24.8	-	(2.6)	-		18	14
21	A	AQ9他	SD32	a	山茶碗	片口鉢	尾張	第5型式	24.0	-	(2.6)	-		18	14
22	A	AQ9他	SD33	a	須恵器	台付盤 か円面 碗	美濃須 恵	8世紀後~ 9世紀前	-	-	(2.2)	-	外面線刻。	19	14
23	A	AQ9他	SD33	a	灰軸陶器	高坏	美濃須 恵	山茶碗の 時期。灰 軸の終わ り	-	-	(2.6)	-		19	14
24	A	AQ9他	SD33	1	山茶碗	碗	尾張	第6型式	-	8.2	(2.1)	-	釉股圧痕有。	19	14
26	A	AJ8	SD6	b	土師器	坏		12世紀	-	6.2	(1.0)	-	内面指頭圧痕。全体に摩 耗。	19	15
27	A	AR8他	SD35	a	山茶碗	碗	尾張	第5型式	17.4	-	(2.8)	-	内面煤付着。	19	15
28	A	AR8他	SD35	c	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	6.9	(2.4)	-	内面使用。釉股圧痕有。	19	15
29	A	AR8他	SD35	1	山茶碗	鉢	尾張	第5型式	24.0	-	(7.3)	-		19	15
30	A	AR8他	SD35	1	山茶碗	碗	尾張	第3型式	15.9	-	(3.8)	-		19	15
31	A	AR8他	SD35	b	山茶碗	仏供具		古瀬戸前 期か	-	4.6	(3.5)	-		19	15
33	A	AQ9他	SD36	b	土師器	土師器 皿		13~14世 紀	8.2	-	(1.6)	-	指ナブ。	21	15
34	A	AQ9他	SD36	1	灰軸陶器	段皿	不明	虎渡山1か 丸石2	-	5.6	(1.4)	-		21	15
35	A	AQ9他	SD36	a	山茶碗	皿	尾張	第5型式	9.4	6.2	2.0	-		21	15
36	A	AQ9他	SD36	a	山茶碗	皿	尾張	第4型式	-	5.0	(1.5)	-	釉股圧痕有。	21	15
37	A	AQ9他	SD36	2	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	9.0	(1.4)	-		21	15
38	A	AQ9他	SD36	1	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.0	(3.0)	-	内面使用。内面炭化物・煤 付着。釉股圧痕有。	21	16
39	A	AQ9他	SD36	2	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	6.2	(2.3)	-	内面使用。釉股圧痕有。	21	15
40	A	AQ9他	SD36	2	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.0	(2.2)	-	釉股圧痕有。	21	15
41	A	AQ9他	SD36	a	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.0	(2.2)	-	釉股圧痕有。	21	15
42	A	AQ9他	SD36	2	山茶碗	碗	尾張	第4型式	-	8.0	(2.9)	-	外面煤付着。	21	15
43	A	AQ9	SD37	a	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.4	(2.4)	-	内面使用。釉股圧痕有。	21	15
45	A	A08	SK5	2	山茶碗	碗	美濃須 恵	第4型式並 行	-	7.2	(2.5)	-	内面使用。	23	16
46	A	AN9	SK25	1	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.2	(2.3)	-	内面使用。釉股圧痕有。	23	16
47	A	AQ8他	SK42	1	灰軸陶器	皿	不明	大畑2片 鉢	11.0	-	(1.9)	-		24	15
48	A	AQ9他	SD35・ SK43	1他	白磁	碗	中国	12世紀中 ~13世紀 前	-	-	(2.3)	-	内外面欄目。	24	15
49	A	AQ9他	SK44	1	灰軸陶器	皿	不明	丸石2	-	6.4	(1.4)	-	内面使用。重ね焼き痕有。	25	15
50	A	AQ9他	SK44	1	灰軸陶器	碗	不明	明和27~ 西坂1	-	6.3	(1.9)	-	内面使用。	25	15
51	A	AQ9他	SK44	1	山茶碗	碗		浅間山下1	-	7.6	(2.9)	-	内面煤付着。釉股圧痕有。	25	15
52	A	AQ9他	SK44	a	山茶碗	碗	尾張	第4型式	-	7.6	(2.3)	-	内面使用。重ね焼き痕有。	25	15
53	A	AQ9他	SK44	a他	山茶碗	碗	尾張	第5型式	15.2	-	(3.3)	-	内面煤付着。	25	15

表20 土器観察表(2)

掲載 番号	地区 名	シラ ブ 名	遺構名	層位	種別	器種	産地	分類・時 期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	最大幅 (cm)	備考	挿図 番号	図版 番号	
54	A	AQ9	SK45	a	灰軸陶器	皿	不明	丸石2	-	6.0	(1.0)	-	重ね焼き痕有。		26	16
55	A	AQ9	SK45	a	山茶碗	皿	尾張	第5型式	8.8	-	(1.9)	-			26	16
56	A	AQ9	SK45	a	山茶碗	皿	尾張	第5型式	-	7.0	(1.8)	-	内面使用。		26	16
57	A	AQ9	SK46	2	土師器	伊勢型 鍋		12世紀末 ～13世紀 初	28.0	-	(1.2)	-	外面煤付着。		27	16
58	A	AQ9	SK46	2	土師器	伊勢型 鍋			-	-	(3.3)	-			27	16
59	A	AQ9	SK46	a	灰軸陶器	皿	不明	丸石2	-	6.0	(1.6)	-	内面使用。重ね焼き痕有。		27	16
60	A	AQ9	SK46	b	灰軸陶器	碗	不明	大原2	13.8	-	(4.0)	-			27	16
61	A	AQ9	SK46	b	山茶碗	皿	尾張	第5型式	10.0	-	(1.7)	-	内面煤付着。		27	16
62	A	AQ9	SK46	2	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.0	(2.1)	-	内面煤付着。		27	16
63	A	AQ9	SK46	b	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.7	(2.5)	-	内面使用。		27	16
64	A	AQ9	SK46	2	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.0	(2.7)	-	内面使用。内面煤付着。釉 段圧痕有。		27	16
65	A	AQ9	SK46	2他	山茶碗	片口鉢	尾張	第5型式	24.0	-	(2.6)	-			27	16
66	A	AQ9	SK48	1他	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.0	(2.5)	-	内面使用。内面煤付着。釉 段圧痕有。		28	16
68	B	CK3	覆瓦		瓦質土器				-	-	(4.4)	-			30	17
69	B	CK4	覆瓦		瓦質土器				-	-	(5.4)	-			30	17
70	B	CK4	覆瓦		土製品			21.4	-	-	(5.2)	-	内外面被熱し赤色化。		30	17
71	B	CF3他	包含層	Ⅱ他	土師器	甕		9～10世紀	17.5	-	-	18.0			30	17
72	B	AM9	包含層	I	土師器	伊勢型 鍋		11世紀	19.0	-	(1.9)	-			30	17
73	B	CL5	覆瓦	a	土師器	土師器 皿		13世紀～ 14世紀	7.8	4.1	1.5	-	指ナブ。		30	17
74	B	AM9	包含層	I	土師器	土師器 皿		13世紀～ 14世紀	8.2	5.0	1.5	-	口縁部煤付着。		30	17
75	B	AM2	包含層		須志器	碗の蓋	美濃須 志	7世紀後～ 8世紀前	13.6	-	(1.3)	-	佐波理写し。		30	17
76	B	CL6	包含層	Ⅲ	須志器	無台坏	美濃須 志	1期 (7世 紀後～8世 紀前)	12.4	6.3	3.7	-	内面墨付着か。		30	17
77	B	CH6	包含層	I	須志器	有台盤	美濃須 志	V期 (8世 紀後～9世 紀前)	-	-	(1.8)	-			30	17
78	B	AJ5	包含層	Ⅳ	須志器	高坏	美濃須 志	7世紀後半	-	-	(9.0)	-			30	17
79	B	CC1	包含層		須志器	甕	不明	6世紀後～ 7世紀前	-	-	(5.3)	-	外面2条の沈線・縞刺突 文。		30	17
80	B	AJ2	包含層	Ⅳ	須志器	甕		6世紀末～ 7世紀初	-	-	(5.3)	-	外面縄目引き。内面同心円 文粗い当て具痕。		30	17
81	B	AM3	包含層	Ⅳ	須志器	甕	美濃須 志	8世紀後半	18.1	-	(5.8)	-	外面格子目文引き。内面同 心円文当て具痕。		30	17
82	B	AL4	包含層	Ⅳ	須志器	甕			-	-	(4.5)	-	外面平行縞文引き。内面同 心円文当て具痕。		30	17
83	B	CJ3	包含層	Ⅱ	須志器	長頸瓶	美濃須 志	8世紀代	-	-	(4.8)	-			30	17
84	B	CK3他	包含層		須志器	長頸瓶	美濃須 志	8世紀代	-	-	(4.5)	-			30	17
85	B	CL1	包含層	Ⅱ	須志器	甕			-	11.0	(10.7)	-			30	17
86	B		覆瓦		須志器	瓶			-	-	(7.4)	-			30	17
87	B	CO1	包含層	Ⅱ	須志器	有台坏	美濃須 志	8世紀後～ 9世紀前	-	10.0	(1.4)	-	内面墨付着。		30	17
88	B	CK1他	包含層	I他	灰軸陶器	皿	不明	K-90	-	6.2	(2.1)	-	重ね焼き痕有。		30	18
89	B	BM20	包含層	I	灰軸陶器	碗		大原2	-	-	(2.3)	-			30	18
90	B	CH5	包含層	I	灰軸陶器	深碗		虎渡山1	-	7.0	(2.7)	-	内外面、割れ口に付着物 （漆か）。内面側からの打 ち欠。		30	18
91	B	CH5	包含層	I	灰軸陶器	碗		虎渡山1	-	7.5	(2.9)	-	内外面付着物（漆か）。打 ち欠か。		30	18
92	B	AN5	包含層	I	灰軸陶器	深碗		丸石2	-	6.6	(2.0)	-			30	18
93	B	CL4	包含層	Ⅱ	灰軸陶器	深碗		丸石2	-	7.0	(1.9)	-			30	18
94	B	CK	覆瓦		須志器	三粒壺	美濃須 志	山茶碗の 時期	-	-	(12.9)	20.0	外面平行沈線。		30	18
95	B	AP2	包含層	Ⅱ	山茶碗	小碗	美濃須 志	V期 (第3 ～4型式並 行)	-	5.2	(1.9)	-			30	19
96	B	CL	包含層	Ⅱ	山茶碗	碗	美濃須 志	V期 (第4 型式並 行)	-	8.5	(2.2)	-	内面使用。重ね焼き痕有。 釉段圧痕有。		30	19

表21 土器観察表 (3)

掲載番号	地区名	ゾナ名	遺構名	層位	種別	器種	産地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	最大幅 (cm)	備考	押戻番号	図版番号
97	B	CH5	包含層	I	山茶碗	碗		丸石3	16.5	6.9	5.1	-	内面使用。髹漆圧痕有。	30	18
98	B	CK5	覆瓦		山茶碗	碗	尾張	第3型式	-	7.4	(2.8)	-	内面使用。重ね焼き痕有。髹漆圧痕有。	30	19
99	B	CL6	覆瓦	a	山茶碗	皿	尾張	第4型式	9.9	5.8	2.6	-	内面使用。内面煤付着。	30	18
100	B	CC1	包含層		山茶碗	皿	尾張	第4型式	-	4.8	(1.6)	-	内面使用。重ね焼き痕有。髹漆圧痕有。	30	19
101	B	AT1	包含層		山茶碗	碗	尾張	第4型式	-	7.4	(1.9)	-	内面使用。	30	19
102	B	CH5	包含層	I	山茶碗	片口鉢	尾張	第4型式	-	12.9	(6.1)	-	内面使用。	30	19
103	B	CK5	覆瓦	I	山茶碗	碗	尾張	第5型式	15.3	6.4	4.8	-	内面使用。内外面煤付着。髹漆圧痕有。	30	18
104	B	CF3	SNS	b他	山茶碗	碗	尾張	第5型式	15.0	7.7	4.5	-	髹漆圧痕有。	30	18
105	B	CK5	覆瓦	a	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.2	(2.5)	-	内面使用。	30	19
106	B	AR1	覆瓦		山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.7	(2.3)	-	内面使用。重ね焼き痕有。	30	19
107	B	AQ1	覆瓦		山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	7.8	(2.3)	-	内面使用。髹漆圧痕有。	30	19
108	B	AT1	覆瓦		山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.7	(2.5)	-	内面使用。髹漆圧痕有。	30	19
109	B	CH4	包含層	I	山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.7	(3.0)	-	内面使用。髹漆圧痕有。	30	19
110	B	AT1	覆瓦		山茶碗	碗	尾張	第5型式	-	8.1	(2.3)	-	内面使用。内面墨付着あり。髹漆圧痕有。	30	19
111	B	CG6	覆瓦		山茶碗	皿	尾張	第5型式	7.6	4.0	1.9	-	内面使用。	30	19
112	B	CH4	包含層	I	山茶碗	皿	尾張	第5型式	-	4.5	(1.6)	-	内面使用。	30	19
113	B	BM20	包含層	I	山茶碗	皿	尾張	第5型式	-	3.2	(1.1)	-	内面使用。	30	19
114	B	AI3	包含層	I	山茶碗	皿	尾張	第5型式	8.4	5.4	2.4	-	内面使用。	30	19
115	B	CK4	覆瓦		山茶碗	片口鉢	尾張	第5型式	-	13.0	(7.0)	-	内面使用。重ね焼き痕有。	30	19
116	B	CK4	覆瓦		山茶碗	片口鉢	尾張	第5~6型式	-	-	(4.4)	-	内面使用。	30	19
117	B	CK1他	包含層	II他	山茶碗	片口鉢	尾張	第6型式	38.8	-	(5.6)	-	内面使用。	30	19
118	B	CE1	包含層	I	山茶碗	碗	尾張	第8型式	-	7.4	(1.8)	-	内面使用。	30	19
119	B	CK5	包含層	I	青磁	碗		12世紀中～13世紀前	15.6	-	(3.8)	-	劃花文。龍泉窯系。	31	20
120	B	CL6	覆瓦		白磁	碗		II類 (12世紀前)	-	5.0	(1.9)	-	内面使用。	31	20
121	B	CK3	包含層	I	白磁	碗		V小I類 (12世紀中～13世紀前)	-	5.1	(3.3)	-	内面使用。	31	20
122	B	CL	包含層	II	白磁	碗		IV類 (12世紀中～13世紀前)	15.6	-	(3.5)	-	内面使用。	31	20
123	B	CK4	覆瓦		白磁	碗		12世紀中～13世紀前	-	-	(1.8)	-	内面使用。	31	20
124	B	CK4	覆瓦		白磁	碗		13世紀中	-	5.8	(1.9)	-	内面使用。	31	20
125	B	CK5	包含層	I	青磁	碗		13世紀中～14世紀	-	-	(3.2)	-	劃連弁。龍泉窯系。	31	20
126	B	CK2	覆瓦		青磁	碗		13世紀中～14世紀中	15.8	-	(3.6)	-	劃連弁。龍泉窯系。	31	20
127	B	CK3	覆瓦		青磁	碗		15世紀後～16世紀前	-	4.8	(1.9)	-	底部内面へフ描き。	31	20
128	B	CK3	覆瓦		陶器	甕	常滑	不明	-	-	(10.2)	-	外面押印帯。	31	21
129	B	CE5	包含層	I	陶器	甕	常滑	不明	-	18.0	(5.1)	-	底部外面付着物。	31	21
130	B	CK4他	包含層	I他	陶器	播鉢		古瀬戸後IV新から大窯1	-	-	(6.1)	-	内面使用。	31	20
131	B	CK4	覆瓦		陶器	椀皿		大部3後	10.6	8.8	2.5	-	内面使用。重ね焼き痕有。	31	20
132	B	CK2	覆瓦		陶器	丸碗		大部3後	10.6	-	(2.0)	-	外面へフ描き文様。	31	20
133	B	CK4	覆瓦		陶器	絵唐津碗	唐津	16世紀末～17世紀初	-	4.4	(2.0)	-	内面鉄絵。	31	20
134	B	CH4	包含層	I	陶器	皿	瀬戸美濃	不明	-	7.0	(1.6)	-	内面使用。	31	20
135	B	CL3	包含層	II	陶器	志野	登窯2	9.8	-	(2.0)	-	内面使用。	31	20	
136	B	CH5	包含層	I	陶器	天目茶碗	登窯3	10.8	-	(3.3)	-	内面使用。	31	20	
137	B	CC5	包含層	I・II	陶器	黄瀬戸鉢	美濃	登窯3~4	-	15.0	(1.9)	-	内面使用。	31	20
138	B	CK4	覆瓦		陶器	播鉢	瀬戸	登窯1~4	-	10.4	(6.7)	-	内面使用。	31	21
139	B	CH4	包含層	I	陶器	輪美皿	瀬戸	登窯5	12.2	-	(2.3)	-	内面使用。	31	20

表22 土器観察表(4)

掲載番号	地区名	グリッド名	遺構名	層位	種別	器種	産地	分類・時期等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	最大幅(cm)	備考	挿図番号	図版番号
140	B	CK4	覆乱		陶器	尾白茶碗	美濃	登窯7	-	-	(3.3)	-	内面にヘラ描きか。	31	20
141	B	CK4	覆乱		陶器	小瓶	美濃	登窯7	-	4.8	(3.2)	-		31	20
142	B	CK4	覆乱		陶器	播鉢	瀬戸	登窯7	27.5	-	(3.0)	-		31	20
143	B	CK4	覆乱		陶器	鈴高呑	美濃	登窯8	-	3.4	(1.8)	-	外面欄目文帯。	31	20
144	B	CG1	覆乱		陶器	灯明皿	美濃	登窯10	9.7	-	(2.0)	-		31	20
145	B	CK4	覆乱		陶器	灯明皿	美濃	登窯10	10.0	4.2	1.9	-	重ね焼き痕有。	31	20
146	B	CC2	覆乱		陶器	広葉碗	瀬戸	登窯10	-	-	(1.9)	-	外面染付。	31	20
147	B	CH3	包含層	I	磁器	箱形湯呑	美濃	登窯10	-	-	(3.0)	-	外面染付。	31	20
148	B	A14	包含層	I	陶器	灯明皿	美濃	登窯11	-	-	(1.2)	-		31	20
149	B	CK3	覆乱		陶器	広葉碗	瀬戸	登窯11	-	5.0	(2.5)	-	内外面染付。	31	20
150	B	CH1	覆乱		陶器	菓子鉢	瀬戸	登窯11	-	-	(6.1)	-	外面圈線文。	31	20
151	B	CK1	覆乱		陶器	片口鉢	美濃	登窯11	-	11.0	(2.5)	-	三又トチン痕。	31	21
152	B	CK4	覆乱		陶器	播鉢	瀬戸	登窯11	35.9	-	(5.5)	-		31	20
153	B	CO4	覆乱		陶器	播鉢	瀬戸	登窯10～11	-	12.2	(5.8)	-		31	21
154	B	CH1	覆乱		陶器	油徳利	美濃	登窯10、11	2.3	-	(4.8)	-		31	21
155	B	CK4	覆乱		陶器	油徳利	美濃	登窯10、11	-	6.6	(2.9)	-		31	21
156	B	CL4	覆乱		陶器	徳利	美濃	登窯11	3.2	-	(3.7)	-		31	21
157	B	CK4	覆乱		陶器	水甕	瀬戸	登窯11	-	-	(3.9)	-	外面ヘラ描き文様。	31	21
158	B	CK4	覆乱		陶器	蓋		江戸時代後半	-	-	1.1	3.3	軟質施釉陶器。	31	21
159	B	CK4	覆乱		磁器	紅皿	肥前		4.0	-	(1.2)	-		31	21
160	B	CK4	覆乱		磁器	碗	肥前	不明	-	-	(2.2)	-	外面染付。	31	21
161	B	CL	包含層	II				近世以降	7.4	-	(2.1)	-		31	21
165	B	CG2	SN51	V	土師器	甕		弥生～古墳	-	-	(4.9)	-	内外面煤付着。	59	21
166	B	CJ3	SN16	a	須恵器	無台坏	美濃須恵	V期(8世紀後～9世紀前)	-	-	6.3	(1.4)		32	21
167	B	CO4	SN26	a	山茶碗	碗	尾張	第3～4型式	16.0	-	(3.8)	-		32	21

表23 土鉢観察表

掲載番号	地区名	グリッド名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	時期	備考	挿図番号	図版番号
1	A	A08	包含層	I b	(2.2)	1.0	0.3	1.9		下端部欠損。	15	14
32	A	AR9地	SD36	b	(2.3)	1.1	0.4	2.3		上・下端部欠損。	21	15
67	A	CK3	包含層		(2.3)	0.9	0.4	2.5			30	-

表24 石器観察表

掲載番号	地区名	グリッド名	遺構名	層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	時期	備考	挿図番号	図版番号
25	A	A09地	SD33	a	砥石	珪石/石英	(6.0)	(5.6)	2.0	90.2		上・下・右側欠損。磨製石斧の転用か?	19	14
162	B	CG3	包含層	III	砥石	不明	(5.5)	(3.5)	2.3	86.0		全側面欠損。裏面も欠損か。砥面は正面のみ残存。	31	21
168	B	CL1	SN59		砥石	砂岩	(6.4)	(8.7)	7.0	541.0		下端面欠損。正面に煤付着。	59	21

表25 金属製品観察表

掲載番号	地区名	グリッド名	遺構名	層位	器種	素材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	時期	備考	挿図番号	図版番号
16	A	AL8	包含層	III	埴管	銅	3.7	0.9	0.9	5.1			15	22
17	A	AR9	包含層	I b	埴管	銅	2.1	0.8	0.7	1.4		直径1mmの穿孔3つあり。	15	22
163	B	A12	包含層	I	埴管	銅	5.0	0.8	0.8	8.5		火皿に煤か。付着物あり。	31	22
164	B	CM1	包含層	I	古銭	銅	2.4	2.4	0.1	3.3			31	22

表26 木製品観察表

掲載番号	地区名	がらび'名	遺構名	層位	用途	種別	樹種	木取り	先端形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	押国番号	図版番号
44	A	AQ9	SD37	a	祭祀具	火付け木	ヒノキ	IV	不明	25.5	1.9	0.7	上端部欠損。下端部腐化。断面三角形。下端部に刃物痕あり。	21	22
169	B	AH2	SR1	18	祭祀具	斎串	ヒノキ	IV	-	40.1	3.4	0.9	上端部に切り込みを入れ、先端状に加工。上部は幅の細い刃物で加工。切り込みに糸を巻いたか帯状に目焼け痕あり。下端部両側面を加工し先端を尖らせる。中世。	52	22
170	B	AH2	SR1		土木部材	杭	スダジイ	I	1b	117.0	7.0	7.0	上端部欠損。下端部4方向からチョウナによる加工。枝払いあり。	52	-
171	B	AH2	SR1		土木部材	杭	シキミ	I	1b	106.0	8.0	8.0	下端部を6方向からチョウナで尖らせている。上端部に刃物痕あり。樹皮残存。	52	-
172	B	AH2	SR1		土木部材	杭	モモ	II-4	1b	113.3	10.0	5.1	上端部欠損。下端部6方向からのチョウナによる加工をした尖らせている。丸太材を平削している。下端部左右側面に長い加工をほどこして尖らせている。	52	-
173	B	AH2	SR1		土木部材	杭	シキミ	I	1b	104.0	8.0	8.0	下端部6方向からチョウナで尖らせる。	52	22
174	B	AH2	SR1		土木部材	杭	コナラ属 アカガシ 亜属	I	1b	91.6	4.3	4.0	上端部欠損。下端部に9方向からチョウナによる加工で尖らせている。	53	-
175	B	AH2	SR1		土木部材	杭	エノキ属	II-1	1b	98.7	9.9	7.7	上端部欠損。みかん割材を使用。樹皮側に枝払い以外の加工無し。下端部7方向から刃が平らなチョウナによる加工あり。右側面にみかん割り時の幅8cmのチョウナ痕あり。	53	-
176	B	A12	SR1		土木部材	横材/杭	シキミ	I	1b	165.0	10.0	10.0	下端部4方向からチョウナによる加工で尖らせている。上端部2方向からの加工あり。樹皮残存。	53	-
177	B	A12	SR1		土木部材	杭	クリ	I	1b	69.6	5.3	5.6	上端部欠損。下端部4方向からチョウナによる加工あり。	53	-
178	B	A12	SR1		土木部材	杭	コナラ属 アカガシ 亜属	I	3b	89.4	4.2	4.2	上端部欠損。下端部にチョウナによる大きく2方向からの加工あり。	53	-
179	B	A12	SR1		土木部材	杭	エゴノキ属	I	3b	147.0	8.0	8.0	上端部欠損。下端部2方向からのチョウナでの加工で尖らせている。枝払いあり。	53	-
180	B	A12	SR1		土木部材	杭	サカキ	I	3b	59.0	5.5	5.5	上端部、下端部裏面欠損。下端部をチョウナで2方向からの加工でとがらせている。	53	-
181	B	AK4	SR2		土木部材	杭	コナラ属 アカガシ 亜属	I	1b	81.9	3.5	3.1	上端部、中間部欠損。下端部に3方向からのチョウナによる加工で尖らせている。	57	-
182	B	AK4	SR2		土木部材	杭	エノキ属	I	1b	66.0	5.0	5.0	上端部欠損。下端部5方向からのチョウナでの加工で尖らせている。枝払いあり。刃こぼれ痕あり。	57	-
183	B	AK5	SR2		土木部材	杭	モミ属	I	1b	173.0	7.6	7.6	上端部欠損。下端部6方向からチョウナで加工。	57	22
184	B	AK4	SR2		土木部材	杭	カエデ属	I	1b	103.4	4.0	4.0	上端部欠損。下端部に4方向からチョウナによる加工をして尖らせている。	57	-
185	B	AK5	SR2		土木部材	杭	エノキ属	I	1b	134.8	5.0	5.0	上端部欠損。下端部4方向からチョウナによる加工で尖らせている。	57	-
186	B	AK4	SR2		土木部材	杭	ブナ属	I	1b	108.0	4.5	4.5	上端部欠損。下端部に4方向からのチョウナによる加工で尖らせている。枝払いあり。樹皮残存。	57	-
187	B	AK4	SR2		土木部材	杭	キハダ	II-3	3b	125.0	10.0	6.0	みかん割材を使用。断面三角形。下端部の左右側縁部を加工して尖らせている。	57	22
188	B	AK4	SR2		土木部材	杭	トネリコ属 シオジ節	IV	3b	98.2	6.0	7.0	上端部欠損。みかん割り財使用。裏面両面に面取状の加工あり。断面ほぼ三角形。	57	-

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要

本節では、次節以降に記載する自然科学分析を実施した経緯と結果、及び若干の考察を述べる。

1 花粉分析とプラント・オパール分析

B地区第1・2面で確認された水田遺構を科学的に検証し、周辺の植生を復元するため分析を実施した。分析の結果、第1面の西側においてプラント・オパール分析によってイネ機動細胞珪酸体が、花粉分析によって水田雑草を含む分類群が確認され、水田稲作を行っていた可能性が考えられる。しかし、第1・2面ともに水田土壌か否かを判断する目安とされている5,000個/gを超えるイネ機動細胞珪酸体は検出されなかった。イネ機動細胞珪酸体がほとんど産出しない原因については、土壌の化学的的特性が影響していることや洪水の影響、稲作が行われていた期間が短かったことなど、いくつかの可能性が考えられる。

周辺の植生については、第1面と第2面に大きな相違は確認されなかった。第1面においては、自然流路が流れている場所とそうでない場所では花粉分析の結果に違いがみられ、自然流路が流れているN-1㉑とN-2㉑（表27）付近北側において特異的な花粉組成を示すことが指摘された。

2 木製品の樹種同定

木製品の器種毎の木材利用のあり方等を検討するため、同定を実施した。同定の結果、水制遺構SR1を構成する杭および横材では多様な広葉樹が利用されていた。杭材では、極めて堅硬なアカガシ亜属が比較的多くみられたが、杭にあまり向かない樹種もみられた。今回の結果は花粉分析の結果の植生復元とも一致し、遺跡周辺には落葉・常緑広葉樹の混交林が広がっていた可能性が高く、遺跡周辺の樹木が無造作に伐採され、利用されていたと考えられる。水制遺構SR2ではSR1同様に多様な広葉樹がみられた一方、杭では針葉樹のモミ属が3点みられた。また、火付け木と齧串ではヒノキが利用されていた。ヒノキは、着火性が高く、加工性が良いという材質をもつことから、その用途に沿って樹種を選択した可能性がある。

3 鉄滓成分分析

A地区から出土した鉄滓について鍛冶活動に伴うものかを特定するため、分析を実施した。鉱物組織の定性分析の結果、砂鉄製錬で多く含まれるチタンが検出されず、ウスタイトが多くみられることから、鍛冶に伴う鍛冶滓である可能性が高いことが判明した。A地区南側で大垣市が行った発掘調査で輪の羽口が出土しており、当遺跡周辺での鍛冶活動が想定される。

第2節 花粉分析とプラント・オパール分析

1 はじめに

北方京水遺跡における中世の水田跡から採取された土壌試料について、北方京水遺跡における水田耕作や遺跡周辺の古植生について検討する目的で花粉分析とプラント・オパール分析を行った。分析は森將志（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と方法

北方京水遺跡の土層はⅠ～Ⅴ層に区分されており、Ⅰ層は現代耕作土、Ⅱ層は旧耕作土、Ⅲ層は埋没水田層、Ⅳ層は洪水堆積層、Ⅴ層は埋没水田層と考えている(図85)。調査区の南側では埋没水田層に畦畔が認められるが、調査区の北側には明確な畦畔は認められない。分析試料は埋没水田層としたⅢ層とⅤ層から採取した計20点である。Ⅲ層とⅤ層はいずれも中世と考えている。試料一覧を表27に、採取位置を図86に、採取層準を写真10に示す。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

(1) 花粉分析

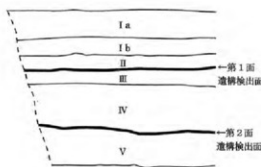
試料(湿重量約3~4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、4%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混液を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本(PLC.1187~1198)を作製し、写真を写真11に載せた。

(2) プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールピーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで写真を撮り、写真12に載せた。

表27 分析試料一覧

試料No.	地点	層位	土相
N-1①	N-1		灰色(10Y4/1)砂混じりシルト
N-2①	N-2		灰色(10Y4/1)砂混じりシルト
N-3①	N-3		オリーブ黒色(10Y3/2)粘土混じりシルト
N-4①	N-4		オリーブ黒色(5Y3/2)シルト
S-1①	S-1	Ⅲ層	灰色(7.5Y4/1)シルト
S-2①	S-2		灰オリーブ色(7.5Y4/2)シルト
S-3①	S-3		オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト
S-4①	S-4		灰オリーブ(5Y4/2)シルト
S-5①	S-5		オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト
S-6①	S-6		オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト
N-1②	N-1		灰色(7.5Y4/1)シルト
N-2②	N-2		オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト
N-3②	N-3		オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト
N-4②	N-4		オリーブ黒色(5Y3/2)シルト
S-1②	S-1	Ⅴ層	灰オリーブ色(7.5Y4/2)シルト
S-2②	S-2		灰オリーブ色(7.5Y4/2)シルト
S-3②	S-3		灰オリーブ色(7.5Y4/2)シルト
S-4②	S-4		灰オリーブ色(7.5Y4/2)シルト
S-5②	S-5		オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト
S-6②	S-6		オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト



Ⅰ層 現代耕作土
Ⅱ層 旧耕作土
Ⅲ層 埋没水田層(試料採取層)
Ⅳ層 洪水堆積層
Ⅴ層 埋没水田層(試料採取層)

図85 北方京水遺跡の土層模式図

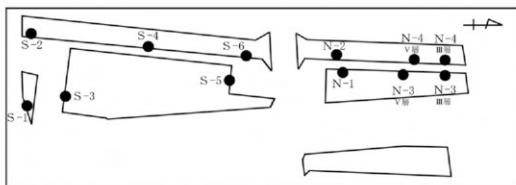
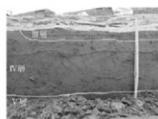
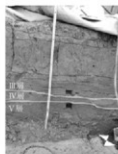


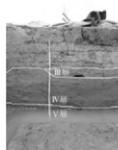
図86 試料採取位置



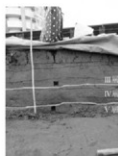
S-1



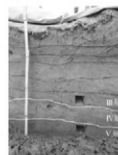
S-2



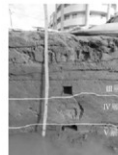
S-3



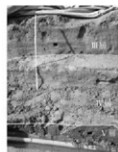
S-4



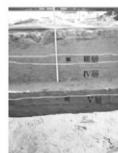
S-5



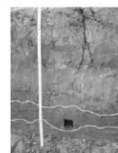
S-6



N-1



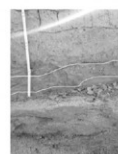
N-2



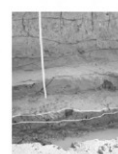
N-3 III層



N-3 V層

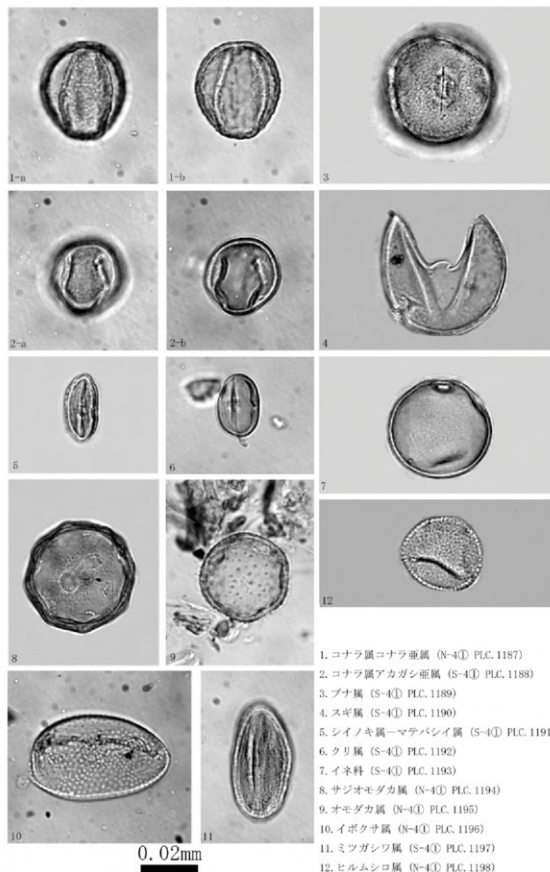


N-4 III層



N-4 V層

写真10 各地点の試料採取層準



1. コナラ属コナラ亜属 (N-4① PLC. 1187)
2. コナラ属アカガシ亜属 (S-4① PLC. 1188)
3. ブナ属 (S-4① PLC. 1189)
4. スギ属 (S-4① PLC. 1190)
5. シイノキ属-マテバシイ属 (S-4① PLC. 1191)
6. クリ属 (S-4① PLC. 1192)
7. イネ科 (S-4① PLC. 1193)
8. サジオモダカ属 (N-4① PLC. 1194)
9. オモダカ属 (N-4① PLC. 1195)
10. イボクサ属 (N-4① PLC. 1196)
11. ミツガシワ属 (S-4① PLC. 1197)
12. ヒルムシロ属 (N-4① PLC. 1198)

写真 11 北方京水遺跡から産出した花粉化石

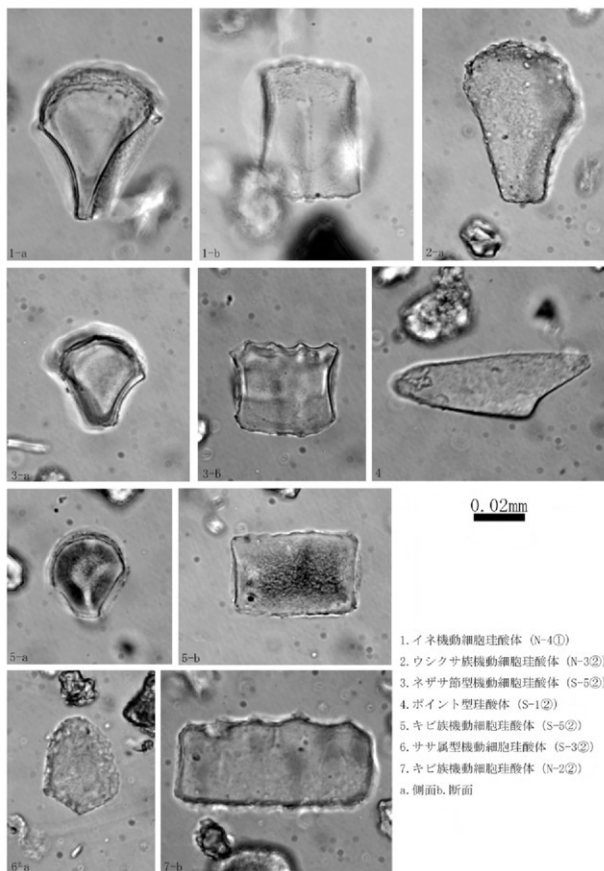


写真 12 北方京水遺跡から産出した植物珪酸体

3 結果

(1) 花粉分析

20 試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 40、草本花粉 29、形態分類のシダ植物胞子 2 の総計 71 である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表 29 に、分布図を図 87 に示した。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン (-) で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、Ⅲ層における花粉・胞子の平面的な分布状況を図 88～図 90 に、Ⅴ層における花粉・胞子の平面的な分布状況を図 91～図 93 に示した。

Ⅲ層とⅤ層の花粉組成を比べると顕著な相違は見られなかった。産出が目立つ樹木花粉はスギ属やハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ属、トチノキ属などが挙げられ、それぞれの産出率はスギ属が 5～29%、ハンノキ属が 1～10%、ブナ属が 5～20%、コナラ属コナラ亜属が 6～20%、コナラ属アカガシ亜属が 5～20%、クリ属が 3～11%、トチノキ属が 5～19% である。草本花粉では、イネ科とカヤツリグサ科の産出が目立ち、それぞれの産出率はイネ科が 2～28%、カヤツリグサ科が 1～37% である。その他では、水田雑草を含む分類群であるサジオモダカ属 (N-4 ①) やオモダカ属 (N-4 ①、S-1 ①、S-2 ①)、イボクサ属 (N-4 ①、S-6 ①)、ミズアオイ属 (S-2 ①)、キカシグサ属 (S-4 ①) がわずかながらⅢ層のみに産出している。

(2) プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1g 当りの各プラント・オパール個数を求めた。一覧表を表 28 に、分布図を図 94 に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料 1g 当りの検出個数である。

検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の 5 種類の機動細胞珪酸体が確認できた。イネ機動細胞珪酸体は N-4 ①から産出しており、1,400 個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体は 9 試料 (N-3 ①、S-1 ①、S-2 ①、N-1 ②、N-3 ②、S-3 ②～6 ②) から産出しており、1,300～2,600 個である。ササ属型機動細胞珪酸体は 14 試料 (N-3 ①、N-4 ①、S-1 ①、S-2 ①、S-5 ①、N-2 ④②、S-1 ⑥②) から産出しており、1,300

表 28 試料 1g 当たりのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	棒状珪酸体 (個/g)	ポイント型珪酸体 (個/g)
N-1①	0	0	0	0	0	0	0
N-2①	0	0	0	0	1,300	0	0
N-3①	0	1,300	1,300	0	1,300	0	0
N-4①	1,400	0	1,400	2,800	0	1,400	0
S-1①	0	1,400	1,400	0	0	0	0
S-2①	0	1,300	3,900	0	0	0	0
S-3①	0	0	0	0	0	0	0
S-4①	0	0	0	0	1,300	0	0
S-5①	0	0	4,000	0	0	0	0
S-6①	0	0	0	1,300	0	0	0
N-1②	0	1,300	0	1,300	0	0	0
N-2②	0	0	2,800	2,800	0	0	0
N-3②	0	1,400	1,400	0	1,400	0	0
N-4②	0	0	1,300	0	0	0	0
S-1②	0	0	1,400	0	0	0	1,400
S-2②	0	0	2,700	1,400	0	0	0
S-3②	0	1,400	1,400	1,400	0	0	0
S-4②	0	2,600	3,900	1,300	0	0	0
S-5②	0	1,400	14,200	1,400	1,400	0	0
S-6②	0	1,400	2,800	0	0	0	0

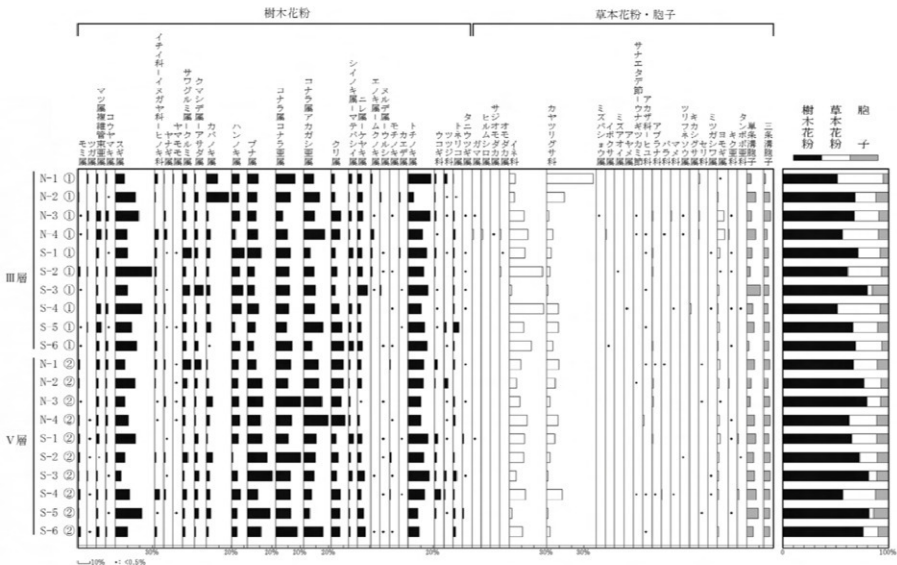


図87 北方河水道における花粉分布図

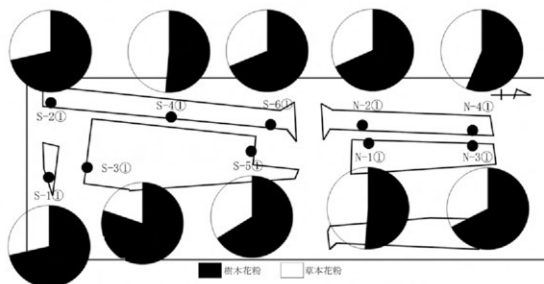


図88 Ⅲ層における樹木花粉と草本花粉・胞子の割合を示す分布図

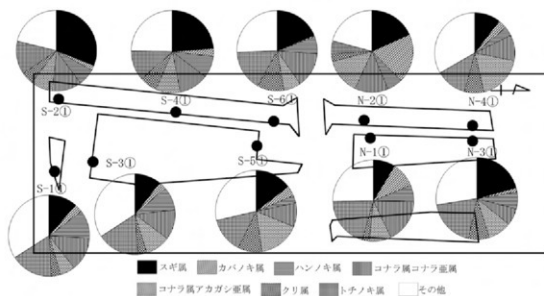


図89 Ⅲ層における主要樹木花粉の分布図

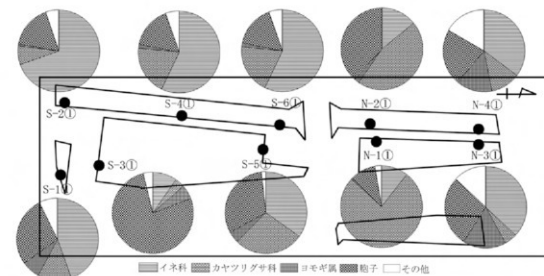


図90 Ⅲ層における主要草本花粉の分布図

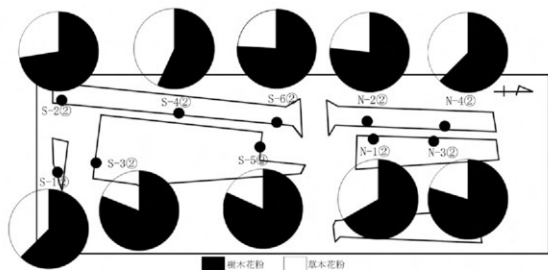


図91 V層における樹木花粉と草本花粉・胞子の割合を示す分布図

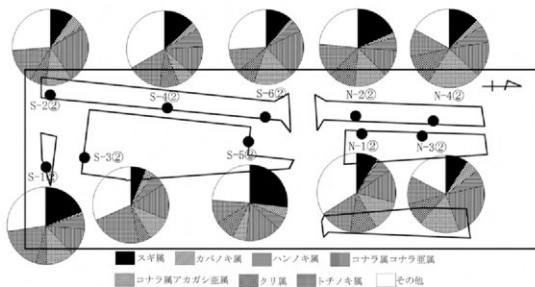


図92 V層における主要樹木花粉の分布図

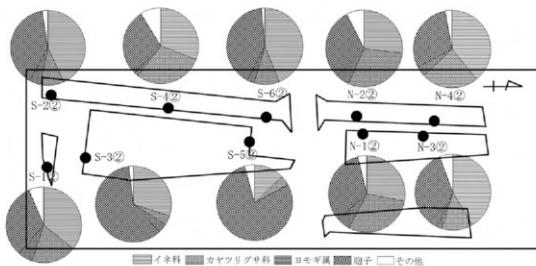


図93 V層における主要草本花粉の分布図

個～14,200個である。キビ族機動細胞珪酸体は8試料(N-4①、S-6①、N-1②、N-2②、S-2～5②)から産出しており1,300～2,800個である。ウシクサ族機動細胞珪酸体は5試料(N-2①、N-3①、S-4①、N-3②、S-5②)で産出しており、1,300～1,400個である。それ以外では、棒状珪酸体(N-4①)やポイント型珪酸体(S-1②)の産出が見られた。

4 水田跡の検証

水田層と考えているⅢ層とⅤ層でプラント・オパール分析を行ったが、N-4①においてイネ機動細胞珪酸体の産出が確認できた。また、N-4①の花粉分析結果では、水田雑草を含む分類群であるサジオモダカ属やオモダカ属、イボクサ属なども産出している。よって、N-4①において水田稲作を行っていた可能性があるとと思われる。さらに、水田雑草を含む分類群であるサジオモダカ属やオモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、キカシグサ属に注目すると、N-4①の他にはS-2①とS-4①、S-6①で産出しており(図87)、これらの試料はイネ科花粉の産出率も比較的高い(図90)。N-4①とS-2①、S-4①、S-6①はいずれもⅢ層であり、調査区西側に位置するため、Ⅲ層堆積時の調査区西側で水田稲作が行われていた可能性がある。

ところで、今回は水田層で試料採取を行ったのにも関わらず、プラント・オパール分析ではイネ機動細胞珪酸体がほとんど産出していない。唯一、イネ機動細胞珪酸体が産出したN-4①での産出量は試料1g当たり1,400個である。イネ機動細胞珪酸体については、試料1g当たり5,000個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田遺構の分布がよく対応する結果が得られており(藤原, 1984)、試料1g当たり5,000個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。N-4①のイネ機動細胞珪酸体の量は、この目安と比べても低い値である。イネ機動細胞珪酸体がほとんど産出しない原因についてはいくつかの可能性が考えられる。例えば、今回の分析試料では、機動細胞珪酸体が産出していない試料(N-1①、S-3①)もあり、イネ機動細胞珪酸体のみならず、その他の機動細胞珪酸体の産出量が総じて少ない点を考慮すると、遺跡周辺の土壌に含まれるケイ酸が少なかったため植物珪酸体が形成されにくかった、あるいは土壌のpHが高く、植物珪酸体が溶解してしまったなど、土壌の化学的的特性が影響している可能性が考えられるのではなからうか。または、洪水の影響も考えられるであろう。例えば、Ⅲ層ではイネ機動細胞珪酸体や水田雑草を含む花粉の産出が認められたが、Ⅴ層ではそれらが一切産出していない点を考慮する

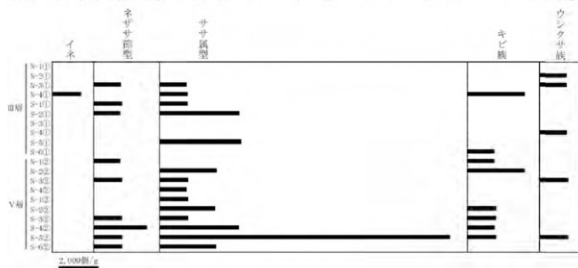


図94 北方京水遺跡における植物珪酸体分布図

と、V層を覆う洪水堆積層(IV層)によって、耕作土(V層)が削られたために水田稲作の痕跡が確認できなかった可能性が考えられる。その他にも、稲作が行われていた期間が短かった可能性や、土層の堆積速度が速かった可能性などがある。いずれにしろ、今回の花粉分析やプラント・オパール分析の結果から明確な水田の痕跡を捉えることは難しい。

5 古植生について

V層における地点間の樹木花粉と草本花粉の産出割合や、樹木花粉の組成を見ると、多少のばらつきがあるものの特異的な産出傾向は見られない(図92・図93)。このことは、V層の樹木花粉は局地的な植生を反映したものではなく、遺跡周辺の広範囲から飛来した花粉が均一に堆積した状況を示していると思われる。樹木花粉で産出の目立つ分類群はスギ属やハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ属、トチノキ属などがある。遺跡周辺のやや標高の高い場所にはブナ属が、その下部にはコナラ属コナラ亜属、クリ属などからなる落葉広葉樹林が広がっていたと思われる。プラント・オパール分析ではササ属型機動細胞珪酸体の産出が目立つが、ブナ属やコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹林の林床に生育していたササ属型のササ類(スズクなど)から供給されたものであろう。さらに標高の低い場所にはコナラ属アカガシ亜属を主体とし、シイノキ属-マテバシイ属を伴った照葉樹林が広がっていたと思われる。また、丘陵地にはスギ林も存在しており、低地にはハンノキ属を主体とした湿地林や、河川周辺にはトチノキ属を主体とした河畔林なども存在していたと思われる。V層の草本花粉では、地点間におけるばらつきが大きく、局地的な植生を反映している可能性がある(図93)。例えば、N-1②とN-2②、N-4②地点においてカヤツリグサ科の産出が多く、V層の時期には調査区の北側付近にカヤツリグサ科が多く生育していたと思われる。さらに、プラント・オパール分析ではV層においてネザサ節型やキビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体も産出している。ネザサ節型機動細胞珪酸体については、遺跡周辺の明るい場所に生育していたネザサ節型のササ類(ゴキクなど)から供給されたと思われる。キビ族については、栽培種や野生種があるが機動細胞珪酸体の形態で栽培種か野生種を見分けるのが難しい。いずれかのキビ族が遺跡周辺に生育していたと思われる。ウシクサ族機動細胞珪酸体については、湿地的環境に生育する種や乾燥的環境に生育する種があるが、いずれかのウシクサ族が遺跡周辺に生育していたであろう。

III層の時期においても、基本的にはV層の時期の植生とは相違はなかったと思われるが、地点間の樹木花粉と草本花粉の産出割合のばらつきが大きくなり、草本類の産出が目立ってくる(図88)。上述したように、III層では調査区の西側付近で水田稲作が行われていた可能性があるため、水田稲作に伴うイネ科花粉の増加などが影響しているのであろう。また、N-1①とN-2①では樹木花粉でカバノキ属が、草本花粉でカヤツリグサ科が多く産出しているため(図89・図90)、N-1①とN-2①付近にカバノキ属やカヤツリグサ科が局地的に生育していた可能性がある。ちなみに、N-1とN-2より北側では畦畔が見られなくなり、この付近を境に土地利用が異なる。カバノキ属やカヤツリグサ科の多産と土地利用との関係は不明であるが、土地利用が異なる地点において特異的な花粉組成を示す点を指摘しておく。さらに、N-3①とN-4①ではヨモギ属の産出が多く(図90)、畦畔が見られない地点では、ヨモギ属が分布を広げていたと思われる。

引用文献

藤原宏志(1984) プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—、考古学ジャーナル, 227, 2-7.

第3節 木製品の樹種同定

1 はじめに

北方京水遺跡で出土した水制遺構の構造材などの木製品について、樹種同定を行なった。分析は、齋串を植村明男（株式会社文化財サービス）、それ以外の木製品を小林克也（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と方法

試料は、土坑であるSD37から1点、SN59東畦畔の水田畦畔内から1点、水制遺構であるSR1から41点、同じく水制遺構であるSR2から15点の、計58点の出土木材である。いずれの遺構も鎌倉時代の遺構と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3 結果

同定の結果、針葉樹のモミ属とヒノキの2分類群と、広葉樹のヤナギ属とクリ、スダジイ、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属と呼ぶ）、エノキ属、ケヤキ、シキミ、サカキ、ヒサカキ、モモ、キハダ、カエデ属、ムクロジ、カキノキ属、エゴノキ属、トネリコ属シオジ節（以下シオジ節と呼ぶ）の17分類群の、計19分類群が産出した。他に、種不明の広葉樹と、草本類と考えられる双子葉植物がみられた。

アカガシ亜属とシキミが7点、エノキ属が6点、スダジイが4点、モミ属とヒノキ、ヤナギ属、クリ、モモ、カエデ属、シオジ節が各3点、ケヤキと広葉樹、双子葉植物が各2点、ブナ属とサカキ、ヒサカキ、キハダ、ムクロジ、カキノキ属、エゴノキ属が各1点であった。同定結果を表30に、一覧を表31に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、写真13～写真16に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1)モミ属 *Abies* マツ科 写真13 1a-1e(No.56)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、1～5細胞高となる。分野壁孔は小型のスピ型で、1分野に2～4個みられる。また、放射組織の末端壁は、数珠状に肥厚する。

モミ属には高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミ、低標高域に分布するモミなどがあり、いずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易、割裂性も大きくて、保存性に優れる。

(2)ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真13 2a-2c(No.52)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ1～15列となる。分野壁孔はトウヒヒノキ型で、1分野に2個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(3)ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 写真13 3a-3c(No.6)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、道管放

放射組織間壁孔は円形の単壁孔状となる。放射組織は上下端1〜3列が直立する異性で、単列となる。

ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギなどがあり、水湿に富んだ日当たりのよい土地を好む落葉大高木〜灌木の広葉樹である。材は軽軟で強度が強く、切削加工などは容易である。

(4) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 写真13 4a-4c (No. 24)

年輪のはじめに大型の道管が1〜3列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は単列で同性となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(5) スダジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky ブナ科 写真13 5a-5c (No. 13)

年輪のはじめに大型の道管が漸続的に並び、晩材部では径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列となる。

スダジイは暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。重さと強さは中庸で、やや耐朽性があるが、切削加工は困難でない。

(6) ブナ属 *Fagus* ブナ科 写真13・写真14 6a-6c (No. 49)

小型の道管が単独ないし2〜3個複合して密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1〜10列となる。

ブナ属にはブナとイヌブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は、重硬で強度があるが、切削加工は困難でない。

(7) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真14 7a-7c (No. 21)、8a (No. 35)、9a (No. 45)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のもと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬、強靱で耐水性があり、切削加工は困難である。

(8) エノキ属 *Celtis* ニレ科 写真14 10a-10c (No. 23)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1〜3列が方形となる異性で、幅1〜5列となる。放射組織には韌細胞がみられる。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬い。まとまって生育することはない、現在では薪炭材などに利用される程度である。

(9) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 写真14 11a-11c (No. 18)

年輪のはじめに大型の道管が1列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し、接線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚が

みられる。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～6列となる。放射組織の上下端には、菱形の結晶がみられる。

ケヤキは、温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難ではない。

(10) シキミ *Illicium anisatum* L. シキミ科 写真14・写真15 12a-12c(No.31), 13a-13c(No.33)

小型の角張った道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は40段以上の階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～4列が直立する異性で、幅1～3列となる。

シキミは宮城県、石川県以西の本州、四国、九州などに分布する、常緑小～中高木の広葉樹である。材の強度は中庸で、加工性も中庸である。

(11) サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科 写真15 14a-14c(No.22)

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は、20～30段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端2～4列が直立する異性で、幅1～2列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強靱、堅硬で、切削加工は困難である。

(12) ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. ツバキ科 写真15 15a-15c(No.15)

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は、40段以上の階段穿孔を有する。放射組織は上下端5列以上が直立する異性で、幅1～4列となる。

ヒサカキは岩手県・秋田県以南の本州、四国、九州に分布する、常緑小高木の広葉樹である。材は強靱、堅硬で、切削加工は困難である。

(13) モモ *Prunus persica* (L.) Batsch バラ科 写真15 16a-16c(No.4)

年輪のはじめに中型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が単独ないし2～3個複合してやや密に散在する半環孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は平伏、方形、直立細胞が混在する異性で、幅1～5列となる。

モモの原産地は中国北部で、平安時代には果実を食用や薬用として利用するために日本列島でも栽培されていた樹木である。材は重硬で、切削加工等は困難である。

(14) キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 写真15 17a-17c(No.50)

大型の道管が年輪のはじめに1～3列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合して接線または斜線状に配列する環孔材である。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅1～4列となる。

キハダは国内各地の河川など水湿の多い所に多く分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや軽軟で比較的水湿に強く、切削加工等は容易である。

(15) カエデ属 *Acer* カエデ科 写真15・写真16 18a-18c(No.2)

中型の道管が単独ないし2～3個複合して疎らに散在する散孔材である。木部繊維の壁の厚さの違いで雲紋状の文様が木口面にみられる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅1～6列となる。

カエデ属にはイタヤカエデやウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられ

る落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

(16) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 写真 16 19a-19c (No. 9)

年輪の始めにやや大型の道管が1~2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が複数複合して配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状、連合翼状~帯状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅1~4列となる。

ムクロジは関東、新潟県、富山県境以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木の広葉樹である。材は中庸ないしやや重硬である。

(17) カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 写真 16 20a-20c (No. 25)

中型で厚壁の道管が単独ないし2~3個複合し、疎らに散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1~3列が直立する異性で、幅1~3列となる。また、放射組織は層状に配列する。

カキノキ属には栽培種のカキノキや野生種のトキワガキなどがあり、日本に自生するトキワガキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑の小高木~高木の広葉樹である。材はやや重硬で韌性がある。

(18) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 写真 16 21a-21c (No. 34)

小型の道管が単独ないし2~4個放射方向に複合してやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は晩材部で線状となる。道管は10~20程度程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1~4列が直立となる異性で、幅1~4列となる。

エゴノキ属は温帯から亜熱帯の低山地、原野に分布する落葉小高木の広葉樹である。材はやや重くて韌性があるが、切削加工などは容易である。

(19) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinuster* モクセイ科 写真 16 22a-22c (No. 44)

年輪のはじめに大型の道管が1~2列並び、晩材部では急に径を減じた厚壁の道管が1~3個複合し、疎らに散在する環孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1~2列となる。

表 30 北方京水道跡出土木材の樹種同定結果

樹種	出土遺構		SN59東畔群	SR1			SR2		合計
	器種	火付け木		杭	横材	敷藁・藁	畜串	杭	
モミ属							3		3
ヒノキ		1	1						3
ヤナギ属				2				1	3
クリ				3					3
スダジイ				3			1		4
ブナ属							1		1
コナラ属アカガシ亜属				5	1		1		7
エノキ属				2			4		6
ケヤキ				2					2
シキミ				5	2				7
サカキ				1					1
ヒサカキ				1					1
モモ				3					3
キハダ							1		1
カエデ属				1	1		1		3
ムクロジ					1				1
カキノキ属				1					1
エゴノキ属				1					1
トネリコ属シオジ節					1			2	3
広葉樹							2		2
双子葉植物							2		2
合計		1	1	30	6	4	1	14	58

表31 北方京水遺跡出土木材の樹種同定結果一覧

No.	取上番号	出土遺構	器種	樹種	木取り	備考
1	0892	SR1	番串	ヒノキ	道証目	
2	0872	SR1	敷蓋	双子葉植物	丸	水制遺構構造材
3	0890	SR1	杭	カエデ属	芯持丸木	水制遺構構造材
4	0876	SR1	杭	モモ	半割り	水制遺構構造材
5	0878	SR1	杭	モモ	芯持丸木	水制遺構構造材
6	0881	SR1	杭	ヤナギ属	芯持丸木	水制遺構構造材
7	0891	SR1	杭	ヤナギ属	芯持丸木	水制遺構構造材
8	0871	SR1	敷蓋	双子葉植物	丸	水制遺構構造材
9	0880	SR1	敷蓋	広葉樹	丸	水制遺構構造材
10	0883	SR1	横材	ムクロジ	芯持丸木	水制遺構構造材
11	0887	SR1	杭	スタジイ	芯持丸木	水制遺構構造材
12	0942	SR1	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	水制遺構構造材
13	0947	SR1	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	水制遺構構造材
14	0950	SR1	杭	スタジイ	芯持丸木	水制遺構構造材
15	0955	SR1	横材	カエデ属	半割り	水制遺構構造材
16	0958	SR1	杭	ヒサカキ	芯持丸木	水制遺構構造材
17	0870	SR1	敷蓋	広葉樹	割り裂き	水制遺構構造材
18	0821	SR1	杭	ケヤキ	芯持丸木	水制遺構構造材
19	0964	SR1	杭	ケヤキ	芯持丸木	水制遺構構造材
20	0957	SR1	横材	トネリコ属	みかん割り	水制遺構構造材
21	0888	SR1	横材	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	水制遺構構造材
22	0935	SR1	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	水制遺構構造材
23	0936	SR1	杭	サカキ	芯持丸木	水制遺構構造材
24	0944	SR1	杭	エノキ属	みかん割り	水制遺構構造材
25	0945	SR1	杭	クリ	芯持丸木	水制遺構構造材
26	0946	SR1	杭	カキノキ属	芯持丸木	水制遺構構造材
27	0951	SR1	杭	シキミ	芯持丸木	水制遺構構造材
28	0882	SR1	横材	シキミ	芯持丸木	水制遺構構造材
29	0948	SR1	杭	モモ	半割り	水制遺構構造材
30	0949	SR1	杭	スタジイ	芯持丸木	水制遺構構造材
31	0952	SR1	杭	シキミ	芯持丸木	水制遺構構造材
32	0953	SR1	杭	シキミ	芯持丸木	水制遺構構造材
33	0954	SR1	杭	シキミ	芯持丸木	水制遺構構造材
34	0963	SR1	杭	シキミ	芯持丸木	水制遺構構造材
35	0937	SR1	杭	エゴノキ属	芯持丸木	水制遺構構造材
36	0938	SR1	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	水制遺構構造材
37	0939	SR1	杭	クリ	芯持丸木	水制遺構構造材
38	0940	SR1	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	水制遺構構造材
39	0941	SR1	杭	クリ	芯持丸木	水制遺構構造材
40	0943	SR1	杭	エノキ属	芯持丸木	水制遺構構造材
41	0956	SR1	横材(杭転用)	シキミ	芯持丸木	水制遺構構造材
42	0894	SR2	杭	トネリコ属シオジ節	道証目	水制遺構構造材
43	0897	SR2	杭	スタジイ	芯持丸木	水制遺構構造材
44	0867	SR2	杭	エノキ属	芯持丸木	水制遺構構造材
45	0877	SR2	杭	トネリコ属シオジ節	芯持丸木	水制遺構構造材
46	0895	SR2	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	水制遺構構造材
47	0896	SR2	杭	エノキ属	芯持丸木	水制遺構構造材
48	0884	SR2	横材	ヤナギ属	半割り	水制遺構構造材
49	0885	SR2	杭	カエデ属	芯持丸木	水制遺構構造材
50	0886	SR2	杭	ブナ属	芯持丸木	水制遺構構造材
51	0898	SR2	杭	キハダ	板目	水制遺構構造材
52	0899	SR2	杭	エノキ属	芯持丸木	水制遺構構造材
53	0934	SR2	杭	モミ属	芯持丸木	水制遺構構造材
54	0932	SR2	杭	エノキ属	芯持丸木	水制遺構構造材
55	0933	SR2	杭	モミ属	芯持丸木	水制遺構構造材
56	0962	SR2	杭	モミ属	芯持丸木	水制遺構構造材
57	0395	SD37	火付け木	ヒノキ	板目	
58	0921	SN59東畔群	杭	ヒノキ	板目	水田畔内出土

トネリコ属シオジ節にはシオジとヤチダモがあり、現在の植生ではシオジは関東以西の温帯に分布し、ヤチダモは中部以西の亜寒帯から温帯の、河岸や湿地などの肥沃な湿潤地に分布する落葉高木の広葉樹である。材の性質は、シオジとヤチダモともに中庸ないしやや重硬で、乾燥は比較的容易、切削加工等は容易である。

(20) 広葉樹 Broadleaf-wood 写真16 23a(No.16)

小型の道管がほぼ単独で散在するが、年輪界がみられないため道管の配列が確認できず、広葉樹までの同定に留めた。

(21) 双子葉植物 Dicotyledoneae 写真16 24a(No.7)

向軸側の木部、背軸側の篩部で構成される維管束が等間隔で環状に並ぶ、草本の双子葉植物の茎である。維管束の配列は真正中心柱となる。草本の双子葉植物は対照標本が少なく、同定までには至っていない。

4 考察

SD37 で出土した火付け木はヒノキであった。針葉樹は広葉樹と比較して着火性が高いため、ヒノキを火付け木として利用していたと考えられる。

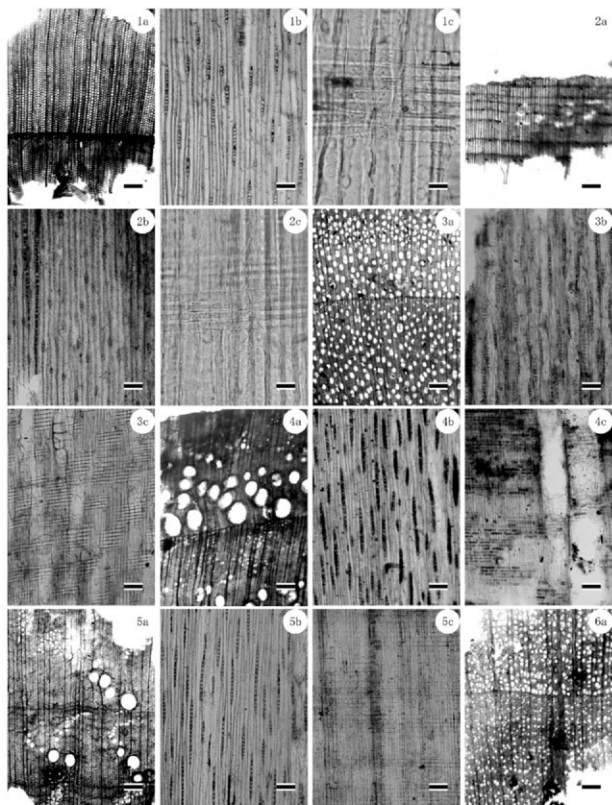
SN59 東畦畔から出土した杭もヒノキであった。ヒノキは加工性が良いほかに、木理通直で真っ直ぐに生育するという材質を持つため（伊東ほか，2011）杭材として利用されていたと思われる。

SR1 から出土した斎車もヒノキであった。ヒノキは割裂性・耐水性が高く、加工が容易であることから、加工性や耐水性を考慮した木材利用が推定される。同じく SR1 で出土した杭および横材では、多様な広葉樹がみられた。杭材では、極めて堅硬なアカガシ亜属が比較的多くみられたが、軽軟で耐朽性が弱いヤナギ属など、杭にはあまり向かない樹種もみられた。また SR1 では、ヤナギ属やキハダ、シオジ節といった、水湿を好んで生育する樹種に、遺跡周辺の平地～丘陵下部に生育が可能な落葉広葉樹と常緑広葉樹がみられた。花粉分析の結果でも同様の傾向を示しており（花粉分析の項参照）、遺跡周辺には落葉・常緑広葉樹の混交林が広がっていた可能性が高く、SR1 出土の材は遺跡周辺の樹木が無作為に伐採され、利用されていたと考えられる。また、SR1 では、栽培植物であるモモと、栽培植物のカキノキを含むカキノキ属がみられた。カキノキ属には野生種であるトキワガキも含まれるため、栽培については深く言及できないが、モモの原産地は中国北部で日本国内には自生していないため、遺跡周辺でモモが栽培されていたと考えられる。SR1 の敷藁および藁は、いずれも面的に敷かれた状態で出土しており、小枝状の広葉樹と双子葉植物であった。

水制遺構である SR2 でも多様な広葉樹がみられた一方、杭では針葉樹のモミ属が3点みられた。モミ属は加工性が良く、木理通直で真っ直ぐに生育する、丘陵のやや標高の高い場所に生育する樹種である。また、広葉樹のブナ属もモミ属と同様に丘陵中～上部に見られる樹種である。その他にも SR2 ではヤナギ属やキハダ、シオジ節といった水湿性の樹種、スダジイやカエデ属といった落葉・常緑広葉樹がみられた。SR2 には、湿地および平地～丘陵下部の樹木の他に、丘陵中～上部の樹木も利用されていた可能性が高い。

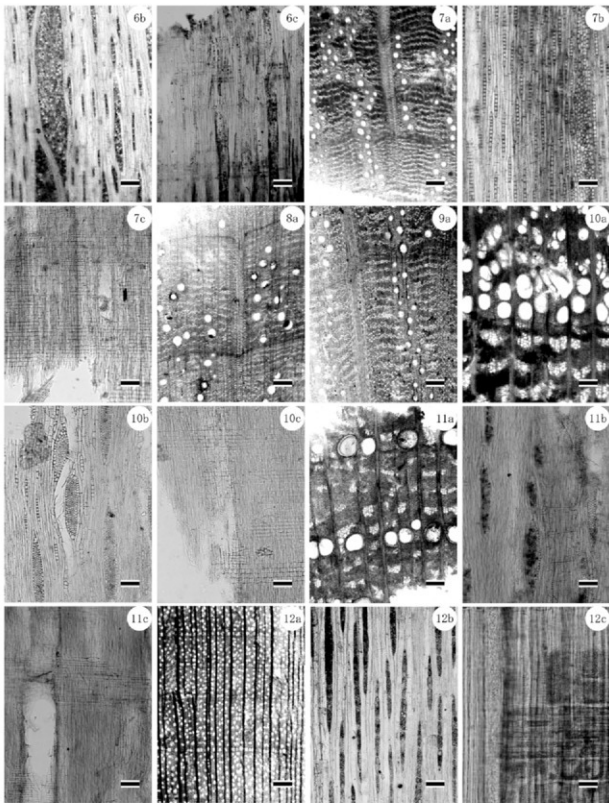
参考文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社。



1a-1c. モミ属 (No. 52), 2a-2c. ヒノキ (No. 56), 3a-3c. ヤナギ属 (No. 6), 4a-4c. クリ (No. 24), 5a-5c. スダジイ (No. 25)
 a: 横断面 (スケール=250 μm), b: 接線断面 (スケール=100 μm), c: 放射断面 (スケール=1-2:25 μm ・3-5:100 μm)

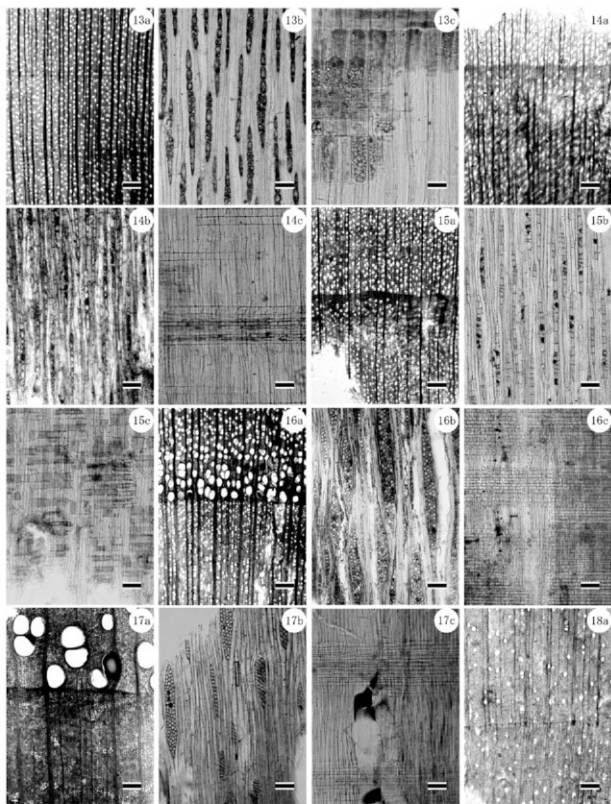
写真 13 北方京水遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 (1)



6b-6c. ブナ属 (No. 49), 7a-7c. コナラ属アカガシ亜属 (No. 21), 8a. コナラ属アカガシ亜属 (No. 35) 9a. コナラ属
アカガシ亜属 (No. 45), 10a-10c. エノキ属 (No. 23), 11a-11c. ケヤキ (No. 18), 12a-12c. シキミ (No. 31)

a: 横断面 (スケール=250 μm), b: 接線断面 (スケール=100 μm), c: 放射断面 (スケール=6-11:100 μm ・12:50 μm)

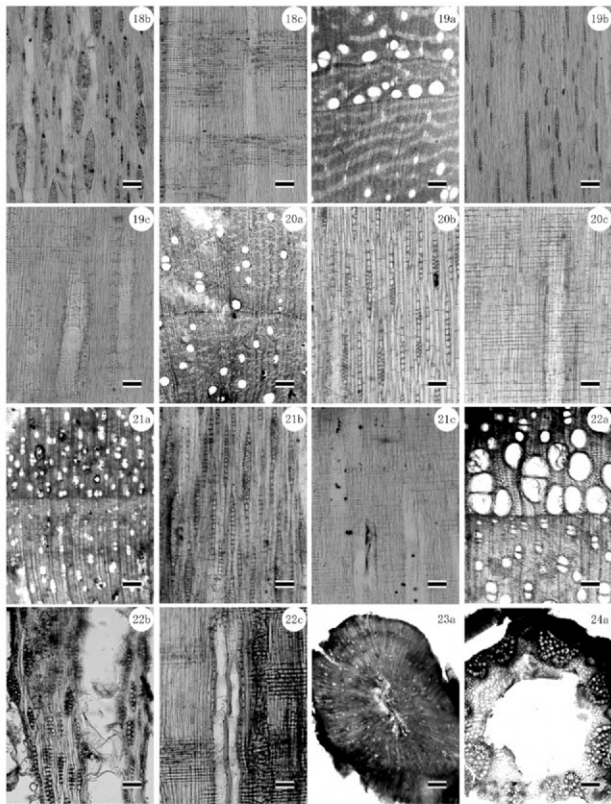
写真 14 北方京水遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 (2)



13a-13c. シキミ (No. 33), 14a-14c. サカキ (No. 22), 15a-15c. ヒサカキ (No. 15), 16a-16c. モモ (No. 4), 17a-17c. キハダ (No. 50), 18a. カエデ属 (No. 2)

a: 横断面 (スケール=250 μm), b: 接線断面 (スケール=100 μm), c: 放射断面 (スケール=14-17:100 μm ・13:50 μm)

写真 15 北方京水遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 (3)



18b-18c. カエデ属 (No. 2), 19a-19c. ムクロジ (No. 9), 20a-20c. カキノキ属 (No. 25), 21a-21c. エゴノキ属 (No. 34), 22a-22c. トネリコ属シオジ節 (No. 44), 23a. 広葉樹 (No. 16), 24a. 双子葉植物 (No. 7)
 a: 横断面 (スケール=250 μm), b: 接線断面 (スケール=100 μm), c: 放射断面 (スケール=100 μm)

写真 16 北方京水遺跡出土木材の光学顕微鏡写真 (4)

第4節 鉄滓成分分析

1 はじめに

北方京水遺跡A地区から出土した鉄滓について、走査型電子顕微鏡観察およびX線分析を行った。分析は、竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と方法

分析対象は、中世の遺構SK43より出土した鉄滓1点である（表32、写真17-1）。磁着が認められ、観察・測定面は比較的磁着の強い箇所を選んだ。写真17-1に採取部位を示す。

表 32 分析対象

取上 番号	出土 遺構	種別	寸法(cm)			重量 (g)
			長さ	幅	厚さ	
219	SK43	鉄滓	4.5	3.0	1.5	27.5

各試料の断面プレパラートを作製し、観察、分析を行った。プレパラートの作製には、包埋樹脂に注型用高透明エポキシ樹脂を使用し、試料の一部を岩石カッターで切り取った後包埋した。包埋試料は、ディスプレイで研磨した後、コランダム の#3000、ダイヤモンド粒子の1 μ mの順で研磨し、観察、分析面とした。試料は、採取断面について蛍光X線分析（エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製 SEA1200VX、照射径1mm：以後XRF分析）を行い、採取部位の化学組成を調べた。走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製 JSM-5900LV、以後SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置（同JED-2200、以後EDS）による鉱物組織の定性分析を行った。

3 分析結果および考察

XRF分析による半定量値を表33に酸化物の形で示す。また、SEM反射電子像を写真17-2・3に、SEM反射電子像（ $\times 400$ ）に示したa～cのポイントのEDSによるスペクトルを図95-1～3に、検出元素を表34に示す。

XRF分析では、鉄が70%近い高い割合で検出された。SEM反射電子像では、写真17-2～3のような結晶組織が観察された。金属鉄は確認されなかった。EDS分析結果と併せると、明色の樹枝状ないし粒状組織（写真17-3のa）では鉄（Fe）と酸素（O）が主に検出され、ウスタイト（FeO）とみられる。中間色木ずれ状組織（同写真b）では鉄とケイ素（Si）と酸素が検出され、ファイヤライト（2FeO \cdot SiO₂）とみられる。これらが、基質となる暗色ガラス質（同写真c）上に晶出している。

一般に砂鉄製錬の場合、原料中にチタンが多く含まれており、さらにその製錬時にはチタンが濃縮され、チタンを含む結晶鉱物が晶出する。今回の鉄滓の鉱物組織の定性分析結果では、チタンが検出されず、またウスタイトが多くみられるため、鍛冶に伴う鍛冶滓である可能性が高いと考えられる。

表 33 蛍光X線分析による半定量値（wt%）

MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	SrO	ZrO ₂
0.64	7.18	19.55	0.62	0.25	1.00	0.79	0.14	0.04	69.76	0.01	0.01

表 34 EDS分析結果

ポイント	検出元素	所見
a	0, (Si), Fe	ウスタイト
b	0, Si, Fe	ファイヤライト
c	0, Al, Si, K, Ca, Fe	鍛冶滓 ガラス質

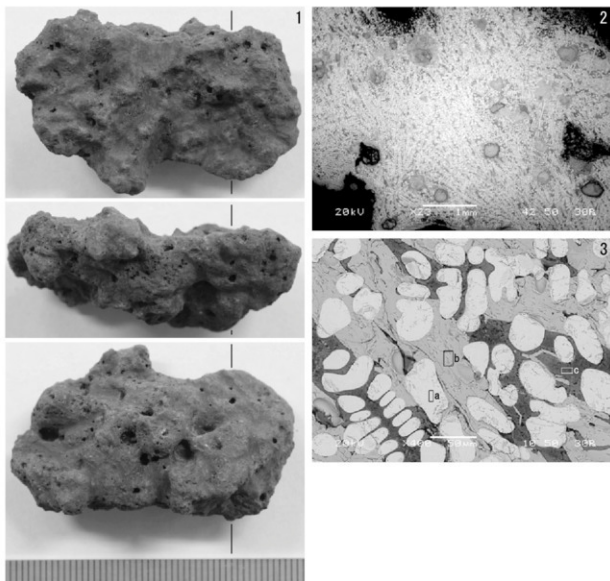


写真17 採取部位 (1) とSEM反射電子像 (2・3)

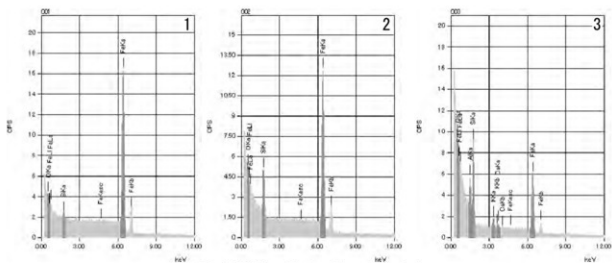


図95 EDS分析スペクトル (1:a、2:b、3:c)

第5章 総括

第1節 遺物・遺構から見る遺跡のまとめ

1 遺物から

主な出土遺物は、灰軸陶器、中世土師器、山茶碗、中近世陶磁器類である。特に、山茶碗が45.5%と遺物全体の半数近くを占める(表4)。

灰軸陶器は、美濃窯産の大原2号窯式から丸石2号窯式併行期(10世紀代)のものが比較的多くみられるが、この時期の遺構は確認されていない。中世土師器はロクロ土師器皿、土師器皿、伊勢型鍋がある。土師器皿の割合が多いが、多くが表土からの出土である。山茶碗は尾張型山茶碗第5型式(12世紀後半から13世紀前半)のものがほとんどで、第4型式と第6型式のものが少数ある。第3型式のものも見られるが、ごく少数である。中近世陶磁器類は、古瀬戸・大窯が少数みられ、ほとんどが登窯(17世紀以降)であるが、現代水路からの出土である。中国製陶磁器も確認されている。

山茶碗の中には、内面や外面が黒化しているものが確認された。若干黒く感じるものだけでなく、煤などが付着して著しく黒くなったものも存在する。口縁部が欠けた部分にも煤などの付着が認められる。観察の結果、内外面が黒化した山茶碗は38点を数えた(表35)。黒化した部位は、口縁部11点、体部13点、底部14点で、部位による差は見られなかった。一方、黒化した面は、内面のみが24点、外面のみが2点、内・外面が5点、内・割面が2点、外・割面が1点、内・外・割面が4点と、内面が黒化したものが他のものと比べて多い傾向が見られた。大垣市教育委員会による北方京水遺跡の調査(以下、大垣市調査とする)や、当センターによる興福地遺跡の調査でも、同様の山茶碗が確認されている。興福地遺跡の調査では、内外面が黒い山茶碗は井戸や溝から出土しており、祭祀行為の際に意図的に黒くした器を使用していることが示唆されている。当遺跡でも、同様の祭祀行為が行われていた可能性があるが、類例の増加を待って検討したい。

大垣市調査では、出土遺物について計測を行い、土器組成の検討を行っている(図96)。計測方法は破片数計測法(接合前)で、山茶碗、ロクロ土師器の碗皿類と非ロクロの土師器皿の(かわらけ)をあわせた土師器供膳具、清郷型甕や伊勢型鍋などの土師器煮炊具、鉢類(調理具)、甕(貯蔵具)、輸入磁器に分類している。そこで、今回の調査における出土遺物についても、同様の方法で計測を行い、土器組成の検討を試みた(図96)。総破片数は1,809点で、調査面積は2,650㎡である。土器組成は、山茶碗が82.6%、土師器供膳具11.5%、輸入磁器0.6%、土師器煮炊具2.8%、鉢2.2%、甕0.3%であった。大垣市調査と比較的似た傾向が見られたが、山茶碗と土師器供膳具の割合に違いが見られた。今回の調査における土器組成は、どちらかというと比較であげた曾根八千町遺跡の土器組成に近いといえる。その理由であるが、今回の発掘区が中世集落域の周縁部にあたることを考えると、時代の差というよりは場所の差があげられるのではないだろうか。土器組成において、土師器皿が高い割合をしめる遺跡は、経済的に裕福な居住者が存在していた可能性があることが指摘されている。これらのことから、大垣市調査の発掘区が、北方京水遺跡における集落の中心部に近く、同じ遺跡の中でも土師器皿の割合が高くなっていると考えられる。

A地区から出土した遺物のうち、山茶碗と灰軸陶器、土師器皿について、グリッドごとの出土遺物点数

を集計し、その多寡について4段階に色分けして図示し(図97~図99)、出土点数については表37~表39に載せた。色分けの仕方であるが、母数が多い山茶碗は、点数が少ないものから0点~9点、10点~19点、20点~50点、51点以上とし、母数が少ない灰陶陶器と土師器皿は、点数が少ないものから0点、1点~5点、6点~10点、11点以上とした。出土点数が多いものほど、色が濃くなっている。なお、計測方法は破片数計測法(接合前)である。遺構から出土した遺物については、グリッドごとに明確に区分することができないため、グリッドをX軸方向に分割し、より広い面積を含む列のものとして出土点数を集計した。どの種別も、北部に比べて南部の出土点数が多い傾向が見られ、共通して多かったのがQ9グリッドであった。ここでは総出土点数が多い山茶碗の分布に焦点を当てて、検討してみたい。山茶碗の出土分布では、Q9~R9グリッドからの出土が多いことが分かる。X軸の列ごとの出土点数を見ても、Q列とR列が多い傾向が見られる。注目したいのが、O8~P9グリッドの各出土点数よりも、N8・N9グリッドの各出土点数の方が多い点である。やはりX軸の列ごとに見ても、O列やP列よりもN列の方が多いという同様の傾向が見られる。O8~P9グリッドの各出土点数が少ないと見るか、N8・N9グリッドの各出土点数が多いと見るかは難しいところではあるが、ほぼ同面積のQ9グリッドの出土点数が158点であるのに

表35 山茶碗煤付着状況

	内面のみ	外面のみ	内・外面	内・割面	外・割面	内・外・割面	合計
口縁部	5	1	3	0	0	2	11
体部	9	1	1	2	0	0	13
底部	10	0	1	0	1	2	14
合計	24	2	5	2	1	4	38

表36 北方京水遺跡と曾根八千町遺跡の土器組成集計

	山茶碗	土師器 供膳具	輸入磁器	土師器 煮炊具	鉢	甕	その他	合計
北方京水遺跡 (センター調査)	1,494	208	11	51	39	6	0	1,809
北方京水遺跡 (大垣市調査)	2,018	979	37	112	32	55	31	3,264
曾根八千町遺跡 (大垣市調査)	1,507	198	19	67	11	24	55	1,881

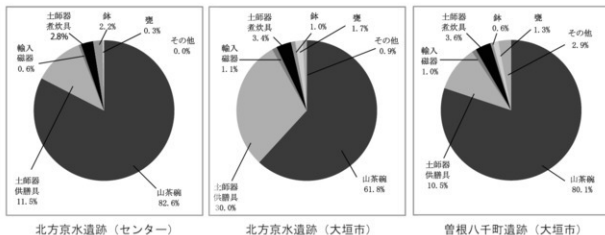


図96 北方京水遺跡と曾根八千町遺跡の土器組成

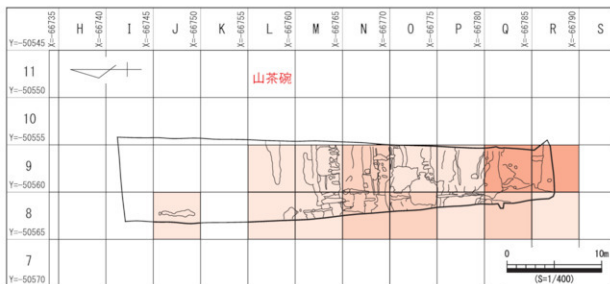


図97 A地区山茶碗出土分布図

表37 A地区山茶碗出土点数集計

	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
10	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
9	0	3	7	15	17	43	16	13	158	175
8	5	18	6	14	13	27	23	18	20	11
列 遺構	5	21	14	29	30	120	49	41	323	328
合計	10	42	28	58	61	190	88	72	501	514

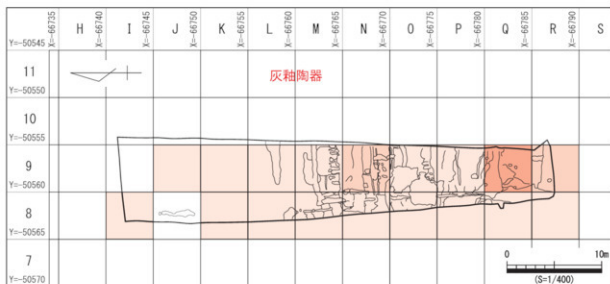


図98 A地区灰釉陶器出土分布図

表38 A地区灰釉陶器出土点数集計

	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	1	3	4	3	8	3	3	21	10
8	2	0	2	1	2	3	3	2	4	3
列 遺構	0	0	0	0	0	0	2	2	13	5
合計	2	1	5	5	5	11	8	7	38	18

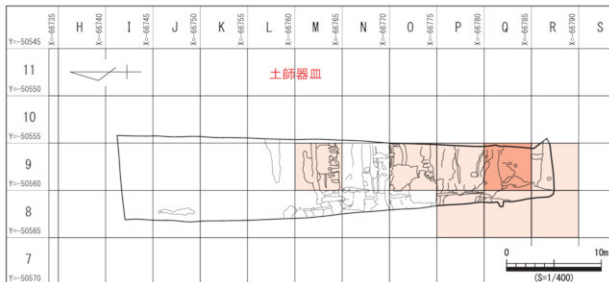


図99 A地区土師器皿出土分布図

表39 A地区土師器皿出土点数集計

	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	1	0	2	1	28	1
8	0	0	0	0	0	0	0	3	4	2
列 遺構	0	0	0	0	0	0	0	0	25	10
合計	0	0	0	0	1	0	2	4	57	13

対して、隣のP9グリッドの出土点数が13点であるというのは少なすぎるのではないかと考える。そう考えると、O8～P9グリッドには出土点数が少なくなる何らかの理由があったと思われる。その何かは判然としないが、可能性として考えられるのが、B地区第1面のSM1との関連である。東西方向のSM1をA地区のある東側に延ばすと、ちょうどO8～P9グリッド上にあたる。SM1は、約5mの幅をもち、当時の道路としての機能をもっていたと考えられることから、O8～P9グリッドの遺物が少なくなるとは考えられないだろうか。

2 遺構から

今回の調査で検出した遺構は、12世紀末～13世紀のものである。A地区では、この時期の溝状遺構や土坑、柱穴などが確認され、B地区では第1面・第2面ともにほぼ全面に広がる水田遺構が確認された。B地区第1面の北側では、北西方向から流れる自然流路が確認され、それに伴うと考えられる2基の堰を検出した。

A地区では、多数の溝状遺構や土坑と4基の柱穴を検出した。時期は、12世紀後半から13世紀前半のものが大半を占める。これらの遺構は、切り合い関係から大きく3時期に分けることができそうだが、後世の攪乱を受け、遺構の残存状況がよくないため、はっきりと時期細分することができなかった。検出した遺構の多くが南部に位置しており、特にSD24・SD25よりも南側では遺構や遺物が多く確認された。溝の形状がS字状となる理由は不明であるが、他の溝状遺構と比べてSD24・SD25の壁が立ち上がっていることから、この溝状遺構を境にして南側が居住域、北側がその外と区画されていたのではないかと考えられる。また、SD24・SD25を西側に延ばすとB地区第1面の大畦畔の北側のSD39の位置とほぼ重なる。A地区の南

側では、平成15年に大垣市教育委員会が試掘・確認調査を行っている。調査の結果、溝状遺構や土坑、多数のピット群と様々な出土遺物が確認され、12世紀後半から13世紀にかけての集落跡であった可能性が高いと結論づけられている。今回の調査結果と合わせて考えると、A地区は中世の集落域の周縁部に当たり、特にSD24・SD25の南側では、遺構・遺物が多く確認されるといえる。

B地区では、第1面・第2面ともにほぼ全面に広がる中世の水田遺構を中心に、溝状遺構、土坑、木制遺構、自然流路を検出した。水田遺構については、第1面・第2面のどちらにおいても水田面を覆う洪水堆積層が確認された。第2面では、洪水によって一旦田面が砂層に覆われた後、さらに、田面を大きく破壊したことが確認された。当遺構では、この2面の水田遺構が機能していた期間にそれぞれ洪水によって土地が大きく抉られたり、田面が砂層に覆われたりする被害を受けていた。第1面及び第2面の水田遺構は、12世紀後半から13世紀前半に造られたものと考えられるが、この時期の水害の記録としては、1199年(元治元年)9月に起こった洪水があげられる¹⁾。

第1面と第2面の小区画水田の形状には違いが認められた。第2面の水田面は、SM4よりも北側では、標高8.1m程の土地が一段下がったところに水田が造られていた。また、SM4よりも南側では、北西(標高8.3m程)から南東(標高7.9m程)方向へゆるやかに傾斜する自然地形に合わせて水田が区画されているため、小畦畔も湾曲している。一方で、第1面の水田面はほぼ等間隔(約11m)に小畦畔を作り、条里地割に沿った小区画水田となっている。また、第1面の水田を区画する際には、土地が低かった発掘区南東部に盛土して、土地造成を行っていることも確認された(図9)。小区画水田の中央部標高を比較する(図100)と、第1面では、北東から南西にかけて土地が緩やかに傾斜しており、第2面とは異なる水田面の傾斜を造り出していると考えられる。このように、洪水後に第1面の水田を復旧させる際には、新たに生じた河道(NR1)を利用することと合わせ、条里地割に沿った大がかりな造成工事が行われたといえる。

当遺跡の中心的な時期と考えられる12世紀後半から13世紀前半は、地域の有力者による畷田開発が各地でさかんに行われた時代である。地域の有力者による畷田開発がさかんになるのは平安時代まで遡るが、それは国から許可を得たものではなく、その権利は危ういものであったとされる。しかし、12世紀以降、荘園公領制により荘園と公領が同等に扱われるようになり、荘園が国家に組み込まれていくようになると、地域の有力者が地元の宗教寺院と関係をもつことによって、国から土地を開発する許可を得るという新しい秩序ができあがっていく。当遺構で確認された第1面の水田遺構は、畦畔の向きを北にあわせた正方位条里地割水田であり、このような水田を開発するためには高度な測量技術が求められる。これらのことから考えると、当遺跡において大がかりな造成工事が行われた背景には、それを主導する有力者が存在したことが想定できる。さらに、その背後には地域の宗教寺院が関わっていた可能性も考えられる²⁾。

第1面の自然流路内では、自然流路に直交する方向で2基の堰が確認された。堰の盛土は「敷葉工法」で構築されており、土の間に藁敷(草敷)が挟まれていた。敷葉工法とは、丈夫な堤をつくる古代の土木技術で、県内では柿田遺跡と同様に敷葉工法によって構築された堰が確認されている。なお、SRIの盛土の基底部では畜舎が出土し、堰を構築する最初の段階で祭祀を行ったと考えられる。

当遺跡では、第1面・第2面合わせて5条の大畦畔と多数の小畦畔が確認されたが、特筆すべきはSM1・SM3・SM5の大畦畔である。第1面北側で確認された東西方向の大畦畔SM1は、幅は約5mで、すぐ北側にはSM1に沿ってSD39が認められる。第1面で確認されたSM3と第2面で確認されたSM5は唯一位置を変えない畦畔で、南西部で南北方向に検出したものである。特に第2面の畦畔については、幅広(約1m)で

あること、目印となる置き石が2箇所確認されたこと、上から溝状に掘った後に木材が埋められていたことから他の畦畔とは性格を異にするものであると考えられる。また、他の畦畔が地形に沿うのに対してSM5だけは真北を向くことから坪境の畦畔であると考えられる。

注

- 1) 大垣市2013『鎌倉時代の大井荘』『大垣市史 通史編 自然・原始～近世』
- 2) 宇野隆夫帝塚山大学教授のご教示による。

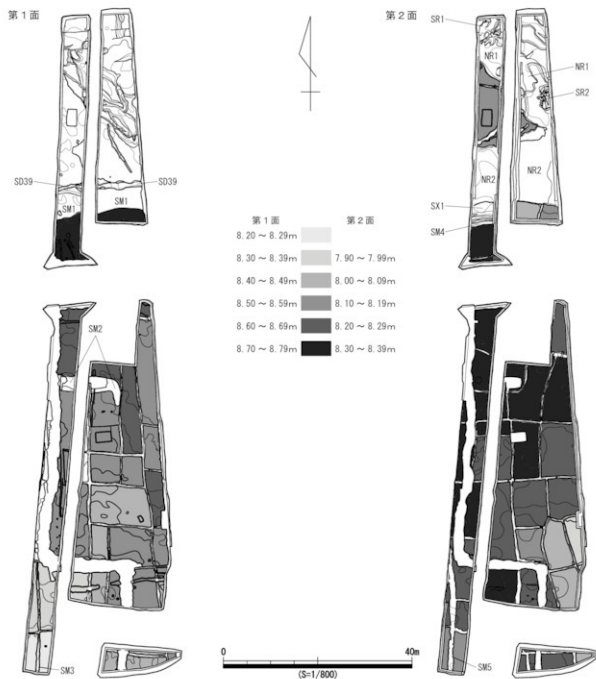


図100 第1面・第2面小区画水田標高分布図

第2節 遺跡周辺の条里地割¹⁾についての一考察

今回の調査では、B地区第1面において、東西方向のSM1と南北方向のSM3という2つの大畦畔を検出した。その規模や様相から、どちらも、他の畦畔とは性格を異にすると考えられるもので、坪境に位置する大畦畔と思われる。SM3については、B地区第2面の調査でも同位置にSM5が確認できたことから、従来から土地を区画する位置だったと言える。また、SM1とSM3に囲まれた範囲では、条里地割における1町方格の内部の様相がよく分かる。SM3から東へは、約11m（およそ119mの10分の1）の間隔で南北方向に2本の小畦畔が存在する（図12）ことから、1町方格の内部は長地型地割であったと推測される。また、SM3の東へ約55mの地点には、大垣市調査で検出されたSD01が存在する。大垣市調査が行われた位置は、調査で確認された集落跡（A地区）の南部であり、ともに集落跡と考えられることから、SD1は水田と集落を区画するための土地の境となる溝である可能性が考えられる。

北方京水遺跡を含む大垣市北東部は、安八郡条里に属する地域である。歴史地理学の成果によると、安八郡条里は、北は現在の神戸町から池田町まで、南は大垣市割田町あたりまで延びるとされる。安八郡の条里復元については、これまでも多くの研究の蓄積がある。安八郡条里の研究は、古代から中世にかけて大垣市に存在したとされる東大寺領大井荘の研究史とほぼ同義と捉えられており、『大垣市史上巻』（大垣市1930）と中村直勝氏論文（中村1932）による大井荘研究に始まる。さらに、『新修大垣市史』（大垣市1961）、『岐阜県史』（岐阜県1971）が大井荘について大きく取り上げた。条里や四至については『新修大垣市史』と水野時二氏（水野1971）の復元案がある。足利健亮氏は、1万分の1の地図上で小字を復元し、条里畦畔をトレースした図を元に復元案を作成（足利1997）し（以下、『足利案』とする。）、『大垣市遺跡詳細分布調査報告書解説編』（大垣市1997）において示している。近年の研究では、竹谷勝也氏（大野町教育委員会）による研究成果があげられる。竹谷氏は、『大野の条里 条里編・解説編』（大野町2011）の中で、『足利案』で示された大井荘の領域に即し、永仁3年（1295）「大井荘実検馬上取帳案」の1条を安八郡条里13条、同じく1里を安八郡条里3里として、残存する畦畔を順に数え、条・里の交点を丹念に確認することで、復元案を示した。さらに、『大垣市史 通史編 自然・原始～近世』（大垣市2013）の中で、安八郡条里が美濃では例外といつてよいほど旧村境との不一致がなほなだしい点や、安八郡のみ隣接郡との条界とずれている点について、保元の荘園整理の結果であろうという見解を示している。そして、大井荘北部については『足利案』の通りであるが、大井荘北限より北側の地域では、本来の安八郡条里の条界は『足利案』より1町北であったと考えられると結論づけた。詳細については、『大垣市史 通史編 自然・原始～近世』を参照されたい。これまで行われてきた研究は歴史地理学におけるものが中心であった。

今回は、竹谷氏の研究成果と発掘調査の成果を比較しながら、北方京水遺跡周辺の条里地割について検討してみたい。図101は、1948年に米軍が撮影した空中写真（1/5,000）である。空中写真では、北方京水遺跡周辺の土地利用について正確に判別することは難しいが、今回の発掘区の周りには集落は存在していない。よく見ると所々に自然流路の跡も確認できることから、中世に限らず近代以降も河川の氾濫があったと推測できる。東側に位置しているのが、現在の北方集落である。今回の発掘区について、図101をさらに拡大（1/800）したものが図102である。今回の発掘区の遺構図と、大垣市調査の発掘区及びSD1を重ね合わせたものである。重ね合わせる際には、調査で検出した現代水路が1948年の写真でも確認することができることから、発掘区の位置を設定するために現代水路の位置を基準として使用した。

竹谷氏の復元案と今回の調査成果を順に比較する。図 103 は、図 102 に竹谷氏が坪境として示した畦畔（黄色で表示、以下、『竹谷案』とする。）を重ね合わせたものである。まず、南北方向の大畦畔 SM3 の位置であるが、『竹谷案』が示した畦畔の延長上で確認された。次に、東西方向の大畦畔 SM1 である。こちらは、『竹谷案』より約 20m 北側で検出した。『竹谷案』の位置も発掘区になっているが、その位置では大畦畔は検出されなかった。また、SM1 の位置は第 2 面においても地形の変化点であることが確認されており、第 1 面で大畦畔が作られる位置として適当であると考えられる。

そこで、今回検出された SM1 と SM3 の位置を基点として、北方京水道跡周辺の条里について検討を行ったものが図 104 である。1948 年に米軍が撮影した空中写真（1/5,000）上に、今回の調査で検出した現代水路の位置を基準として使い、重ね合わせた。その上で、SM1 と SM3 の交点を基点として、条里の 1 町（約 109m）方格ごとに区画の線（赤線）を置いた。すると、以下のようなことが見てくる。

まず、SM1 を東側に延ばしたラインの位置に注目すると、ちょうど集落を区切る位置にきているのが分かる。また、SM1 を西側に延ばしたラインや SM1 の 1 町北側・2 町北側に引いたラインの位置も、ともに太い水路の位置にあり、今回の発掘区周辺においての東西方向のラインが適当な位置にきているといえる。

次に、「中山道」との位置関係に注目したい。今回引いたラインは中山道の上には乗らず、北に約 30m ずれる。特に西側では、『竹谷案』のラインの方が、より適当な位置にきている感じを受ける。しかし、東側の安八郡三ツ屋集落周辺に焦点を当てると、三ツ屋集落北側の水路の位置にちょうどラインがくる。また、三ツ屋集落の背後より一町北にも水路が設けられており、今回引いたラインもちょうどこのあたりにくる。三ツ屋集落の背後から条里の区画を考えると、今回引いたラインが適当であると考えられる。

以上のことから、遺跡周辺、特に三ツ屋集落北側においては、今回引いたラインが、いずれかの時期において、土地の区画とされた可能性があるのではないかと考える。ただ、三ツ屋付近は、幅 20～40m ほどの東西方向の帯状の地割がいくつも設定されているため、いずれが坪境の畦畔か判断することが難しい地域である²⁾。様々な可能性が考えられるので、今後の調査を待ちたい。

最後に、SM1 の性格について検討してみたい。SM1 の位置は、先ほど述べた「本来の安八郡条里の条界はこれまでの復元案より 1 町北であった」という竹谷氏の考えをとると、ちょうど安八郡条里の 9 条と 10 条の境の位置にくる畦畔、つまり条界の大畦畔ということになる。SM1 は幅が約 5m で、道路として使われていたと考えられる³⁾ことから、SM1 は条界の大畦畔であったと言ってもよいのではないだろうか。

今回の調査では、条里の 1 町方格を区画すると思われる大畦畔を南北方向、東西方向と同時に確認することができたことで、当遺跡周辺の条里について検討することができた。条里については、まだ解決できていないことも多く、安八郡条里についても同様である。今回、引いたラインはあくまで考察の 1 つであり、現時点では課題は残ったままだといえる。今後、更に条里研究、及び発掘調査が進み、北方京水道跡周辺の条里地割についての全容が明らかになることを期待してやまない。

注

- 1) 条里地割等の用語については、金田章裕「序章 条里とは何か」『大野の条里』にならった。
- 2) 太田三郎・竹谷勝也 2011「第 4 章 第 3 節 4. 東山道と条里」『大野の条里』大野町教育委員会
- 3) 三重大学名誉教授八賀氏のご教示による。



1948年米軍撮影の空中写真

図101 1948年における発掘区周辺の土地利用状況



図102 坪境大畦呼位置図(1)

1948年米軍撮影の空中写真



図103 坪境大塚位置図（2）

1948年米軍撮影の空中写真

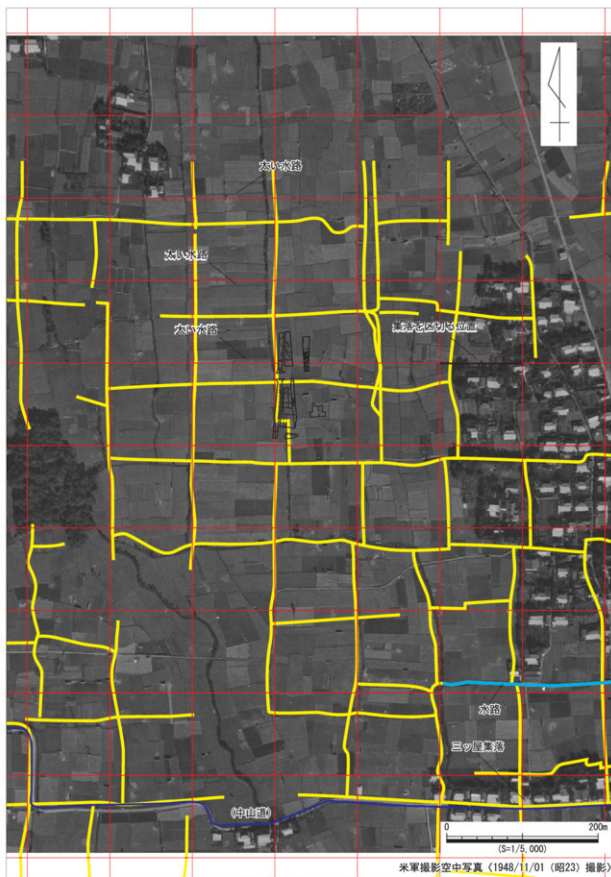


図104 北方京水遺跡周辺の条里地割推定図

〈引用・参考文献〉

- 青森県埋蔵文化財調査センター1985『垂柳遺跡発掘調査報告書』
- 秋山高志他1991『図録・農民生活史事典』、柏書房
- 宇野隆夫2001『荘園の考古学』、青木書店
- 江浦洋1991「条里制施行の初段階とその背景-八尾市・東大阪市所在池島・福万寺遺跡を中心に-」『大阪文化財研究-創刊号-』
- 江浦洋1992「水田面に残る足跡と農耕具痕」『大阪文化財研究-20周年増刊号-』
- 大垣市1968『新修大垣市史通史編』1、臨川書店
- 大垣市2011『大垣市史 考古編』
- 大垣市2013『大垣市史 通史編 自然・原始～近世』
- 大垣市教育委員会1997『大垣市遺跡詳細分布調査報告解説編』
- 大垣市教育委員会2004『大垣市埋蔵文化財調査概要 平成14年度』
- 大垣市教育委員会2012『大垣市埋蔵文化財調査概要 平成22年度』
- 大垣市役所編1930『大垣市史上巻』
- 大阪狭山池市教育委員会2014『ため池築造と偉人 狭山池シンポジウム1012記録集』
- 大阪府立狭山池博物館2010『大阪府立狭山池博物館常設展示案内』
- 太田三郎・竹谷勝也2011「東山道と条里」『大野の条里 大野町遺跡詳細分布調査報告書条里編・解説編』(大野町文化財調査報告書第6集)、大野町教育委員会
- 大野町教育委員会2011『大野の条里 大野町遺跡詳細分布調査報告書条里編・解説編』(大野町文化財調査報告書第6集)
- 岡山県古代吉備文化財センター2002『百間川米田遺跡4』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書164)
- 岐阜県1971『岐阜県史』通史編古代、大衆書房
- 岐阜県地方気象台編1996『岐阜県災異誌』、岐阜県郷土資料研究協議会
- 岐阜県文化財保護センター2014『荒尾南遺跡C地区』(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第129集)
- 金田章裕1989「東大寺領美濃国大井荘の条里プランと土地利用」『地域学研究』、駒沢大学
- 工楽善通1991『水田の考古学』、東京大学出版会
- (財)愛知県埋蔵文化財センター1994『室遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第49集)
- (財)岐阜県文化財保護センター1998『今宿遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第37集)
- (財)岐阜県文化財保護センター2005『柿田遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書 第49集)
- 高木勇夫2004「明治以前日本水害史年表」『慶應義塾大学日吉紀要』
- 竹谷勝也2011「美濃国西部の条里」『大野の条里 大野町遺跡詳細分布調査報告書条里編・解説編』(大野町文化財調査報告書第6集)、大野町教育委員会
- 永井久美男編1994『中世の出土銭 出土銭の調査と分類』、兵庫県埋蔵銭調査会

- 中村直勝 1932「東大寺領美濃国大井荘」上、下『史林』17
- 奈良国立文化財研究所 1984『条里制の諸問題Ⅲ』（条里制研究会記録3）
- 畑大介 1997「中世の治水と利水をめぐる考古学的課題」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第8集』
- 畑大介 2010「引張り構造をもつ護岸施設の展開」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第14集』
- 水野時二 1971『条里制の歴史地理学的研究』、大明堂
- 藤澤良祐 2007『愛知県史 別冊 窯業2 中世・近世 瀬戸系』



A地区 第1面（北から）



B地区 第2面（北東から）

图版 2 A地区遺構 (1)



SD25-SD26



SD25-SD26 土層断面



SD26



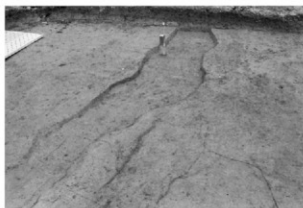
SD26 土層断面



SD28



SD28 土層断面



SD33



SD35



SD36



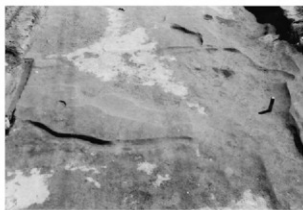
SD36 土器出土状況



SD37 木製品出土状況



SD37 土層断面

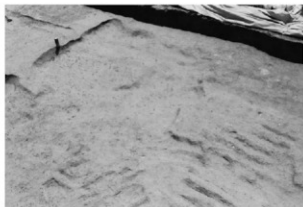


SD37

图版 4 A地区遺構 (3)



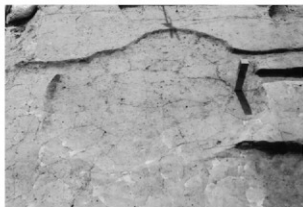
SK05 土層断面



SK05



SK25 土器出土状況



SK43



SK44



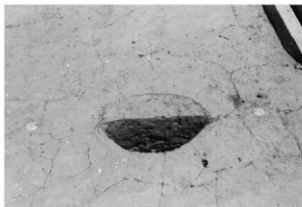
SK44 土器出土状況



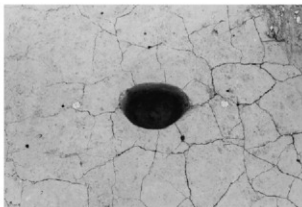
SK46



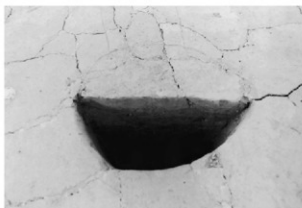
SK48



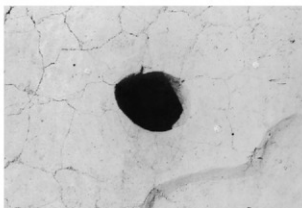
SP1 半割状況



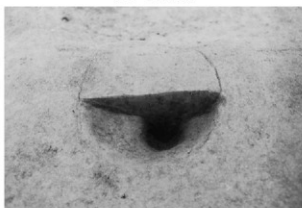
SP1 完掘状況



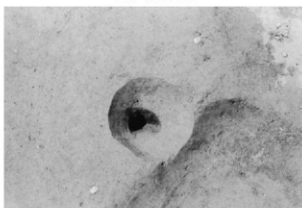
SP2 半割状況



SP2 完掘状況



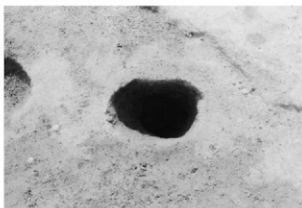
SP3 半割状況



SP3 完掘状況



SP4 半割状況



SP4 完掘状況

図版6 B地区1面遺構(1)



SD39



SD57 水口



南西部坪境畦畔(南から)



北部大畦畔(東から)



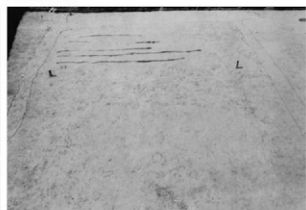
北部大畦畔(南西から)



SN10 鋤溝・足跡検出状況



SN10 鋤溝・足跡検出状況



SN10 鋤溝・足跡検出状況



SN03 東畦畔



SN03 南畦畔

図版8 B地区1面遺構(3)・2面遺構(1)



SN03 南畦畔



SN06・SN08 区画畦畔



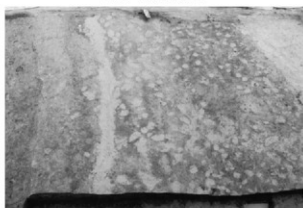
SN08 区画内鋤溝



SN23 東畦畔水口



SN51 区画鋤溝



SX1



SN52 東畦畔土層断面(北西から)



SN51 東畦畔水口

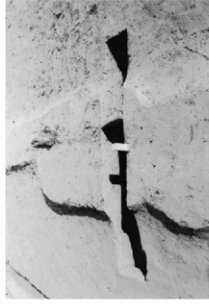
图版 9 B地区2面遗構(2)



南西部坪境畦群(南西小5)



南西部坪境畦群



南西部坪境畦群断面



南西部坪境畦群



南西部坪境畦群



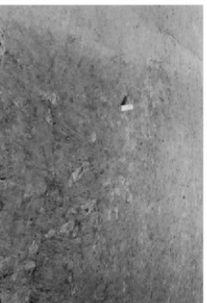
B地区南部蛙跡出土状況 (重から)



B地区南部蛙跡出土状況 (南重から)



SNS9 青蛙跡土層断面



足跡出土状況



SNS6 足跡出土状況



SNS2 足跡出土状況



B地区南部北壁



B地区南部南壁



水制遺構調査状況(北西から)



水制遺構調査状況(東から)

図版 12 B地区水制遺構 (2)



SR1 断ち割り土層断面 (西から)



SR1 盛り土検出状況 (北西から)



SR1 草敷アップ (北東から)



SR1 上層草敷検出状況 (北西から)



SR1 中層草敷検出状況 (北西から)



SR1 中層草敷検出状況 (北東から)



SR1 下層草敷検出状況 (北西から)



SR1 盛土内畜串検出状況 (北東から)

図版 13 B地区水制遺構 (3)



SR1 構造物発出状況 (北西から)



SR1 東壁土層断面 (西から)



SR1 西壁土層断面 (東から)



SR2 東壁土層断面 (西から)



SR2 盛土発出状況 (北西から)



SR2 盛土発出状況 (北西から)



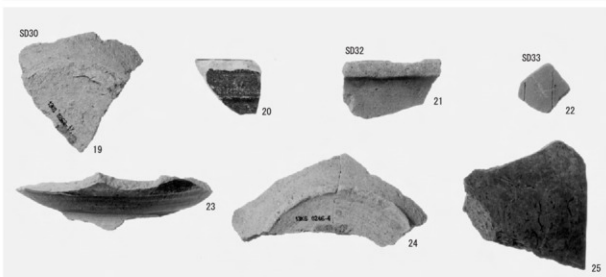
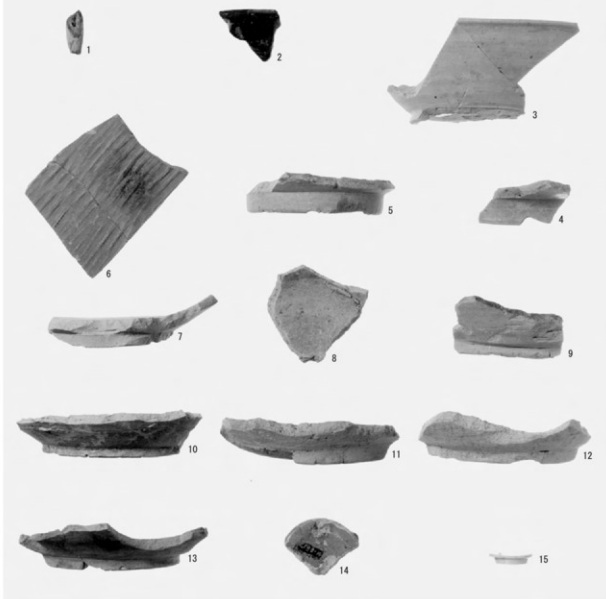
SR2 構造材発出状況 (北から)

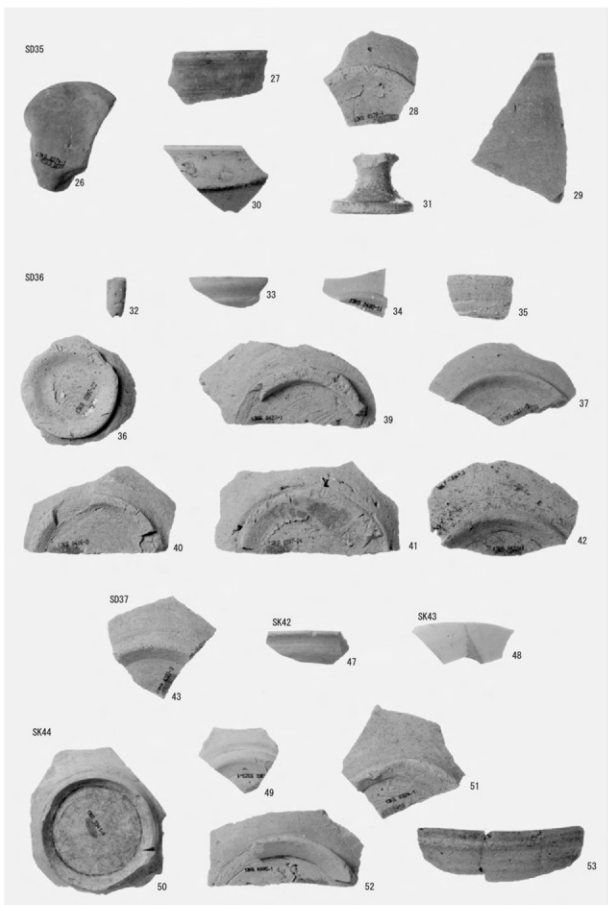


SR2 東壁土層断面 (西から)

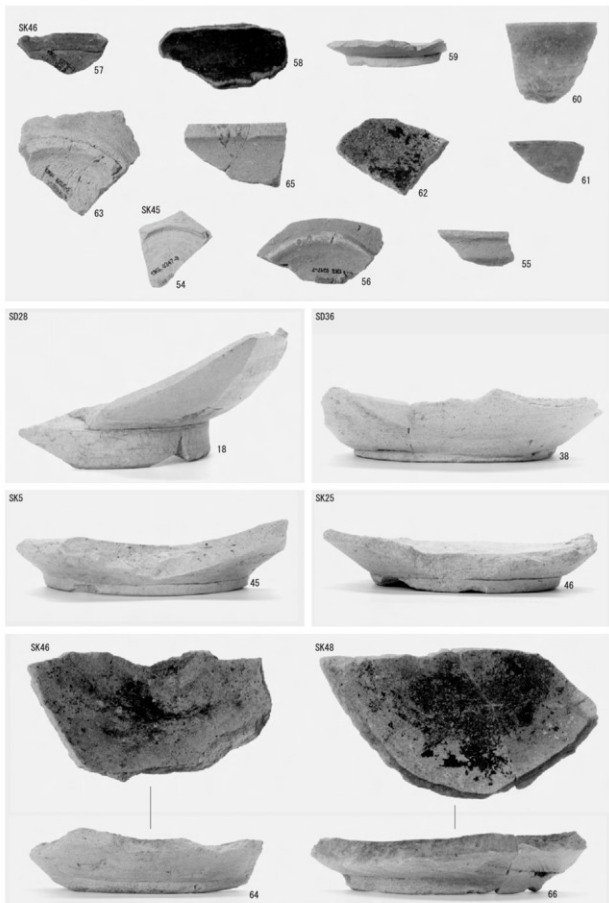
图版 14 出土遗物：A地区包含层·遺構

A地区包含層





图版 16 出土遗物：A 地区遗物

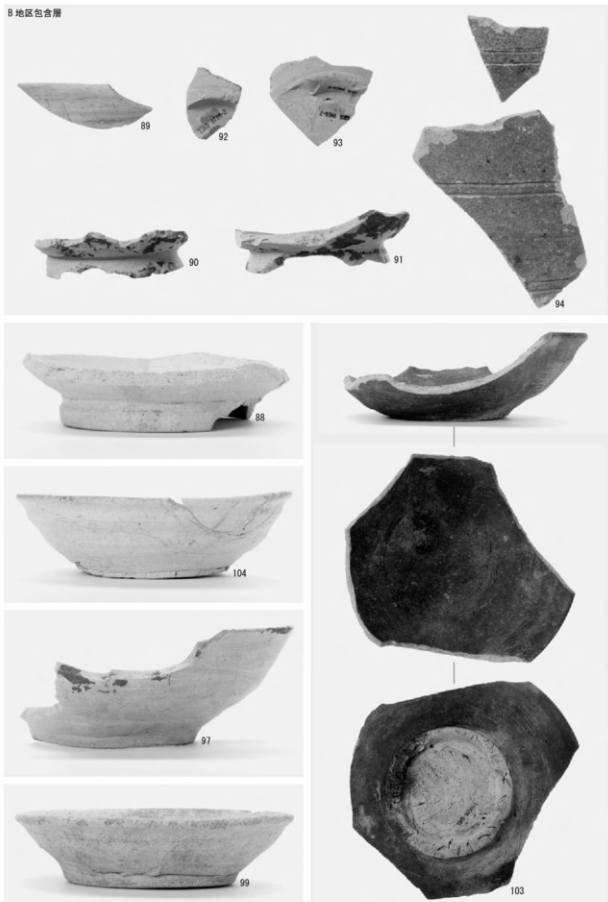


B地区包含层

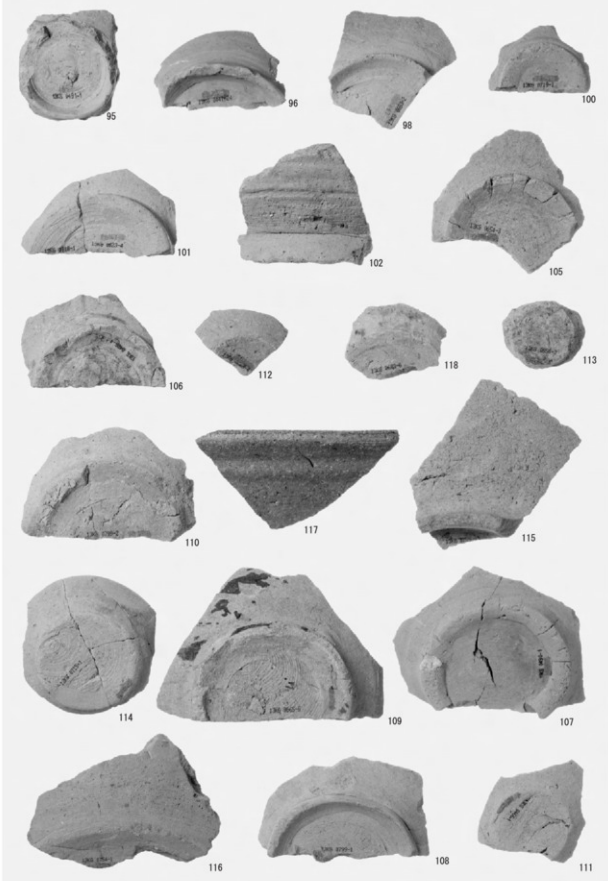


图版 18 出土遗物：B地区包含层

B地区包含层

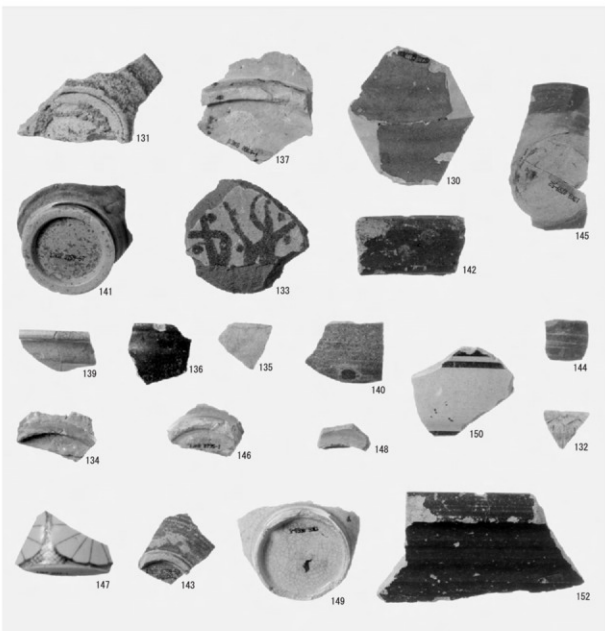
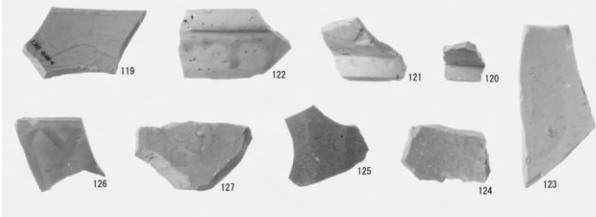


B地区包含层

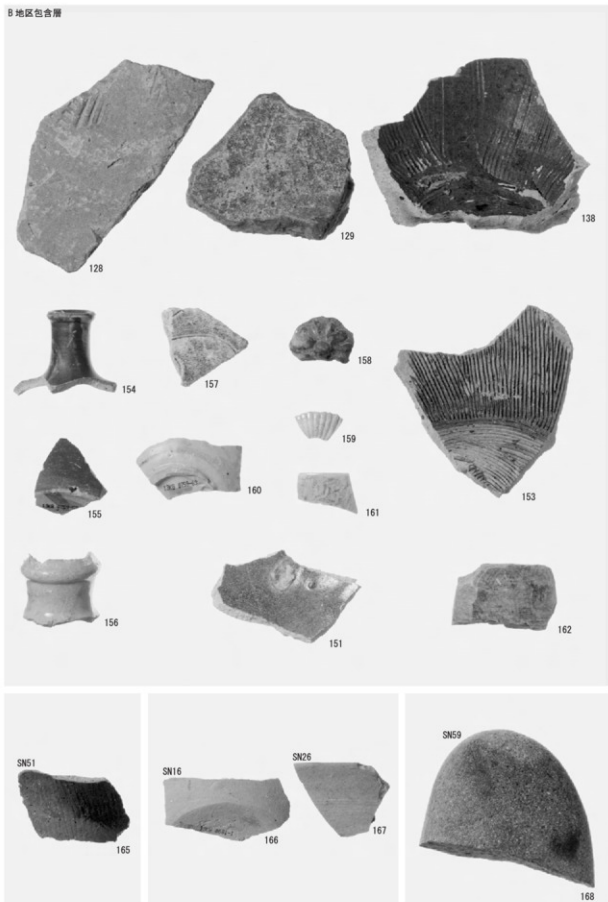


图版 20 出土遗物：B 地区包含层

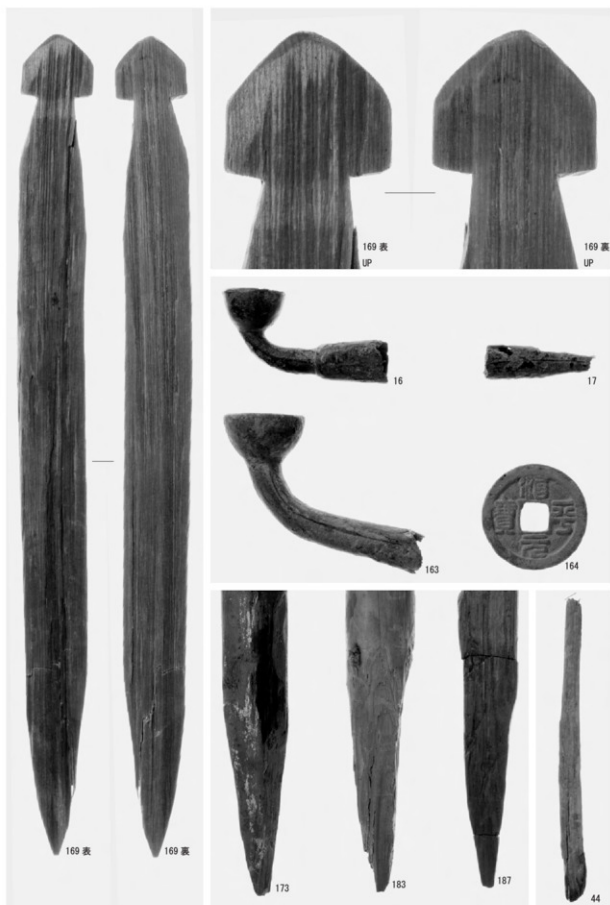
B 地区包含层



B地区包含层



図版 22 出土遺物：木製品・金属製品



報告書抄録

ふりがな	きたがたきょうずいせい							
書名	北方京水遺跡							
副書名								
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書							
シリーズ番号	第133集							
編著者名	笠井慎吾							
編集機関	岐阜県文化財保護センター							
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 Tn058-237-8550							
発行年月日	2015年3月6日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
きたがたきょうずいせい 北方京水遺跡	ぎふけん 岐阜県 おおいほろし 大垣市 きたがたきょう 北方町	市町村	遺跡番号	35° 23′ 47″	136° 36′ 35″	20130527 ～20131213	2,650 m ²	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
北方京水遺跡	集落跡 水田跡	鎌倉時代	溝 土坑 柱穴 大畦畔 水田遺構 水制遺構 自然流路 など	82条 61基 4基 5条 72基 2基 2条 など	土師器 須恵器 灰釉陶器 山茶碗 中近世陶磁器 石器・石製品 金属製品 木製品	647点 31点 121点 1,468点 572点 21点 17点 243点	鎌倉時代初期の 集落跡と、2面の 水田遺構を検出。 また、条里地割に 伴う大畦畔を検 出。	
要約	<p>北方京水遺跡は鎌倉時代を主とする集落跡、水田跡である。今回の調査では、集落跡（A地区）と水田跡（B地区）を調査した。A地区では、溝や土坑などを検出し、山茶碗を中心とする遺物が多数出土した。B地区では、区画の異なる2面の水田遺構や、自然流路内で「敷葉工法」によって構築された2基の水制遺構を検出した。水制遺構の盛土の基底面では祭祀に使われたと思われる斎串が出土している。</p> <p>B地区の水田遺構では、第1面・第2面の両面において水田面を覆う洪水堆積層を確認した。第2面では、自然地形に沿った水田の区画がなされているのに対して、第1面では条里地割に沿った水田の区画がなされており、洪水によって水田面が砂層で覆われた後に、大がかりな造成工事が行われているようである。</p> <p>B地区第1面北側では、幅約5mの南北方向の条界の大畦畔を検出し、南側では、第1面と第2面で位置を変えない南北方向の坪境大畦畔を検出した。</p>							

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第133集

北方京水遺跡

2015年3月6日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印刷 株式会社もとすいんさつ